

映像新聞

平成28年（2016年） 11月14日 第2263号

株式会社 映像新聞社
112－0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話（03）3942－2161（代表）
ファックス（03）3942－2581
毎週月曜日発行（月4回発行）
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可
1部600円、年間購読料26,000円（税別）

Eizoshimbun 50th Anniversary 50th SINCE 1966

Visual Communications Journal

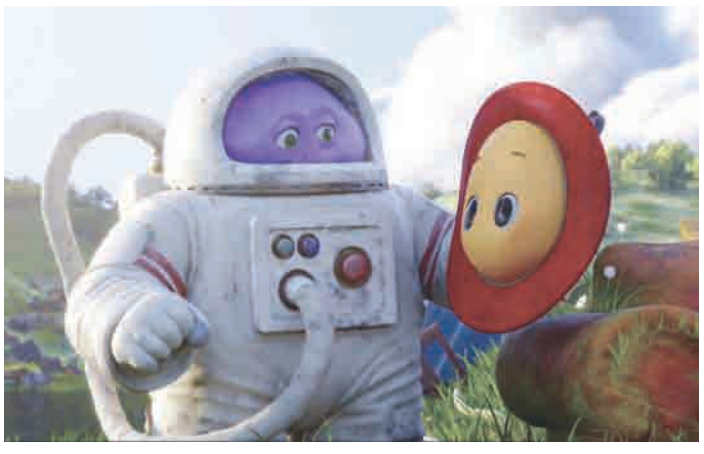
©映像新聞社

4K HDR CGアニメ制作

難関コンテンツへ先陣

WOWOW／クラフター

映画「ムーム」のスピンオフ



WOWOW、クラフターが共同制作した4K HDRによる3D CGアニメ『ムーム はじまりの物語』

WOWOW（東京都港区）は、アニメーションスタジオのクラフター（東京都港区）と共同で、フル4K HDR制作の3D CGアニメ『ムーム はじまりの物語』（3分30秒）を制作した。現在フル4K HDRでCGアニメを制作した例は過去に見当たらないことから、先陣を切って取り組むことにした。同アニメは、「Inter BEE 2016」（11月16－18日／幕張メッセ）のソニーブースにおいて、大型LEDディスプレー「CLEDIS」による4K HDR映像デモの中で上映される。

フル4K HDRによる3DCG制作は非常にハードルが高い。HDに比べて4倍の情報量である4K、さらに光の表現を駆使するHDRを3D CGで実現する場合、レンダリング時間が膨大になるからだ。

今回はHDRならではの階調性を得るために、Open EXR 16ビット浮動小数点形式というファイルフォーマットで演算・納品をしているため一段とその難易度は増している。

4K HDRコンテンツについては、スポーツ、音楽ライブ、ドラマ、ドキュメンタリーといったジャンルのものは、これまでWOWOWを含めて、放送事業者を中心に数々の制作実績がある。

今回、WOWOWが取り組むことにしたのは、いわゆる「アニメーション」において、企画制作段階から一貫してネイティブでフル4K HDRレンダリングした例が、あまり報告されていなかったからだ。

またCGのHDRは、理想的な輝度情報をカメラ特性やノイズの影響を受けずに実現できるため、実写にはない新たな世界観を生み出せる可能性があるという判断もある。

新たな世界観を実現

『ムーム はじまりの物語』は、ロバート・コンドウ監督と堤大介監督の新作短編アニメーション映画『ムーム』の前日譚（たん）となるスピンオフ作品。『ムーム』は、日々湖に打ち上げられるガラクタについてくる「思い出」を空におくる仕事をしているケネディと、帽子の思い出「ムーム」の物語である。

そのストーリー性の高さ、キャラクターの愛らしさが相まって、日本のアニメ作品の良さが凝縮されたコンテンツであることから、WOWOWがスピンオフ作品の制作を打診した。

今回の前日譚もロバート・コンドウ監督と堤大介監督、そして、原作の川村元気氏が脚本を手掛けた。CG制作はマーザ・アニメーションプラネット（東京都品川区／以下、マーザ）が担当している。

『ムーム』でアートディレクターを担当している長砂賀洋氏が制作したストーリーボードを元に、脚本にないディテールを加えている。

〈3面に続く〉

マーザのロハス・マヌエル氏がライティングの指針を作成。アニメーターが制作した簡易的な3D CGアニメーションに、同氏がラフなライティング、コンポジットを実施して作品全体の構成をまとめた。

プロダクションエンジニアである脇坂拓氏は今回の制作について「映画『ムーム』の前日譚であり、既にあるキャラクター、背景などが再利用できたことから、スムーズに4K HDR作業に入ることができた」と話す。

またここではマヌエル氏が、朝から日中、夜という作品の1日の中の場面を構成するとともに、脚本にないディテールを加えている。

〈3面に続く〉

Inter BEE 2016 特集

International Broadcast Equipment Exhibition

11月16－18日　千葉・幕張メッセで開催

本号の主な記事

［Inter BEE 2016特集］
展示会の見どころ ……18–19
各社の出展概要 ……20–52
イベント案内 ……53–59
出展者一覧 ……60–61
展示会場の案内図 ……62–66

［プロダクション］
クロスコが多目的スタジオを開設 ……2
NHKがルーブル美術館と共同で8K映像作品制作 ……3

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから







クロスコ

MA室を転換
多目的スタジオを開設
映像配信とセミナーが可能

クロスコ（東京都港区）は1日、オンライン番組の収録配信やセミナー開催に対応した「エクスペリエンススタジオ」（EXS）を、六本木スタジオに開設した。

通常のポストプロダクション用MA室を、「ビジネスユーザーが動画制作のために利用できるスペース」としてリニューアルした。室内は設備の配置転換により、映像収録とライブ配信ができる座席数約15のミニ会場や、グリーンバックとバーチャルセットを使った収録配信スタジオ、通常のMA室のパターンで利用できる。グリーンバックでは5人程度の出演者による対談に対応する。

担当の高橋仁氏は開設の背景について、「MA作業は日中に行われることが多く、早朝や夜はスタジオが空いていた。同時にMA機器のデジタル化が進み、編集や仕込みはPC上で作業されることが多くなった」と説明。スペースの有効活用や、同社が拡充してきたライブ配信やウェブ動画制作の需要が伸びていることを考え、新たに多目的スタジオとして発展させた。

ユーザー対象には医療、製薬、IT、教育分野を想定する。これまでもスタジオ設備の1つ「ライブスタジオ」は医療系オンラインセミナーや映像収録で活用。「マルチスタジオ」ではe-ラーニング用動画講義映像を収録してきた。一般企業にも、夜間や朝などにセミナーをライブ配信できる環境を提供する。

スタジオ名称は、経営・ブランディング手法である「カスタマーエクスペリエンス」をもとにした。

高橋氏は、「IT企業には、自社サービスをお客様に理解、体験してもらう〝カスタマーエクスペリエンスセンター〟がある。当社のお客様にも、同様の場所を映像と連携した形で提供しようと考えた」と説明。顧客の顔ぶれも、「従来のテレビ局や制作プロダクションから、企業のマーケティング寄りに変わるのではないか」と見込んでいる。

設備は、セミナーモードではカペラシステムズの高品質ライブエンコーダー「ViSLM-H2」、モニタースピーカーにジェネレック「1037A」を設置した。

いずれも簡単にモード転換が可能。約60平方㍍というMA室としては広いスペースを備えていたことが奏功している。

今後は同社および協業会社のセミナーや勉強会も実施する。同社が提供するモバイルビデオ制作プラットフォーム「ビデオリシャス」ワークショップも開催。「スタジオと合わせ、情報発信したい方をサポートしていく」（同氏）という。


MAモード


バーチャルセットモード


セミナーモード

キュー・テックが発売

HLG版の4K評価映像
SDR、PQとの比較が可能

キュー・テックは1日、業務用4K高画質主観評価標準動画像集「QT-4000」のハイブリッドLog-ガンマ（HLG）版を発売した。

QT-4000は2015年4月に4K SDR版を発売したのち、同年9月、HDRに適したクリップからなるPQ版とした。今回、SDR版／PQ版と同じクリップおよび、夜景や宝石などの新作映像を含めたHLG版を制作した。SDR版とPQ版、HLG版を比較すれば、幅広く映像機器の特性評価ができるようになる。

カメラはソニー「F65」、5RS」、レンズはカールツァイス「マスタープライム」を使用。制作担当の小池俊久氏は、「当社の評価映像は後処理を前提とせずに制作するため、撮影時の映像品質を保つ。被写体は日常目にするものを選ぶため、主観評価ができる」と説明する。

QT-4000は既に50数社に販売。ディスプレーメーカーのほか通信企業、チップセットやLED照明関連のメーカーが利用している。

InterBEE2016では、UHDBDや8K映像とともに同社ブースで紹介。17日にはカラリストの今塚誠氏が「高忠実度HDR映像への挑戦」の題名で講演する。

日本映画テレビ技術大賞

NHK技研　西村氏が受賞
ハイブリッドキャストに貢献

日本映画テレビ技術協会は10月27日、優秀な映像制作技術を顕彰する「MPTE AWARDS 2016」を開催。最高賞の経済産業大臣賞（日本映画テレビ技術大賞）を、NHK放送技術研究所の西村敏氏による「ハイブリッドキャスト対応MPEG-DASH動画視聴プレーヤーの開発」に贈った。


大賞を受賞した西村氏

西村氏は「当初のソフトウエアに多くの放送局や企業のアイデアが組み合わさることで、私たちだけでは思いつかない魅力あるサービスになった。今後もオープンイノベーションの成功事例となるよう連携を進めたい」とあいさつした。

技術開発賞はソニープロフェッショナル・ソリューション事業本部商品企画部・設計2部「⅔型4K3CMOS搭載4KカメラHDC-4300の開発」。

映像制作技術を対象とした映像技術賞と、そのほかの主な受賞は以下のとおり。

◎映像技術賞

★撮影＝〈劇場公開〉日本のいちばん長い日／柴主高秀、〈TVドラマ〉レッドクロス～女たちの赤紙～／淺野太郎（TBSテレビ）、〈ドキュメンタリー〉ETV特集 生きると決める 何度でも～京都・大人たちの想い出草ノート～／松宮拓（NHK）、〈ニュース〉北朝鮮ミサイル発射 緊急特番／佐藤俊輔（テレビ朝日）

★照明＝〈劇場公開〉日本のいちばん長い日／宮西孝明、〈テレビドラマ〉放送90年ドラマ 鬼と呼ばれた男 松永安左ェ門／打越裕次（NHKメディアテクノロジー）

★録音＝〈劇場公開〉エヴェレスト 神々の山嶺／小松将人［録音］伊藤瑞樹［音響効果］

★美術＝〈劇場公開〉駆込み女と駆出し男／原田哲男、〈放送〉TBSテレビ60周年特別企画 日曜劇場「天皇の料理番」／大木壮史、松野忠雄（ともにTBSテレビ）

★編集＝〈劇場公開〉天空の蜂／伊藤伸行

★アニメーション＝「団地ともお」スペシャル～夏休みの宿題は終わったのかよ?ともお～／「団地ともお」3DCG制作チーム（小学館ミュージック&デジタルエンタテイメント）

★VFX＝NHKスペシャル「生命大躍進」／「生命大躍進」CG／VFX制作チーム（NHK）

★OAG＝M-1グランプリ2015／村越順司（朝日放送）、加藤喬、平戸淳正（テレビ朝日）、丹羽央幸、永田晃、菅野夏木、羽田野英治、林道大輔（テレビ朝日クリエイト）

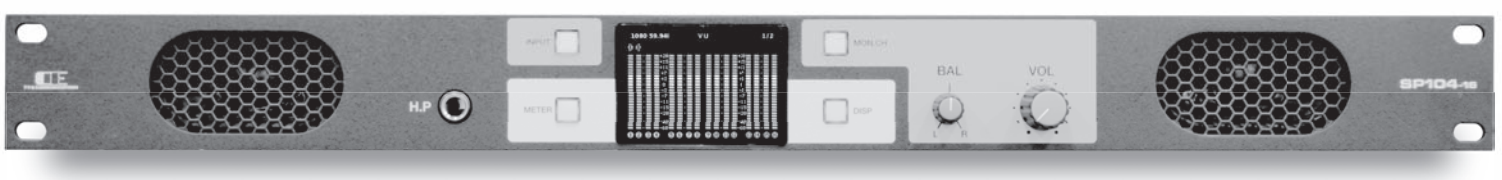
◎柴田賞＝石原徹也（NHK名古屋放送局技術部、広島放送局時の原爆関連番組、野球選手イチローの取材実績に対して）

◎小倉・佐伯賞＝浜田宏（毎日放送制作技術OB、「映画テレビ技術」掲載「いい音の条件」）

視聴ソフトを業界連携で開発

3G/HD/SD-SDI,AES　16チャンネル対応オーディオモニタ

SPシリーズ　スタンダード16チャンネルモデル　　2016年12月　発売



SP104-16　希望小売価格　170,000円（税別）

●2.4型LCD採用，26セグメント3色バーグラフによるレベル表示の他、入力選択状況、フォーマットの状況、モニタリングの状況等を表示
●画面表示は1～8ch，9～16ch，1～16chの切換式　●入力は3G-SDI，HD-SDI，SD-SDI，AES/EBU×4ch
●出力は3G/HD/SD-SDIアクティブスルー，AES/EBUアクティブスルー，デマルチプレクス（AES×4ch），アナログ選択（600Ωバランス）
●5.1chダウンミックス モニタリング機能　●無音検知出力を装備
●16チャンネルすべてにデジタルオーディオ信号の有無を表示
●暗所でも操作し易い照光式スイッチを採用
●パワフルでクリアな音質のモニタスピーカ（4W+4W）ヘッドホン出力装備

Inter BEE 2016　各種新製品　実機展示いたします。
11.16水 ≫ 18金 幕張メッセ　ホール3　ブースNo: 3502 にておまちしております。

株式会社 コスミックエンジニアリング　●お問い合わせは本社営業部まで　tel 042-586-2933
〒191-0065　東京都日野市旭が丘3-2-11　tel 042-586-2933（代表）　http://www.cosmic-eng.co.jp/　mail: c1000@cosmic-eng.co.jp

NHK ルーブル美術館と8K共同制作
「モナ・リザ」など名作9点
高色域 HDRで撮影
ルーブルは4K化して館内利用

NHKは7日、フランスのルーブル美術館と国際共同制作した8K映像作品「ルーブル 永遠の美」のプレス向け試写会を開いた。この作品は、収蔵する名作を8Kで撮影したいというルーブル側の意向を受け、昨年12月に国際共同制作の契約に調印したもの。彫刻と絵画の計9点と館内風景を8K／広色域／HDRで撮影。60分版と10分版を制作している。音楽は千住明氏の作曲によるオリジナル楽曲で22・2ch。NHKは同作品を4K・8K試験放送で流す予定。ルーブル美術館は同作品を4K化して館内で利用するほか、8Kのパブリックビューイングも検討している。

「ルーブル 永遠の美」で8K撮影されているのは、「サモトラケのニケ」「ミロのヴィーナス」、フラ・アンジェリコ「聖母戴冠」、ヤン・ファン・エイク「宰相ロランの聖母」、フェルメール「レース編む女」、レンブラント「ダビデ王の手紙を手にしたバテシバ」、カノーヴァ「アモルの接吻でよみがえるプシュケ」、ジャック・ルイ・ダヴィッド「ナポレオンの戴冠」、レオナルド・ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」――の9点。

「ルーブル 永遠の美」は、美術館内のグランドギャラリーの風景からスタート。華麗な天井彫刻からクレーンダウンすると壁を埋め尽くす名画が現れる。

「聖母戴冠」はイタリアの画家フラ・アンジェリコ作の15世紀の宗教画の傑作。天上の世界でキリストが聖母マリアに冠を授ける場面が描かれている。8K HDRの映像は、惜しげもなく使われた黄金と、青いラピスラズリ（藍青色の鉱物）の輝きを映し出した。「黄金は天国の栄光の象徴」という。

「宰相ロランの聖母」は縦60㌢あまりの小さな画面に描かれた15世紀の作品。巨万の富を誇ったブルゴーニュ公国の権力者、宰相ロランと向かい合う聖母マリア、幼子キリストが写実的に描かれている。

ロランの敬虔（けいけん）な祈りが神をも出現させたという設定だ。聖母マリアがまとうビロードの真紅のマントは塗り重ねた色で本物さながらの質感を現している。

同作品の撮影は今年1月に10日間実施した。カメラは、HLG（ハイブリッド・ログガンマ）のカーブを導入した単板8KカメラSK-UHD8060」を使用。レンズはシネマ用の「マスタープライム」をはじめ、マクロレンズ、8K標準レンズを使っている。

現場ではガラス越しに作品を撮影する際、映り込まないよう照明を工夫している。

撮影映像の確認は30型4K液晶モニターで実施。85型の8Kモニターを持っていくことも考えたが、モニターに8K映像をダウンコンバートして表示することにした。同4Kモニターでは8Kの¼の映像を表示できるので、それでフォーカスを確認した。

収録は1筐体に256ギガバイトのエキスプレスP2カード4枚を装填できる5Uほどの収録再生機を使用。これは8K映像を1時間（8K／60p）収録できるものだ。

ポストプロはNHK放送センター内の8K編集室で実施。カメラの揺れの補正、照明で明るくなり過ぎた壁のグレーディングなどの調整をしている。

セッティングと撮収を繰り返す必要があり、4Kモニターに8K映像をダウンコンバートして表示することにした。同4Kモニターでは8Kの¼の映像を表示できるので、それでフォーカスを確認した。

収録は1筐体に256ギガバイトのエキスプレスP2カード4枚を装填できる5Uほどの収録再生機を使用。これは8K映像を1時間（8K／60p）収録できるものだ。

ポストプロはNHK放送センター内の8K編集室で実施。カメラの揺れの補正、照明で明るくなり過ぎた壁のグレーディングなどの調整をしている。

WOWOWとクラフターが4K HDRで3D CGアニメ
32ビットRAWデータにPQ処理
1000nits以上の表現幅

〈1面から続く〉

通常であれば2Dのマットペインティングを使う雲もHDRを考慮して3Dモデルから作り、微妙な明るさの情報も持たせたという。画面の奥行情報を非常に豊かに感じるのは、その効果もあると思われる。

こうしてできたCGデータを3DCGアニメ制作ソフト「Maya」でレイヤーごとに4Kレンダリングを実施。この4K CGデータをコンポジットソフト「NUKE」で32ビットのリニアでコンポジションし、1つのCG映像にまとめた。

そして同4K 3DCG映像をソニーの有機ELモニター「BVM-X300」に表示し、マヌエル氏がNUKEを使ってHDR上での明るさの調整をしている。

ここでは32ビットRAWのCGデータをPQカーブのEOTF（Electro-Optical Transfer Function）特性に対応させた状態でBVM-X300で確認。ハイライトや暗部のディテールが損なわれないよう輝度・コントラストを整えた。

脇坂拓氏は「出力デバイスの進化にも対応できるよう、明るい部分はBVM-X300が出力できる輝度よりも明るくなるように作っていた。リニアで作業をしているので、1000nits以上の表現の幅を持っている」と話す。

なおNUKEには現状PQカーブへの変換機能がサポートされていないことから、脇坂氏が自らルックアップテーブルを作って対応している。

このルックアップテーブルを、OpenColorIOというCG業界では標準になりつつあるカラーマネージメントシステムに上に組み込む形で表示できるようにした。

OpenColorIOに組み込んだことで、RV（オードデスク）など各社のプレーヤーで、レンダリングしたCGを読み込んでもHDRで出力できるという。

こうしてNUKEでPQカーブを埋め込んだ4K 3DCGデータをIMAGICAに持ち込み、最終調整をして完パケを作成している。

同作品のテクニカルプロデューサーを務めた、WOWOW技術局技術企画部エグゼクティブエンジニアの篠田成彦氏は「完パケ作業では、シーンリニアではなく、マーザの意図したルックのPQ処理された納品ファイルを『オンセットグレーディング済みの撮影データ』と見立て、堤監督の指示のもと最終グレーディング処理をしている。この手法が各々のクリエイティブを担保する上で非常に良い結果をもたらしていると思う」と話す。

WOWOWでは今後、画質評価用としての利用方法も検討。また、本編の『ムーム』が世界各国の映画祭で既に24個もの受賞を果たしていることから、今後何らかの形で上映の機会を設けたい考えだ。



マーザ・アニメーションプラネットの（左から）脇坂拓氏、ロハス・マヌエル氏、プロデュース部映像制作課課長の森下健太郎氏

SONY

SD Card for Professional
2SF-64P

曲げやひねりに強い堅牢設計



挿抜時に繰り返し加わる負荷の影響を低減する業務用SDカード

64GB×2枚
ケース入り



曲げ強度テスト*



ひねり強度テスト*



＊：メモリーカード内部に樹脂を充填することで、当社民生用SDメモリーカードに対し、約10倍の曲げ強度、約7倍のひねり強度を実現しています。

当社の試験結果に基づくものであり、ご使用条件の環境により全てのメモリーカードのデータを保証するものではありません。また、ソニーはいかなる場合も第三者が実施する類似の試験により生じた損害について責任を負いません。

お問い合わせは
ソニービジネスソリューション株式会社 プロメディア営業部
東日本営業所：東京都港区港南1-7-1 Tel. 03 (6748) 3033
西日本営業所：大阪府大阪市北区堂島2-4-27 Tel. 06 (4796) 9603
sony.jp/pro-media/

ATLONA
Connecting Technology

進化した次世代のネットワークAV伝送

OmniStream™



OmniStream Line-Up

Inter BEE 2016
11.16 水 ⋙ 18 金 幕張メッセ
展示ホール2
ブース No. 2205

ONKYO TOKKI LTD.
音響特機株式会社は、ATLONA社の国内正規輸入代理店です。
東京都中央区小伝馬町10-1 CSSビルディング3F
TEL: 03-3639-7800 FAX: 03-3639-7801
http://otk.co.jp

スカパーJSAT

第2四半期決算説明会

前年同期比で減収増益

有料多ｃｈ事業は７億円減

スカパーJSAT（東京都港区）は4日、第2四半期（第2Q）決算説明会を実施し、高田真治社長が概要を説明した。第2Q連結決算の概要は、前年同期比で減収増益。上期に打ち上げ予定であった防衛省から受注したTFI事業（民間が事業主体の公共事業）の衛星1号機が、南米の打ち上げ場所への移送中に損傷する事故が発生。これに伴い、衛星調達にかかわる返済開始時期も遅れることが確定的となったため、変動金利から固定金利にスワップする契約を解約する。これによりデリバティブ評価損として8億円を特別損失として計上した。

第2Q累計は営業収益が793億円（3%減）、営業利益は110億円（1・8%増）、純利益は70億円（0・3%減）となった。

セグメント別連結業績の推移（15年度1Q―16年度2Q）では、営業収益は有料多ｃｈ事業が298億円で、前年同期（306億円）から7億円、宇宙衛星事業は127億円で前年同期（130億円）から3億円のそれぞれ減収となった。

営業利益は有料多ｃｈ事業は10億円で前年同期（7億円）からの増収、宇宙衛星事業は39億円で前年同期（44億円）からの減益である。

有料多ｃｈ事業の2Q累計の新規加入件数は17万4000件で、前年同期（22万6000）から5万2000件下回った。純増数はマイナス3万7000件で、9月末の累計加入者数は344万6000件となった。ARPU（加入者1人あたりの月額視聴料収入）は前年同期から64円下がった2159円、SAC（新規加入者獲得費用）は3万7882円と前年同期（3万5255円）から減少した。

有料多ｃｈ事業の営業収益は、約10億円減少の253億円。国内衛星通信サービス収入はVSATの利用拡大などによって2億円増加したが、インドネシアやロシアなどの海外顧客の利用減によって10億円減少。営業費用は約4億円減少の168億円。これは衛星減価償却費が2億円、衛星事業原価などが3億円それぞれ減少したものだ。

高田社長は第3Qの加入促進施策についても説明。新たな販路として立ち上げたFTTH事業「光コラボレーション」は徐々に軌道に乗りつつも、獲得件数は期待値に届いていないことから、初期費用、工事費の無償化、スカパー！新基本パック最大無料キャンペーンをそれぞれ11月から実施する。また11月1日からバスケットボールの新リーグ「Bリーグ」の新セット（2480円）の販売も開始。スカパーではBリーグの第4節以降の340試合以上を生中継する予定。Jリーグでのノウハウを生かし、会場での加入促進を図る。高田社長は「バスケットボールの競技人口は全スポーツでナンバー1だという。これまでスカパーがあまり獲得できていなかった女性、若年層からの反応が良く、手応えを感じている」と述べた。

IPリニア配信サービス拡充
低軌道衛星事業を推進

IPリニア配信チャンネル「スカパーオンデマンド」についても説明。配信チャンネルを拡大（11月1日時点で51ｃｈ）するとともに10月から口ゴ、アプリ（サービスUI）をリニューアル。リアルタイム視聴を中心とする新たな展開を進めている。9月末に目標としていた100万件を超えている。新たなサービスUIは、加入者それぞれに選んだｃｈに基づくパーソナライズされたユーザーインタフェースを提供。利用者は直感的に簡単な操作で動画視聴、ザッピング、EPGによる番組選択ができる。利用者がログインすると前回視聴していたラストのｃｈが表示され、すぐに視聴することが可能だ。

利用者の契約状態にパーソナライズされたマイパレット、番組表が表示される。番組表は過去未来合計15日間分が表示される。サムネイル画像も表示され分かりやすい。過去の番組表からは見逃し番組を再生できる。番組情報の参照だけでなく、そのまま視聴できることが特徴だ。

スカパーのアジア展開である「WAKUWAKU JAPAN」については、これまでのインドネシア、シンガポール、ミャンマーに加え、台湾と、スリランカで開局した。この5カ国で合計約690万世帯が視聴可能となっている。

台湾では複数のCATV局とIPTVプラットフォームで9月に開局した。300万世帯以上が視聴可能になっている。高田社長は「台湾は日本に対する好感度が高く、有望なマーケットと考えている。有料多ｃｈ事業に加え、日本商品の消費拡大、訪日観光客の増大などに向け、多くの企業、自治体との連携を通じた事業拡大を目指す」と述べた。

ベトナムへの進出にも目途が立っており、今年度末に視聴可能世帯100万を目標に事業拡大を図るとしている。

グループ会社再編についても報告した。これはスカパー・ブロードキャスティングが実施していた124／128度衛星一般放送業務を12月からスカパー・エンターテインメントに承継して1本化するもの。放送業務の基盤強化が狙いだ。

18年放送開始予定の4K・8K放送の中で、110度左旋の4K放送については、衛星基幹放送業務にスカパー・エンターテインメントが認定申請している。

スカパー・ブロードキャスティングは、番組制作・制作技術業務を展開する。2017年1月には4K／HDR中継車を稼働する予定だ。

宇宙・衛星事業の今後の取り組みについては、取締役の小山公貴氏が説明した。取り組みの1つが低軌道（LEO＝Low Earth Orbit）衛星。これは高度1000―1500㌔㍍の低軌道LEOを周回する衛星だ。この軌道に同じ型の衛星を数機から数百機を置き、これをシステム全体として運用（コンステレーション）し、リモートセンシングや通信に活用する。

リモートセンシングについては、スカパーが出資しているアクセルスペースが22年には50機の衛星でコンステレーションを組み、リアルタイムの地球観測網を構築する計画を進めている。

この分野で最も進んでいるのが米プラネット。既に60機の衛星を運用し、低価格で高度な衛星画像を提供するサービスを展開している。17年前半には120機のコンステレーションを完成させる予定。同事業については、衛星ネットワークとスカパーが共同で防衛省をはじめとする官公庁に営業活動を展開している。

通信については、米ワンウェブが20年に衛星700機のコンステレーションを組み事業を開始する計画。またグーグルなどが出資する米スペースエックスは衛星4000機で、主に新興国向けにインターネット環境を提供する。

今後、低軌道衛星が増えるとともに、それを管制したり、リモートセンシングの画像を受け取って地上のネットワークとつなげるといった地上局サービスの需要が見込まれることから、アジア・太平洋地域での展開を視野に、スカパーもこの地上局ビジネスに参入することを計画している。



全映協
National Board of Regional Visual Industry Associations
一般社団法人　全国地域映像団体協議会

National Board of Regional Visual Industry Associations
Forum 2016 in Makuhari

全映協フォーラム2016 in 幕張

2016年11月17日（木）12:30-18:30

東京ベイ幕張ホール

Inter BEE 2016 開催期間中（11/16～18）

式典・パネルディスカッション・セミナー・全映協グランプリ表彰式

12:40　パネルディスカッション

テーマ　「地方の魅力発信」

パネラー　やくみつる 氏（漫画家）
多賀 公人 氏（テレビ・ラジオキャスター兼番組プロデューサー）

モデレータ　清田　智 氏（株式会社 QPR Chief Executive Producer）

14:10　セミナー1

総務省プレゼンテーション「総務省におけるコンテンツ政策の動向について」

講　師　総務省 情報流通行政局
情報通信振興課(コンテンツ振興課)課長　豊嶋 基暢 氏

14:30　セミナー2

経済産業省プレゼンテーション「我が国コンテンツ産業の現状と経済産業省のコンテンツ振興施策について」

講　師　経済産業省 商務情報政策局
文化情報関連産業課(メディアコンテンツ課)課長　平井 淳生 氏

15:00　セミナー3

若い制作者のためのセミナー　日本映画テレビ技術協会

「4Kの基礎 ～撮影から編集まで～」

講　師　株式会社NHKメディアテクノロジー
放送技術本部　ビジネス開発部　伊能 英男 氏

16:00　全映協グランプリ2016 結果発表・表彰式

- 番組部門
- CM・キャンペーン部門
- 学生部門
- 地域振興コンテンツ部門
- デジタルコンテンツ部門

17:00　大懇親会

会場：東京ベイ幕張ホール
会費：7,000円

18:30　終了予定

セミナー参加無料

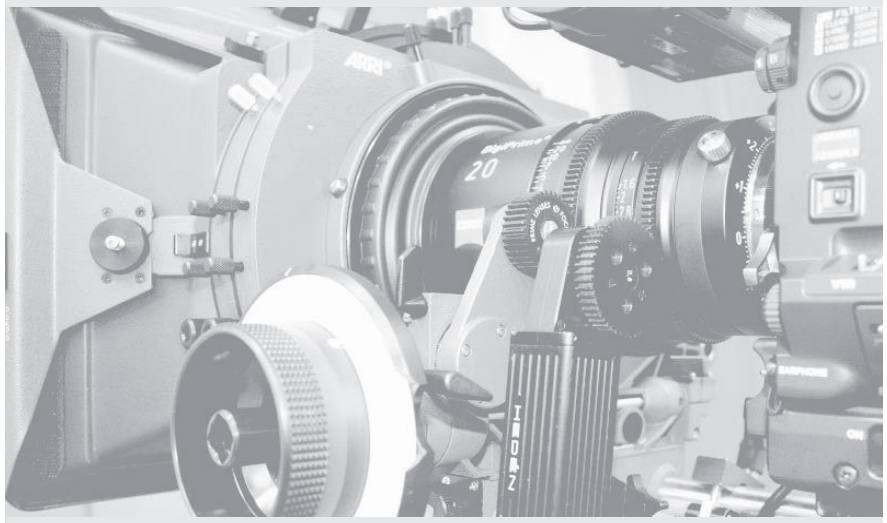
主催機関　一般社団法人 全国地域映像団体協議会
後　援　総務省 / 経済産業省 / 文化庁 / 一般社団法人 日本民間放送連盟 / NHK / 一般財団法人 デジタルコンテンツ協会 / 一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟 / 公益社団法人 映像文化製作者連盟 / 株式会社映像新聞社
協　力　一般社団法人 日本映画テレビ技術協会
協　賛　ソニービジネスソリューション株式会社 / 株式会社中松商会 / 伊藤忠ケーブルシステム株式会社 / 株式会社サークル / 株式会社アイ・ディー・エクス / 株式会社朋栄

本部事務局　仙台市宮城野区日の出町1丁目5番33号
株式会社ミヤギテレビサービス内　一般社団法人 全国地域映像団体協議会　TEL 022-284-8057　FAX 022-284-8058

作品主義！

STUDIO Welt
ヴェルト株式会社
〒105-0021　東京都港区東新橋2-5-12　第一粕谷ビル2F
TEL 03-6450-1473 FAX03-6721-5263

AZABU Leasing　AZABU Leasing



クリエイティヴ・コア株式会社
麻布リース事業本部
撮影機材レンタル 03-6402-1234
プロメディア販売 03-6402-1241
〒105-0004　東京都港区新橋5-26-5
データ変換事業部 03-6402-1311
〒105-0004　東京都港区新橋5-26-6 サンエスビル2F

メディア産業を支える映像プロダクション

美術の力でより一段と
素晴らしいコンテンツに

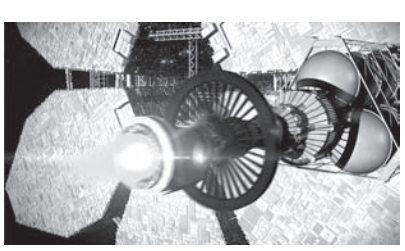
美術魂

私たちNHKアートは55年にわたり、
総合美術会社としてテレビ放送を支えてまいりました。
4K・8Kの超高精細映像時代にむけ、これまで
培ってきた伝統技術と最新テクノロジーを駆使して、
新感覚の映像表現を追求してまいります

NHK ART
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-14-7 アートビル
TEL 03-3481-2881（代）　FAX 03-3481-2905
http://www.nhk-art.co.jp/



放送90年記念番組 NHKスペシャル「生命大躍進」
アートディレクション / CG・VFX制作 / グラフィックス制作


「コズミックフロント☆NEXT　ついに発見！宇宙人の高度文明」
アートディレクション・CG制作


大河ドラマ「真田丸」
テロップデザイン / CG・VFX制作



NHK VR NEWS
Webディレクション ／ レスポンシブサイト制作

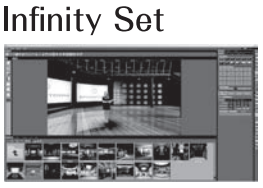
EXA INTERNATIONAL ｜ www.exa-int.co.jp

Inter BEE 2016
11.16 水 ≫ 18 金 幕張メッセ
展示ホール8
【INTER BEE CREATIVE】
ブース No.8602

最新の技術を取り入れた独自のサービスをご紹介させて頂きます。
皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げます。

主な展示サービス

アドバンストバーチャルシステム
Infinity Set



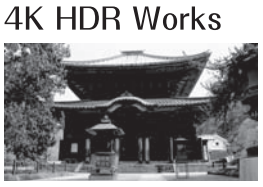
これまでにないレベルで実写とCGが統合し、より斬新で自然なVR合成が可能となった新しいバーチャルシステム「Infinity Set」をご紹介いたします。

LTS-70+MAM
ファイルアーカイブサービス



LTO-7メディアに対応した、よりコスト効果の高いアーカイブサービスのご提案。素材ファイル管理ソフト「LTS-MAM」と連携することで、ネットワーク上のPC・Macから、素材ファイルの登録・検索・再利用・管理が行なえる一連のワークフローをご紹介いたします。

4Kトータルワークフロー
4K HDR Works



トータルポストプロダクションであるエクサは、4K HDR映像の撮影からカラーグレーディング、編集、納品まで一貫した制作体制でご希望に合ったコンテンツをご提供しています。デモンストレーション映像をご覧頂きながら、弊社のサービスをご紹介いたします。

株式会社 エクサインターナショナル
〒107-0052　東京都港区赤坂2丁目16番9号　TEL：03-5575-3911　FAX：03-5575-3910

データで見るメディア

視聴率と秋編成 番外編

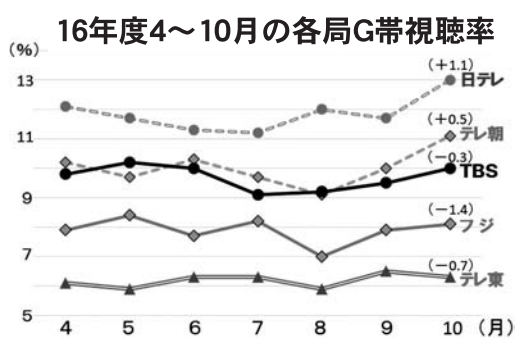
TBS、フジ、テレ東の動向

民放キー局の2016年度上半期視聴率競争は日本テレビが三冠王で、秋改編を経た最初の1カ月（10月3－30日）でも35カ月連続三冠王と好調さを維持している。またテレビ朝日も全日・G帯・P帯のすべてで前年同月比プラスと好調だった。この一方でTBS、フジテレビ、テレビ東京のスタートは順調とはいえない。3局の動向を分析する。（特別取材班）

★「月曜、日曜の改革」

TBSの16年度上半期の視聴率は、全日6・0％、G帯9・8％、P帯9・6％。前年同期比では、全日とG帯が0・2ポイント増、P帯がプラマイ0ポイントだった。マイナスが目立つ民放キー5局の中にあって唯一順調な業績となった。

これを受けた秋改編は、「もう一歩、前へ！」の方針の通り、さらに上を目指す姿勢となった。「月曜、日曜の改革」を打ち出したのである。弱点の月曜のテコ入れと、激戦となっている日曜での中でも最も数字の低い8時台を、通常の改編期を待たず8月半ばから『好きか嫌いか言う時間』を始めた。幸い滑り出しから良い数字を獲り、同時間民放3位争いをするようになった。



日テレが独走し、各局が苦しむ日曜夜。TBSはファミリー層狙いで新たな手を打った。午後6時半スタート『この差って何ですか』ファミリー層を取り込もうという作戦である。

月曜は16年度上半期、7－8時台が民放最下位、9時台は4位と不調。そこで、火曜午後7時に移し、『バナナマンのせっかくグルメ!!』（30分）と『クイズ☆スター名鑑』を新番組として並べたのである。

改編率は全日9・5％、G帯18・9％、P帯22・0％。テレ朝とほぼ同じ水準となった。一定程度の積極策といったところだ。ただし改編直後の1カ月でみると、8－10月と順調に数字は伸びているように見えるが、例年秋は数字が上昇する季節。前年同月比では0・3ポイント減と、微妙な滑り出しとなった。

★今期こその意気込み

フジテレビの16年度上半期の視聴率は、全日5・7％、G帯7・8％、P帯7・8％。すべて民放4位に終わった。また前年同期比でも全日が0・5ポイント減、とGP帯がともに1・2ポイント減と不調に終わった。今も悪い流れから脱出できていない。

これを受けた秋改編のキャッチフレーズは「フジテレbe with you。」。「日々生活の中で色んな感情が起こる時、アクションを起こしたり、自分の殻を破ったり、一歩を踏み出そうとしている人のそばに寄り添う存在でありたい」と視聴者重視の姿勢を打ち出した。

改編の柱はバラエティー、ドラマ、アニメ。バラエティーでは新番組をGP帯に4本置くことにした。火曜午後7時『今夜はナゾトレ』、火曜午後10時『有吉弘行のダレトク!?』、金曜夜7時『その原因、Xにあり!』、日曜午後7時『フルタチさん』。近年バラエティーの新番組は不調続きだったが、今期こそという意気込みが感じられる布陣だ。

ドラマは主軸の「月9」が山田涼介（Hey!Say!JUMP）の『カインとアベル』。バラエティーからドラマ枠にした「火9」は、吉田羊の『メディカルチーム レディ・ダ・ヴィンチの診断』。「木10」は、かつて『BOSS』で高視聴率を獲った天海祐希の『Chef～三ツ星の給食～』。そして「日9」は玉木宏の痛快刑事ドラマ『キャリア～捜破りの警察署長～』と「強力なラインナップ！」で起死回生を狙ってきた。

そしてアニメでも、「日曜朝に強力な仲間が加わります！」と宣言された。大人気ゲームをアニメ化した『モンスターハンター ストーリーズ RIDE ON』である。親子そろっての視聴を狙っている。

同局の改編率は全日14・5％、G帯34・3％、P帯32・6％とキー局の中で最も高い。また秋のGP帯改編で言えば、過去10年で最高水準となった。

反転攻勢にかける強い意志を示した改編だった。ただし改編直後の1カ月でみると、視聴率が改善する秋にもかかわらず上昇していない。前年同月比1・4ポイント減と期待通りには進んでいない。

★厳しい船出

テレ東の16年度上半期の視聴率は、全日2・8％、G帯6・4％、P帯6・2％。例年通りすべて民放最下位だったが、前年同期比で全日0・1ポイント減、GP帯がともに0・2ポイント減は厳しい。同局の視聴率は、07年から11年に下落が続いたが、その後12、13年とかなり巻き返した。ところが14年に失速気味となり、15年以降じりじり後退している。

この状況を受けた秋改編だが大きな変更はない。4月期に木曜から土曜にかけて大きく変えたため、「定着するまでじっくり育てていくべき」と考えているようだ。

新番組は、金曜午後7時台に『超かわいい映像連発！どうぶつピース!!』の2つ。平日夕方には経済ニュース番組『ゆうがたサテライト』をおいた。

そして4月に新設したドラマ枠「土曜ドラマ24」は継続し、ドラマ班とバラエティー班を混合させて制作する『潜入捜査アイドル・刑事ダンス』を始めた（土曜深夜）。また『石川五右衛門』（金曜午後8時）、『吉祥寺だけが住みたい街ですかポイント』（金曜深夜）といった独自路線のドラマを展開。さらに「ドラマ24」枠は、人気シリーズの最新作『勇者ヨシヒコと導かれし七人』（金曜深夜）とした。

ただしG帯はほとんど手を入れていないため、改編直後の1カ月は前年比で0・7ポイント減と厳しい船出となった。10月だけを見る限り、上位2局と下位3局で明暗が分かれた秋改編となっている。

フジ 新番組GP帯に4本

ドラマでも起死回生狙う

放送設備のことなら
ケーブル1本から
お任せください

http://www.miyakotsushin.com

放送技術のプロフェッショナルチーム
株式会社 都通信

大阪府大阪市北区豊崎5丁目2番13号 豊崎ビル5階
TEL：06-6377-0385　FAX：06-6377-0088

東京へのIターン実績も多数！
Uターン・Iターンを全国でバックアップします
まずはお気軽にご相談ください



11月1日沖縄支社開設！



www.fellow-s.co.jp/academy/
クリエイティブ業界専門の人材エージェント・国内9拠点（東京・札幌・仙台・金沢・名古屋・京都・大阪・福岡・沖縄）
FELLOWS Creator's Partner 株式会社フェローズ
東京都渋谷区恵比寿西1-7-7 EBSビル5F・7F
TEL：03-5728-5580　※恵比寿駅徒歩1分

"Flame on Mac" Start-up

studio ENDEAVOUR
www.studio-endeavour.com

クロステレビ TV
好評稼働中
HD中継車全国展開中!

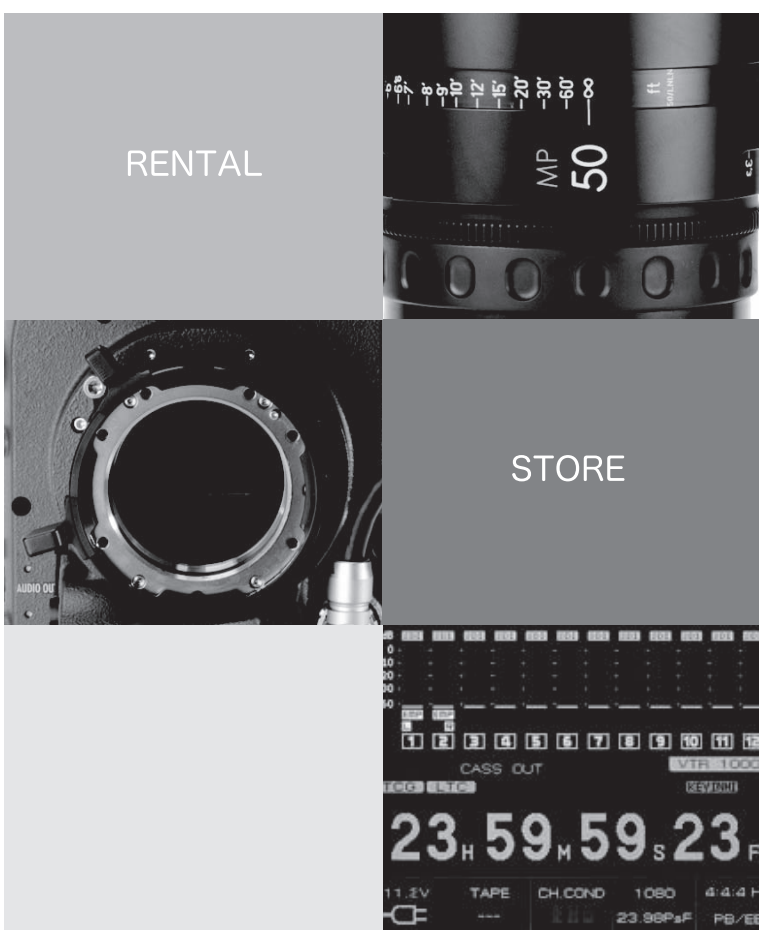


広島・仙台に配備！
8台のHD中継車で機動力アップ！

株式会社 クロステレビビジョン
〒162-0043　東京都新宿区早稲田南町52-5
TEL 03-3200-8235　FAX 03-3200-5359
支社：北海道、東北、関西、中国、四国、九州

メディア産業を支える映像プロダクション





Visual Communication Office Tecs 株式会社テックス

■レンタルのお問い合わせは
株式会社テックス　www.tec-s.jp
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-21-27 TEL.03-3226-6594 FAX.03-3351-9470

■ご購入のお問い合わせは
株式会社インテックス　www.intec-s.jp
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-23-4　TEL.03-5363-7471 FAX.03-5363-7472

ネット配信サービスは「ヒット＆ラン」戦術

映像制作のクラウド化で実現可能に



IBC2016において、IP機器での相互運用性も大々的にデモされた

事業開始と撤退をスピード化

迫られる放送業界の対応

長らく続けられてきたコンテンツ制作機器のIP化は、単なるファイルベース化のためではない。確かに当初はそれが重要視された。しかし、それは当然となり、現在では制作のクラウド化がその先に見えている。本紙既報（9月19日号）のとおり、ハードウエアが持つ機能をクラウドで実行し、利用料を課金する形式に、機器各社は舵を切っている。迅速なサービス提供で、コンテンツ側の要求にタイミングよく応えることを目指している。この背景には、コンテンツ各社のネット利用サービス立ち上げ期間が短期化していることがうかがえる。すぐに立ち上げて、受容されなければすぐに撤退する。「ヒット&ラン」とも表現される素早い動きに、国内の放送業界も対応を迫られる。（杉沼浩司）

★素早さで勝負

9月に開催された「IBC2016」（オランダ・アムステルダム）直前の記者会見で、海外の機器メーカーがそろってスポットを当てたのが「OTT事業向けの機器、サービス」だった。放送事業者が、コンテンツを電波、ケーブルで放送する際、平行してネットでサービスを展開したいときには「即座に対応できる」ことをウリにしていた。

これまで、OTTなどのネットサービスを始めようと思えば、サーバーを確保し、データセンターに機器を収め、ネット接続用の回線を手配しなければならなかった。この設計から手配だけでも日数を要するうえに、場所や機材の準備が整うのはさらに先になる。平行してサービスを考案して、ソフトウエアを開発し、ソフトの品質検証まで行うとすれば、軽く半年は要する。

基底となるサービスならばこれでもよいが、番組に付随したサービスの場合、このような時間感覚では対応できない。新番組の開始時には付随サービスも立ち上がっていなければならない。

★ダメなら撤退

もう1つ、記者会見で強調されたのが「サービスが振るわなければ、すぐに撤退できる」点である。各社のサービスは、月次課金から始まる。そのため、サービス開始時は月次契約をし、好調となれば四半期、半年、1年といった期間の契約に変更できる。逆に、サービスが不振ならば月次契約の間に解約できるように作られている。

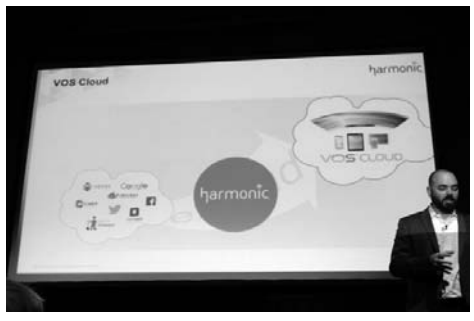
従来、巨額の費用を掛けてシステムを構築すると、減価償却の問題などもあり「いつか好転する」ことを夢見て撤退に踏み切れないことが多かった。これが、不人気のサービスを長期間生き残らせる原因にもなっていた。月次課金であれば、サービス購入を停止するのみで、損失も見極めやすく、容易に撤退できる。

撤退が容易な課金モデルをサービス提供側が用意することで、OTTの新陳代謝を促しているとも考えられる。

★考えられるモデル

現在、サービスとして提供されているのは、エンコーディングや配信、課金部分などである。非常に単純な例でサービス利用を考えてみよう。

例えば、コメディードラマが放送されるとして、これの「NG集」をネット配信したいと考えたとしよう。NG集の編集を、コンテンツ制作者が担うのは従来と変わらない。NG集を新たなソースとして、これを配信する。



Harmonicはクラウドに舵を切ることを明らかにした（IBC2016）

NG集の人気も、番組終了後には沈静化し、専用のサーバーを維持するだけの収益も見込めなくなったとすれば、配信サービス自体を解約して撤退へと進む。「再放送での人気が再点火」を待つために設備を温存するのは、大きな資本を投下した場合の考え方である。

これまでは自社の施設内でエンコードし、MPEG-DASH対応のファイルを作り、配信システムに複数のストリーミング用ファイルをアップしただろう。一方、提案されているサービス型では、クラウド上のサービスでエンコードやDASH対応をする。手間は、両者で変わらないだろう。

このNG集の第1集は大好評であったとする。自社構築のサーバーは、容量不足でダウンし、機会を逃したかもしれない。一方、クラウドは、アクセスの増加を検知したら、即座に利用サーバーを増やすことができる。

NG集の人気も、番組終了後には沈静化し、専用のサーバーを維持するだけの収益も見込めなくなったとすれば、配信サービス自体を解約して撤退へと進む。「再放送での人気が再点火」を待つために設備を温存するのは、大きな資本を投下した場合の考え方である。

起きない程度の品質が得られれば、すぐにサービス開始に持ち込むと見られる。そうでなければ、旬を逃すからだ。

企画は何度も練り、場合によっては小規模なテストシステムを作り効果を検証したうえで、本格展開に進むといった流れがよく見られた。海外OTTのサービス速度は、これを破壊する。

ならば、いかに企画提案を受け付けるか。

1つの方法は、「判断しない」ことである。「先着2件、予算〇百万円」として、予算を使い切ったところで有無を言わさずに退場――、という方法も考えられる。乱暴との声もあろうが、企画の練られ具合よりも、投入速度が成功を左右するならば、このような「無審査」も効果があるに違いない。

★無料放送はフックか

電波を使った無料放送から有料ネットサービスへいかに誘導するかは、常々課題だった。特に、ネットサービス立ち上げまでの期間と費用は、無料ー有料（放送ーネット）連携を難しくしてきた。

しかし、ネット側の立ち上げコストが従来のけた違いにまで低下するとなると、連携を前提にした企画案を幅広く構築できる。放送側が先行していても、後から始まったネット側の企画が追いつくのも無理ではない。

極め付きは、番組開始後にネット側の企画案が生まれ、実現に持ち込むこともあり得ることだ。番組の状況に即したネット企画であれば、成功率も高い。このような連携は、無料放送がネットの有料顧客を取り組む「フック」となることを示す。有料放送で広く知らしめ、ネットで稼ぐ。ここで問われるものこそ、コンテンツが持つ魅力であることは間違いない。

ローカル（地域）局も連携を活用できる。このとき、キー局と同じ土俵に上る必要はない。自局が制作したコンテンツが最大限にネット上で視聴されるように持ち込むことが肝要だ。

サーバーの地理的位置も国内に限る必要はない。配信の負担が限りなく小さいことは、必ず助けになる。ネットを用いた地域外への配信で新たな収益を上げることも可能だ。系列をまたいで、ローカル局のネット活動を一望できるサイトがあれば、これも活動推進に役立つ。

熟慮型とは異なる規範で動く「ヒット&ラン」は、放送ネット連携の推進役となりそうだ。

★企画提案も変わる

「ヒット&ラン」の根底にあるのは、サービス投入と撤退のスピードである。「思いついたら即サービス開始」という要求がサービス側にある。従来のハードウエアを基にした考えでは、それに対応できない。

ソフトウエア開発も、「使いながら改善する」タイプとなる。最初に時間を掛けて完全なものを作るのではなく、事故が起きたら連携を切る程度の品質が得られれば、すぐにサービス開始に持ち込むと見られる。そうでなければ、旬を逃すからだ。

企画は何度も練り、場合によっては小規模なテストシステムを作り効果を検証したうえで、本格展開に進むといった流れがよく見られた。海外OTTのサービス速度は、これを破壊する。

ならば、いかに企画提案を受け付けるか。

1つの方法は、「判断しない」ことである。「先着2件、予算〇百万円」として、予算を使い切ったところで有無を言わさずに退場――、という方法も考えられる。乱暴との声もあろうが、企画の練られ具合よりも、投入速度が成功を左右するならば、このような「無審査」も効果があるに違いない。

★無料放送はフックか

電波を使った無料放送から有料ネットサービスへいかに誘導するかは、常々課題だった。特に、ネットサービス立ち上げまでの期間と費用は、無料ー有料（放送ーネット）連携を難しくしてきた。

しかし、ネット側の立ち上げコストが従来のけた違いにまで低下するとなると、連携を前提にした企画案を幅広く構築できる。放送側が先行していても、後から始まったネット側の企画が追いつくのも無理ではない。

極め付きは、番組開始後にネット側の企画案が生まれ、実現に持ち込むこともあり得ることだ。番組の状況に即したネット企画であれば、成功率も高い。このような連携は、無料放送がネットの有料顧客を取り組む「フック」となることを示す。有料放送で広く知らしめ、ネットで稼ぐ。ここで問われるものこそ、コンテンツが持つ魅力であることは間違いない。

ローカル（地域）局も連携を活用できる。このとき、キー局と同じ土俵に上る必要はない。自局が制作したコンテンツが最大限にネット上で視聴されるように持ち込むことが肝要だ。

サーバーの地理的位置も国内に限る必要はない。配信の負担が限りなく小さいことは、必ず助けになる。ネットを用いた地域外への配信で新たな収益を上げることも可能だ。系列をまたいで、ローカル局のネット活動を一望できるサイトがあれば、これも活動推進に役立つ。

熟慮型とは異なる規範で動く「ヒット&ラン」は、放送ネット連携の推進役となりそうだ。



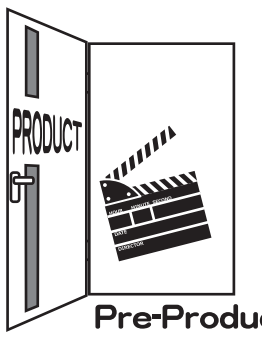
ポストプロダクションにおける従来のワークフローを継承
そして更なる進化へ

D.O.T キャラクタジェネレータ

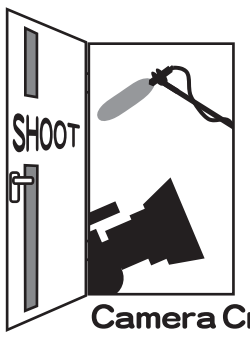
オープンプライス（ディスプレー付ターンキーシステム）

- PGM(OA)とPVW(Next)ウィンドウの同時表示により、収録中に次のテロップを作成することができます。
- Dekoと同一のショートカットと、ペイントソフトスタイルの操作性
- リアルタイム出力 (IMEで文字変換中もリアルタイムビデオ出力)
- αチャンネル付き画像ファイルを、登録せずに使用可能
- 縦ロール、横ロールのファイル(長手ファイル)をPNG等の汎用画像ファイルで書き出し可能
- エフェクトやアニメーションを連番ファイル、またはMOVファイルで書き出し可能
- GPIによる送出 (Dekoと同一のピンアサイン)

［販売］ TOTSU INTERNATIONAL 株式会社 東通インターナショナル 東京都文京区小石川1-21-14 TEL 03-5805-5271 www.totsu-int.co.jp



Pre-Production

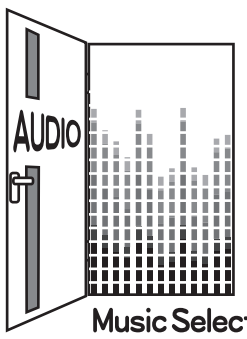


Camera Crew

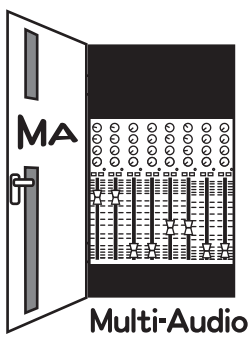
TSP
(株)東京サウンドプロダクション
http://www.tsp.co.jp

〒106-0031
本社 / 東京都 港区 西麻布 2-24-11
ウェストビル 4F
03-5466-5645

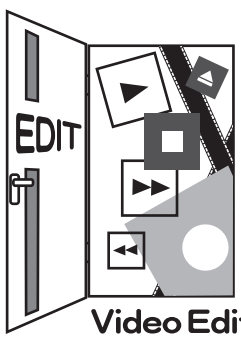
Video Center / 東京都 港区 西麻布 1-5-6
麻布富士ビル 3F
03-6455-5765



Music Selection
Sound Effects



Multi-Audio Mixing



Video Editing

未来へ遺すため
あきらめない 志



近年、急速な情報化社会の発達により、100年以上におよぶフィルムそしてビデオといったアナログ映像記録メディアの文化が失われようとしています。
しかも、大切に保管されていたフィルムやビデオはどれ一つとっても同じ劣化状態のものはありません。それを作品が持っていた元の美しさに復元することが私達の誇りと考え美術館や放送局、地方自治体、企業、さらに一般のお客様の大切な映像資産を未来へとつなぐお手伝いをしています。

フィルム／ビデオ／サウンド／デジタル修復・復元センター
TOKYO KOON 株式会社 東京光音
〒151-0061　東京都渋谷区初台1-47-1小田急西新宿ビル1F
TEL：03-5354-6510　FAX：03-5354-6515
www.koon.co.jp

メディア産業を支える映像プロダクション

MediaCity
ポストプロダクション＋撮影＋空撮
お問合せ：03-3524-1166

メディアシティはハイエンドで広々とした
編集 MA スタジオをご提供いたします。



TVCM を中心に PV、VP などの空撮業務を
行なっております。



株式会社メディアシティ　www.media-city.jp
銀座 EAST: 東京都中央区銀座 7-17-1 銀座武蔵野ビル



パナソニックがJ：COMから受注

オールIP配信システム
100チャンネルの送出実現

パナソニック システムネットワークス（東京都中央区／以下、パナソニック）は、ジュピターテレコム（J：COM）が運用するコミュニティーチャンネル（コミチャン）次期設備更新にあたり、送出システムを受注した。2018年度にかけて順次システムを納入していく。

次期送出システムは、BCP（事業継続計画）対策として、東西2放送センターによる冗長化構成で、全国97カ所のヘッドエンド（HE）拠点へ83編成を24時間送出することが可能となる。

この送出設備に納入するのは、国内初（同社調べ）、IP－OFDM装置を含めた、オールIPバーチャルシステムによる多チャンネル（100ch）システム。IP－MUX装置（パナソニック新規開発）、IP－OFDM装置を含めた、オールIPバーチャルシステムによる多チャンネル（100ch）システム。IPバーチャルシステムとして、送出サーバー内に仮想スイッチを持ち、ファイル素材とライン素材をスイッチング可能。音声多重制御、ロゴ挿入、L字型画面合成、字幕文字スーパーもサーバー内部で処理できる。

仮想化技術を用いて1つのサーバー上に複数のIPバーチャル機能が動作するIPバーチャル化により、省スペース化、将来のシステム拡張の容易性などの向上を図り、安定送出による信頼性の向上を実現する。

また、パナソニックでは万一の障害発生時にも迅速な一次復旧態勢を構築しており、システム採用理由の1つになっているという。

U-NEXTと日本通信

MVNO事業で協業
共同で市場開拓へ

U－NEXT（東京都渋谷区）と日本通信（東京都港区）は7日、MVNO（仮想移動体通信事業者）事業に関する協業について合意した。

両社は「本格普及期に入るMVNO市場において、業界リーダーとしての成長を成し遂げるための戦略として、協業を決めた」という。具体的には、U－NEXTは顧客開拓に専念し、日本通信はプラットフォーム開発・提供に注力することで、両社で共同して第4の通信事業者グループを目指し市場開拓に当たる。

また、日本通信のコンシューマ向けサービスであるb－mobile（bモバイル）についても、両社で共同して事業運営していくことが今回の協業に含まれる。

MVNOは、現在約600事業者、市場普及率で4・5%に達するまでに成長。黎明期から本格普及期への移行時期にさしかかっているとみられている。

「みんなの学びラボ」
クロスメディアで展開
アクトオンTVが2社と協業

専門チャンネル「アクトオンTV◆大人の趣味とライフスタイル」を運営するジュピタービジュアルコミュニケーションズ（東京都千代田区）は、学研プラス（東京都品川区）とエイベックス・プラニング&デベロップメント（東京都港区）の3社が協業し、「みんなの学びラボ（マナラボ）」を開始すると発表した。

アクトオンTVでは、趣味や生活のレベルアップに〝使える〟、役立つ、得する〟チャンネルをテーマに、生活の中で生まれる欲求を行動に変えるための後押しを、番組やリアルイベントを通じ展開してきた。

新たに開始する「マナラボ」では、アクトオンTVの「番組＋リアルイベント」にワークショップ（エイベックス・プラニング&デベロップメント）、雑誌、ウェブメディア（学研プラス）が加わることで、より消費者に分かりやすく、行動のヒントとなるきっかけ作りを3社共同で取り組む。

その結果により、「単体メディアへの露出」では得難い明確な成果を、広告主となるクライアント企業に提供していくとしている。

多チャンネル放送の実態 ㊤

衛星放送協会の研究所が調査報告書

多チャンネル放送研究所は、「2016年多チャンネル放送実態調査」（6－7月実施）の結果を報告書にまとめた。この調査は、同研究所が2008年に衛星放送協会のシンクタンクとして設立以来、同協会正会員社が運営する各有料チャンネルを対象に実施。事業の現状やさまざまな課題にどう取り組むかなど、その動向の把握を目的としている。今回89のチャンネルに対して調査し、有効回答の回収率は100%だった。報告書の概要を3回に分けて紹介する。

収入比率最大は「CATV」

【収入の現状】

◆収入総額

15年度決算の実績ないし見込みから、プラットフォーム手数料を除いたネット収入の総額で一番回答が多かったのは「20億円以上30億円未満」16件（18・0%）。続いて「30億円以上50億円未満」14件（15・7%）、「10億円以上20億円未満」13件（14・6%）だった。1件あたりの平均ネット収入を算出すると約25億7200万円で、そこから割り出した回答者全体のネット収入推定総額は約22888億8700万円となった。

◆売り上げ比率

平均売上比率をみると、収入の比率が一番大きいのが「CATV」の35・1%、次いで「スカパー！プレミアム（124／128度CS）」の19・3%、3番目に「スカパー！（110度CS／BS）」の18・5%、続いて「広告」が8・5%となっている。

前回と比較して、売上比率の上昇幅が最も大きかった項目は「CATV」（32・3%→35・1%）であり、次いで上昇幅が大きかったのは、「動画配信（ブロードバンド系）」（0・7%→2・1%）であった。

◆「放送外収入」の増加

前回に引き続き、「放送外収入」に関する深堀りを目的として、「PV～その他」の中で「各社が顕著に増加、あるいは戦略上増強した項目」について質問。全回答者数40件中、最も回答が多かったのは、「動画配信（ブロードバンド系）」の12件（30・0%）で、次いで「番組販売」「その他」がともに9件（22・5%）。

◆広告営業活動

前回の調査では、90ch中、70ch（77・8%）が広告営業活動を実施。今回の調査では、89ch中、69ch（77・5%）が広告営業活動をしていると回答した。

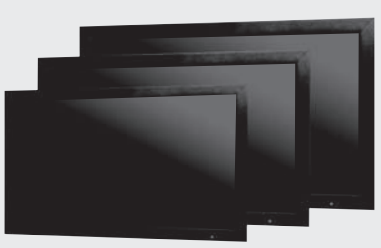
【費用の現状】

最も多い回答は「10億円以上20億円未満」の21件（23・6%）、次いで「30億円以上」16件（18・0%）、「5億円以上10億円未満」13件（14・6%）となっている。前回調査から全体的に大きな変化はないが、比較的小規模の事業者において、やや高コスト化が進んでいるとみられる。

【営業損益の増減】

最も多い回答は「ほぼ均衡」と「1億円未満の利益」が同数の17件（19・1%）となり、続いて「1億円以上3億円未満の利益」が12件（13・5%）、「5億円以上10億円未満の利益」が11件（12・4%）となった。

X_TS
Bridge"X　DIGITAL FORECAST
簡易アナライザ機能搭載 5 型タッチパネル付属
アップ / ダウン / クロス対応マルチコンバーター
・簡易アナライザ機能搭載
（ベクトルスコープ、ウェーブフォーム、アイパターン、SDIケーブル長測定、オーディオレベル）
・ミラーリング表示専用 HDMI 出力端子
・アップ／ダウン／クロスコンバート機能搭載
・様々なデジタル・アナログ信号の入出力に対応
デジタル：SDI(3G/HD/SD)、HDMI、AES/EBUオーディオ
アナログ：コンポーネント、VGA、ビデオ、アナログステレオオーディオ
・テストパターンジェネレーター機能
・タッチパネル搭載 5 型ワイド液晶操作パネル

Hall8 Booth #8109 Inter BEE 2016
15.6" wide SH1560S　18.5" wide SH1850S　21.5" wide SH2150S
3G-SDI 入出力対応フルHD液晶パネル搭載
業務用マルチメディアディスプレイ
・高解像度、広視野角、高コントラストの超高精細フルHD液晶パネル採用
・3G-SDI入出力端子搭載
・アナログ・デジタル両信号入力対応
（HDMI・DVI-D・VGA・Sビデオ・ビデオ(BNC)）
・PinP（ピクチャーインピクチャー）機能、PbyP（ピクチャーバイピクチャー）機能
・強固なメタル筐体採用と24時間連続稼働可能なタフネス設計
・壁掛け用VESA規格FPMPMI 100x100mm対応

エーディテクノ ADTECHNO
www.ad-techno.com / info@ad-techno.com
株式会社エーディテクノ
〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-10
TEL：03-5213-3855 / FAX：03-5213-5323

SONY
4K/60P
4K映像素材は、ソニー製
CineAlta 4Kカメラ「F65」で撮影。
イベントなど大画面にも対応可能。
HDR
PQ·HLG
PQ·HLG·その他HDRに対応可能。
UHD BD
HDR映像を
Ultra HD Blu-ray™でも提供。

高画質には理由がある。
ソニー高画質ビデオライブラリー
Sony PCL　www.lib.sonypcl.jp　ソニーPCL 高画質
企画・制作＞撮影＞ポスプロ＞上映サポートまで、ソニーPCLの4Kワンストップソリューション。
※"Blu-ray Disc™","Blu-ray™","Blu-ray 3D™","Ultra HD Blu-ray™"は、Blu-ray Disc Associationの商標です。
※SONYおよびその他の名称は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
※記載されている名称等は、一般に各社の商標または登録商標です。

NABSHOW
Where Content Comes to Life

www.nabshow.com

NAB SHOW 2017

出展企業募集

開催：2017 年 4 月 22 日 -27 日　展示：4 月 24 日 -27 日

Las Vegas Convention Center
Las Vegas, Nevada USA

ベーシックターンキーパッケージ

※下記価格は 2016 年 6 月現在のものです、変更される場合があります。



3m × 3m　7,000 ドル (税込)　内訳：ブース料金 6,500 ドル + サポート経費 500 ドル

- 基調黒のブースイメージ
- 黒カーペット
- 背面ライト× 2
- 1m カウンター (内側に施錠付き物入れ)
- 棚
- 黒基調の白文字会社名
- 商談用丸テーブル、椅子× 2
- 1,000 ワットの電源
- ゴミ箱
- 背面壁広告用パネル (96.8cmW x 174cmH)
- カウンター前面広告用パネル (96.8cmW x 85cmH)



3m × 6m　13,500 ドル (税込)

内訳：ブース料金 13,000 ドル + サポート経費 500 ドル

- 基調黒のブースイメージ
- 黒カーペット
- 背面ライト× 4
- 1m カウンター (内側に施錠付き物入れ) × 2
- 棚
- 黒基調の白文字会社名
- 商談用丸テーブル× 2、椅子× 4
- 1,000 ワットの電源
- ゴミ箱
- 背面壁広告用パネル (96.8cmW x 174cmH) × 2
- カウンター前面広告用パネル (96.8cmW x 85cmH) × 2

準備から開催まで NAB 日本代表事務所がサポート

出展申し込み、出展関係者の会場レジストレーション、ロジスティックス、出展関係者の渡航および宿泊、通訳、コンパニオンなどの人件等、出展のためのさまざまな手配をサポートします

NAB SHOW は、NAB（National Association of Broadcasters 一全米放送事業者協会）が、毎年 4 月にネバダ州ラスベガスで開催する世界最大規模の展示会です。
ラジオやテレビ放送に関する音声や映像などのコンテンツとその制作、マネジメント、取引、配給 / 配信まで、一連の最新設備や先端技術を紹介しています。
世界各国より、ビジネスを模索した VIP が一同に集まる希少な機会です。

- 会場は、米国ネバダ州ラスベガスに所在するラスベガス・コンベンションセンター
- 87,885 ㎡の敷地面積に、世界から 1,874 社が出展 (2016 年 4 月開催時実績)
- 164 カ国から訪れる入場者数は、103,012 人 (2016 年 4 月開催時実績)
- 500 以上のカンファレンスやセッション、テクニカルトレーニングも開催
- 日本からもメーカー、放送局、通信会社など、多数の企業が毎年参加

問い合わせ、資料請求先：NAB 日本代表事務所
112-0006 東京都文京区小日向 1-24-8　Tel.03-3942-2381　Fax.03-3942-2581

ゴルフツアーでは国内最大

606型の大型映像を運営

ビジョンテクノネット

10月28―30日に埼玉県飯能市の武蔵丘ゴルフコースで開催された、女子ゴルフツアートーナメント「樋口久子 三菱電機レディスゴルフトーナメント（三菱電機レディス）」では、18番ホールのグリーン横に国内プロゴルフツアー（男子の大会も含む）としては最大となる606型（横14・72メートル×高さ4・48メートル）の超大型LEDビジョン（三菱電機製オーロラビジョン）が設置され、トーナメントを大いに盛り上げた。（川田宏之）

このオーロラビジョンを運営したのは、三菱電機の関連会社、ビジョンテクノネット（東京都千代田区／以下、V―TEC）。V―TECは、主に同社が所有する大型LEDビジョン（多くは三菱電機製）を使い、日本のプロゴルフ大会では、国内屈指の運営実績を誇る大型映像機器レンタル会社である。

V―TEC営業部長の渡辺栄一氏は「プロゴルフトーナメントのほか、国際クラスのサッカー場などの大型映像システムの運用でもトップクラスの実績を持っている。2020年の東京五輪へ向けて旺盛な大型映像のイベント需要にも対応する」と話す。


18番ホールに設置された606型のオーロラビジョン


大型映像の送出スタジオ

三菱電機レディスでは、18番ホールを含む全9台のオーロラビジョンをコース各所に設置。これだけ多くの大型LEDビジョンが利用されたのは、国内トーナメントでは初めてとみられる。

渡辺氏は「9台のオーロラビジョンすべてが、当社がイベントなどのレンタル用として所有している機材。経験豊富な当社スタッフが運営した。随所に設置された大型映像により、普段のトーナメント以上に会場に訪れたギャラリーには楽しんでもらえたと思う」としている。

なお、大型映像のライブ中継映像などは、この大会のテレビ中継を担当したテレビ朝日の撮影映像を利用した。

使用したLEDオーロラビジョンは、18番ホールが10ミリメートルピッチ。ギャラリープラザ（259型）や1番ホール（203型）など他8台は6・7ミリメートルピッチの高精細屋外型。

渡辺氏は「大型映像を利用することで、より多くの情報の取得が可能になり、スポーツなどの現場で観戦する楽しみが倍増する。今後も当社では大型映像を利用し、スポーツ観戦がよりいっそう楽しめる企画開発で、スポーツ文化の発展に貢献していきたい」と意欲を示した。

三菱電機レディスは、日本女子プロゴルフ協会（LPGA）公認の女子プロゴルフトーナメントで、三菱電機が特別協賛している。主催は広告会社のアサツー・ディ・ケイ（アサツー）。企画運営は、大会ゼネラルプロデューサーの戸張捷氏が代表を務めるランダム・アソシエイツとアサツーの2社。

新江ノ島水族館のナイトイベント

マッピング第3弾を上映

クリスマスバージョンに


相模湾大水槽でのマッピング映像

新江ノ島水族館（神奈川県藤沢市、堀由紀子館長、えのすい）で開催中のプロジェクションマッピング（マッピング）を中心としたイベント「ナイトワンダーアクアリウム2016～月光に漂う水族館～」において、11月1日から上映コンテンツの最終章「パート3」がスタートした。クリスマスバージョンの聖夜の海で、ロマンチックな空間を楽しむことができる。

「ナイトワンダーアクアリウム2016～月光に漂う水族館～」は、「パート1」（7月16日―9月12日）、「パート2」（9月13日―10月31日）、「パート3」（11月1日―12月25日）の3期で構成。季節とともに内容も変化していくという。

パート3で新規に制作されたコンテンツの目玉は、このイベントのメインともいえる相模湾大水槽でのマッピング映像『そして、あなたは魚になる パート3』である。

今回のイベントの総合プロデュースを担当したイベント映像制作会社タケナカの長崎英樹専務は「今回は、パート2をベースにして後半部分をクリスマスバージョンにリニューアルした。クリスマスに向けてロマンチックな聖夜を体験できる。LEDキューブや階段のマッピングなどもクリスマスバージョンとした。コンテンツのリニューアルにより、リピーターの方にも十分満足していただけると期待している」と話す。

セイコーエプソン製の1万ルーメン高輝度液晶プロジェクターを会場の中で最大台数の8台使用。相模湾大水槽の魚と神秘的な映像とのコラボが、来場者を感動の世界にいざなう。相模湾大水槽のマッピング映像は、午後5―8時の間に随時上映（各回約4分）している。


LEDキューブでもクリスマスバージョンのコンテンツを上映

◆LEDキューブ型も

相模湾大水槽2階の「おいでよ、一緒に泳ごう！」のコーナーでは、不思議なLED映像キューブが来場者の目を引く。「その前を通ると、サンタクロースが登場する。人の動きに反応して、トナカイのそりが行ったり来たり」するクリスマスをイメージしたコンテンツとなった。

このキューブは、フルカラーLEDディスプレーを利用したものである。

同コーナーは、パート2（9月13日開始）から登場。パート3でも引き続き運用されるインタラクティブ性を生かした映像コーナーだ。使用されているのは、クリエイトLED社製3・9ミリメートルピッチ屋内用LED「AirMAG―3 CreateLED」。これを縦横50センチメートル角の正方形キューブ型にしたシステムで、国内では唯一タケナカだけが多数所有している。

このコーナーではこのLEDキューブが45台使用されている。

入場口を入ってすぐのエントラス階段を見上げると、夜の海をイメージした階段映像が広がる。ここでもクリスマスバージョンの新コンテンツが上映されている。

Intercom Wireless System



新製品

ネックマイク型のヘッドセット

SJ-NECK-2014JP

首にかけて喉の振動を直接ピックアップする
ネックマイクのヘッドセットです。
マイクロフォンのように音を直接拾わないので
騒音の大きい場所でもクリアな会話を実現します。
標準的なヘッドセットと同一規格ですので
今お使いのベルトパックやインカムシステムに
そのままご活用いただけます。

主な特徴

■喉の振動を直接拾うため、音の回り込みがない
■特別設計のダイナミックピックアップにより、高出力で明瞭度のある音質を実現
■総重量135gという軽量設計
■防水仕様（IEC:IP66相当）
■ダイナミックピックアップのため電池不要

騒音の中でも、
囁く声でも
クリアな会話ができます。

SUNGJIN C&T CO., LTD.
SUNGJIN CONNECTOR & CONNECTION TECHNOLOGY CO., LTD.

SUNGJIN社 ワイヤレスインターカムシステム

低コストの双方向同時通話が可能なデジタルワイヤレスインターカムです。
マスター(WL-100)1台で無制限の子機(WH-100)を接続可能！！



WL-100/WH-100
ラインステーション　ヘッドセットステーション

低価格 ¥470,000(税別)
フルセット<WL-100+WH100×4>

ワイヤレスインカム・ラインステーション
WL-100 …… 75,000円(税別)
ワイヤレスインカム・ヘッドセットステーション
WH-100 …… 100,000円(税別)

特徴
■一つの親機を介して4台の子機間双方向同時通話
■免許不要の2.4GHz帯を使用
■安定した運用　韓国軍納入のインカムシステムで培ったノウハウで2.4GHz製品と混信しない安定した運用
■既存のインターカムシステムに接続可能
■低遅延　システムディレイ25ms以下
■現在ユーザーが使用のヘッドセット流用可能
■低価格なシステム　親機,子機を必要な台数で購入可能
■フル充電時最大動作時間：8時間以上（動作環境により変化します）

SUNGJIN社Intercom 日本総発売元　株式会社エレクトリ　〒171-0043 東京都豊島区要町2-19-6　TEL:03-3530-6181 FAX:03-3974-2448　営業部/プロ課　http://www.electori.co.jp

SIGGRAPH ASIA 2016 MACAO

The 9th ACM SIGGRAPH Conference and Exhibition on Computer Graphics and Interactive Techniques in Asia

Register online by **30 November 2016!**

sa2016.siggraph.org/registration

Keynote Speakers at SIGGRAPH Asia 2016!



Brian Cabral
Director of Engineering
at Facebook



Paul Debevec
Senior Staff Engineer
at Google VR



KEY TO THE FUTURE

CONFERENCE: 5 - 8 DECEMBER 2016
EXHIBITION: 6 - 8 DECEMBER 2016
THE VENETIAN MACAO, MACAO

SA2016.SIGGRAPH.ORG

Sponsored by acm

東京モノレール・浜松町駅

尾道の観光情報を発信

大型デジタルサイネージ活用

広島県尾道市、尾道観光協会、東京モノレール、モノレールエージェンシー、ストリートメディアは共同で、東京モノレールの浜松町駅構内常設の大型デジタルサイネージ（韓国オリオン製6面液晶マルチビジョン／ビジョンテクノネットが販売、ストリートメディアが今春から設置・運営）において、11月7日から定時的に尾道の観光情報発信を開始した。

モノレールの浜松町駅は、尾道市をはじめとする中国地方への観光客の玄関口でもあり、尾道市の観光PR促進媒体としては有効と考えられることから、今回の定時的観光情報の発信に至ったという。

ストリートメディアの大森洋三社長は「2020年に向けて、観光立国を目指すなか、各地域に日本版DMOの設立など、組織化は推進されている。しかし、各地域の情報発信力においては安価なインターネットのサイトに情報を上げる程度で、情報の拡散化に各地域苦慮している」と話す。

尾道観光協会では「都市観光プロモーション事業」の一環として、道府県レベルの広域情報ではなく、ピンポイントかつ具体化された市区町村単位で尾道の情報を、既存媒体にとらわれず、より効果的な発進力を求めたい」としている。

そこで今年度実施している「尾道プロモーション事業」の一環として、尾道観光協会とこの事業を受託したストリートメディアの立案実行により、尾道の観光情報発信が開始された。



モノレール浜松町駅構内の6面大型マルチビジョンで尾道の観光情報を放映

大森社長は「国内外からのインバウンド発着所の羽田空港から東京都内への流出入ハブである東京モノレール浜松町駅構内にある、100型級の大型デジタルサイネージの放映の中に、多頻度で尾道の最新情報を流すことにより、1日あたり10万人を超す、旅行に対して関心度の高い状態にある渡航者を中心に需要発起を促したい」と抱負を語っている。

近年、尾道へのインバウンド率が上昇している。そのため尾道観光協会としては、東日本圏での海外からの訪日者向けに多イムリーな情報を流すことによって、今後の来訪者増加を促す目的として実施を決定した。

東京モノレールとモノレールエージェンシーは、海外および地方と東京を結ぶ交通ハブの特性を生かし、往来する来訪者に向けた豊かな地域情報告知場所として、今後情報ハブとしての機能強化を目指すために今回の実施を受託した。

ストリートメディアは、デジタルサイネージの新たなる広告資源として、高まるインバウンド需要の有効な発信場所の開発および構築のため、今回の情報発信を企画実施したとしている。

シンク・デザインが販売開始

紙製「モバイルVRビューア」

Inter BEEのアンケートで配布

空間デザインとVR／AR（拡張現実）、プロジェクションマッピングなどデジタルコンテンツとの融合を手掛けるシンク・デザイン（東京都港区）は、モバイルVR向けトータルプラットフォームサービス「Quick360」の第1弾「Quick360 モバイルVR ビューア」の販売を開始。最初の採用として、11月16―18日に開催されるInter BEE 2016（幕張メッセ）の「INTER BEE IGNITION（VR、AR、ライブエンターテインメント特集エリア）において、アンケート用のノベルティーとして数千個が配布される。

「Quick360 モバイルVR ビューア」は、わずか9㌘の紙製で折り畳みが可能。スマートフォンのケースに収納できるコンパクト設計を実現し、約4秒で組み立てられるなど、従来のHMD（ヘッドマウントディスプレー）やビューワーに比べ、手軽に360度VRコンテンツや3D（立体視）映像を楽しむことができる、スマートフォン用のモバイルVR ビューワーとなっている。

これまでもVRビューワーを大量に配布して特定のコンテンツを提供したいといった要望があったものの、組み立ての煩雑さや携帯性への懸念で採用を控えていたケースもあるという。

「Quick360 モバイルVR ビューア」を広げたところ



紙製で簡単に折り畳める

新製品は、組み立てと収納が簡単でコンパクトなことから、各種プロモーションでのノベルティー需要に応えることが可能となった。

このほか、シンク・デザインでは「Quick360 モバイルVR ビューア」で見ることができる、VRコンテンツや3D映像の制作サービス「Quick360 VR／3D 撮影・制作サービス」を提供するほか、アプリ不要のVR配信サービス「Quick360 配信サービス」も、2017年初頭に開始する予定。

これらのサービスは、すべて手軽にVR体験ができることを念頭にした「Quick360 モバイルVR トータルプラットフォームサービス」の下に〝制作＋配信＋視聴セット〟として提供されるほか、それぞれ個別のサービスとしても利用が可能だ。

8K/4K伝送 をはじめとした
通信・放送インフラの専門展 誕生！

第1回 映像伝送EXPO VCOM 2017

会 期：2017年4月5日［水］～7日［金］　会 場：東京ビッグサイト　同時開催：第17回 光通信技術展 FOE2017

前回（2016年）同時開催展 会場風景



詳細・お問合せは ▸▸▸ 映像伝送EXPO 検索

展示会 事務局 リード エグジビション ジャパン（株）内　〒163-0570 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル18階
TEL:03-3349-8568　FAX:03-3349-0598　E-mail: vcom-expo@reedexpo.co.jp

Inter BEEに各社が出展

キヤノンが発表
高輝度4Kプロジェクター
レーザー光源で小型化


4K600STZ

キヤノンは、「パワープロジェクター」シリーズの新製品「4K600STZ/4K501ST」を発表した。ともに4096×2400画素の高解像度LCOSパネルを搭載。4K600STZは6000㍑、4K501STは5000㍑の能力を持ち、高画質な映像を投写する。

4K600STZは2017年4月に、4K501STは今年11月15日に発売する。市場想定価格はそれぞれ798万円と598万円。

4K600STZは、4K対応の広角ズームレンズと高性能映像エンジンで、映像の臨場感を高める。大口径非球面レンズやUDレンズなどの特殊光学材料を採用し、中心から周辺部まで鮮明に投写。同社の技術の象徴「レッドライン」を施すなど技術の高さを示している。

レーザー光源システムも新開発した。青色レーザーダイオードが発した光を蛍光体デバイスに照射することで白色光を生成。蛍光体デバイスへの集光効率を高めつつ、適切な光密度で効率的に光の波長を変換することで、少ない数のレーザーモジュールで6000㍑の投写を実現。小型化と高輝度化を両立した。約2万時間交換することなく投写できる。

独自の光学システム「AISYS（エイシス）」とも組み合わせ、幅約56×奥行き62×高さ20㌢㍍の可搬対応サイズと、26㌔㌘の軽量さを実現した。

HDR機能と、4K60㌻／秒映像をケーブル1本で送れるHDMI2・0にも対応する。

同製品は、Inter BEE 2016のキヤノンブースに出展する。対象とする市場は、デザインやシミュレーション、コンテンツホルダー、クリエイター向けのプロ市場での販路開拓を目指して投入する。特に欧米での学術、軍事分野のニーズは強く、国内でも医療でのカンファレンスや学会プレゼンテーションで4K映像に対する需要が大きく、利用を見込んでいる。

EIZO
HDRアップグレード開始
手持ちのモニターをPQに

EIZOは、31・1型DCI 4K解像度のカラーマネージメント液晶モニター「ColorEdge CG318-4K」を、PQ方式のHDR表示対応にアップグレードするサービスを12月9日から開始する。アップグレードは有償となる。

同モニターは2015年3月に発売した映像制作向け製品。4K（4096×2160）解像度の表示が可能で、映像制作に適した、まぶしすぎない輝度（約300nits）と1500：1の高コントラスト比を持つ。

アップグレードサービスでは、同社の専門スタッフがオンサイトでカラーモードにPQカーブのLUTを書き込む。適応後は、モニター前面のモードボタンで表示を切り替えることでHDR映像を確認できる。

Inter BEE 2016では実機を展示する。

アストロデザイン
ULTRA HDロゴの認証試験に製品が採用


VG-876

アストロデザインは、「VG-876」が、UHDアライアンスの「ULTRA HDプレミアム」ロゴプログラムの試験機として UHDアライアンスから認証されたことを発表した。

これにより、同製品を使ってUHDテレビ用の「ULTRA HDプレミアム」の機能評価、ロゴ認証試験を実施できる。UHDアライアンスで定義されているHDR試験にも対応する。

アクセンチュア
動画配信サービスなどを紹介
初出展、セミナーも開催


安本氏

アクセンチュアはInter BEEに初出展し、独自のクラウド型動画配信プラットフォーム「アクセンチュアビデオソリューション（AVS）」などのデジタルビデオサービスを紹介する。

同社は2010年から本格的にビデオソリューションを手掛け、現在は全世界で展開。英放送チャンネルのBT Sportや、オランダの通信事業者KPNをサポート。インドのスポーツの試合で2500万のアクセスを記録したOTTサービスも同社によるもの。

国内では放送局や通信事業者、コンテンツホルダーをユーザーに想定したサービスを強化する。システムは最短で数カ月程度で実現でき、視聴動向の分析などのコンサルティングサービスも強い。

事業を統括する安本岳史氏は「国内の映像配信事業では、システムリプレイスの動きに期待できる。当社は数年にわたるロードマップを敷いて開発しており、安心して利用してもらえる。システムを自社管理したいという顧客の声も尊重する。Inter BEEでは配信環境について一緒に考えてみませんかと提案したい」と話している。

18日には業界動向と同社のサービスを説明するセミナーも開催する。

速い
4K編集が



10Gbネットワークカード標準搭載
4K編集 高速ネットワーク対応
Comstation XG

高速　コムワークス　検索
http://comstation.jp
日本ケーブルラボ 4Kスマート編集システムの開発に協力しています
株式会社 コムワークス

映像/音響機器レンタル・各種メディア販売
ings-jbs



関西/九州での機材レンタルはお任せください。

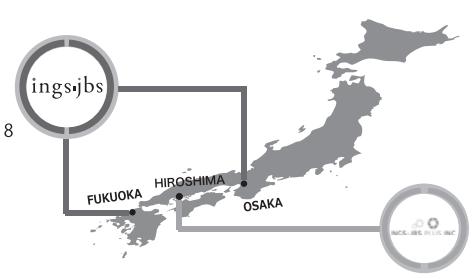
4K撮影のアシストを始めマルチカメラを使用した大規模なスポーツ中継、LIVE中継や、各種イベントでのビジョン出し、また、TV番組やCM、企業VPなどのENG撮影も対応可能です。
機材一式はもちろん、スタッフもお気軽に御用命下さい。

株式会社イングスJBS
事業拠点　http://www.ings-jbs

《大阪本社》
〒541-0042
大阪市中央区今橋1丁目6-19
TEL:06-6202-1247

《福岡ブランチ》
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南5丁目10-18
TEL:092-415-1247

《グループ会社(広島)》
イングスJBSプラス株式会社
〒730-0851
広島市中区榎町8-1
TEL:082-296-1247



パナソニック

4K/8Kスタジオを提案

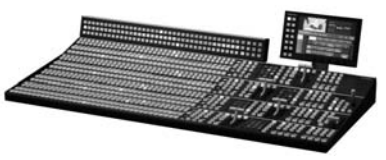
出展製品説明会を開催

Inter BEEに各社が出展

パナソニックは4日、Inter BEE 2016の出展製品や現在の取り組みを紹介した。

現在の国内放送市場は、2006年にピークを迎えた地デジ開始時の投資のリニューアル需要が高まっており、今後は次世代放送や東京五輪による需要が見込まれる。

販売やシステム構築を担当するパナソニックシステムネットワークスシステムソリューションズジャパンカンパニーの奥村康彦専務は「スタジオ映像とファイルベースシステム、伝送サービスの領域を中心に展開し、放送システムの導入数は制作サブが93式でシェア42%、ニュースサブが49式で39%に上る」と実績を説明。15年以降のスイッチャー件名受注占有率は、制作サブが42%、ニュースサブが31%だと明らかにした。データ放送は56局、RMPは128局に納入している。



8Kライブスイッチャーのパネル



AJ-ZS0580

また今後は、「放送局の課題解決に加え、2020年に向けてスタジアムソリューションを力強く推進する」と方針を述べた。

AVCネットワークス社イメージング事業部放送&システム事業担当総括の宮城邦彦氏は、最新技術とそれを使った製品を紹介。12月に発売するカメラ「AG-UX180」に搭載した小型4Kレンズシステムは、4つのレンズグループが同時に独立駆動することで高倍率ズームとボディの小型化を実現した。ボールO・I・Sシステムにより細かな揺れを補正することも可能。「岡山工場の〝匠〟による、パナソニックでしかできない調芯技術だ」とした。

取材現場の映像をLTE回線で伝送する「P2ストリーミングサーバー」や、エクスプレスP2と読み出し速度10Gbpsの技術で、サンダーボルト技術で、を実現したP2ドライブも開発。機能と使いやすさを両立させる製品デザインも特徴だとした。

◆スタジオは12G-SDI

商品設計部長の塩崎光雄氏からは、4K/8Kスタジオシステムの考え方と、それを反映した商品が紹介された。

次世代スタジオについては、「局内設備の用途によりSDI/IPを使い分ける。リアルタイムで制作したいスタジオ設備は非圧縮で遅延なしが望ましい」と定義。信頼性と安定性が高くHD同様に運用できる12G-SDIと、拡張性の高いMoIP（Media over IP）を他社接続互換を重視しながら組み合わせるとした。

テクニカルスイートでは、12G-SDI対応の4K/2K大型ライブスイッチャーを、ルーターや周辺機器と合わせて動作展示する。

HDRライブ運用は、入出力で必要となる信号処理をすべてスイッチャーで変換するシステムを提案。8KのP2レコーダーは、第3世代となる4K/60p、422対応の「AJ-ZS0580」を紹介する。

ラインアップに欠けていた4Kレコーダーも、AVC-Intra圧縮の「AJ-URD100」を開発。4Kヘッド分離型小型カメラも紹介する。

◆詳細＝support-raid-japan.com/red/weapon-8k-s35-press/

池上通信機が開発

4K/HD液晶モニター

3Gと12G、HDMIに対応

池上通信機は、31型4K/HDマルチフォーマットLCDカラーモニター「HQLM-3120W」を17年3月に発売する。国内外の放送局をはじめ、プロダクション、CATV、学校に販売する。198万円（税別）。



HQLM-3120W

同製品は、3G-SDI信号を4本使った信号伝送に加え、2ch の12G-SDIインタフェースを標準搭載する。

4KとHDが混在する時期を想定し、3G-SDI、HD-SDI、HDMIなど多様なインタフェースを装備し、4KはもちろんHD映像も確認が可能。撮影現場で柔軟に運用できる。

LEDバックライトを搭載した31・1型UHD（4096×2160）液晶パネルを採用し、1450対1の高コントラスト、上下左右178度という広視野角を実現。ITU-R BT・2020相当の広色域を再現する。

Inter BEE 2016にも出展する。

RAID

WEAPON 8Kを独占販売

12月末までキャンペーン

小輝日文グループのRAIDは、レッドデジタルシネマ社の8Kデジタルシネマカメラ「WEAPON 8K S35」の国内販売独占代理権を取得した。販売価格は519万8000円（税別、BRAINのみ）。Inter BEE 2016のRAIDブースで展示する。

またRAIDは12月31日まで「REDオーナー価格プログラム」を実施。REDオーナーは優待価格で、WEAPON 8K S35または、RED EPIC-W 8K S35にアップグレードできる。

対象となるのは RED ONE、RED EPIC、SCARLET、WEAPON、SCARLET-W、RAVENのオーナー、あるいは今年10月11日以前にSCARLET、SCARLET-W、RAVENを注文したユーザー。

レッドからの直接購入でも、国内販売代理店からの購入でも対応する。

エーディテクノ

多機能変換機を発売

5型パネルから操作

エーディテクノは、デジタルフォーキャスト社製の5型タッチパネル付き多機能変換機「X-TS」を16日に発売する。

SD/HD/3G-SDIとHDMI、コンポーネント、VGAなどを入出力する。信号をタッチパネルなどで切り替え複数端子から同時出力可能。出力先に合わせて変換できる。音声はアナログ、AES/EBUに対応。SDIとHDMIへのエンベデッド/ディエンベデッド機能も使える。

SDIアイパターン/SDIケーブル長/波形などを液晶下部に透過表示する簡易アナライザー機能を搭載。テストパターンも生成できる。

Inter BEE 2016にも出展。開催初日の16日から12月15日までは特価販売する。

New Media Player
Modulo Player（モデューロ）
modulo π
映像演出を行う全ての人に…
革新的オペレーティングスタイル
Hall 4 #4507
4K 動画のスムース再生
マッピング機能＆カラー補正
外部機器のリモート制御
軽快かつ安定な動作
直感的なインターフェース
自動制御からライブオペレーションまで
4K | Prores | HAP | Multi Audio | Max 6 out | Device Control
Mileruntech マイルランテック ☎03-5496-9836 ✉sales@mileruntech.co.jp

http://www.dspj.co.jp
RAVENNA
AES67 now!
ASIO/Core Audio対応
ネットワーク・オーディオ・インターフェース
MERGING AUDIO FOR THE NETWORKING AGE
HORUS
HAPI
DSP JAPAN
ディーエスピージャパン 株式会社
〒153-0061 東京都目黒区中目黒4-8-5 藤井ビル3F
Tel. 03-5723-8181　Fax. 03-3794-5283
●デモ・資料請求のお問い合わせ info@dspj.co.jp

スタジオ機器間IFの動向に焦点

Inter BEE 2016 16―18日 幕張メッセ



ソニーのネットワーク・メディア・インタフェース対応システムの実演（Inter BEE2015）

拮抗するVoIPと12G―SDI

Inter BEE 2016（主催＝電子情報技術産業協会）が11月16―18日の3日間、千葉・幕張メッセで開催される。今回の機器展でまず注目したいのが、ライブ制作における放送機器間のインタフェース（IF）の動向だ。世界の潮流は確実にIP化に向かっているが、日本の放送、映像プロダクション業界における機器運用では「SDI文化」が根付いている。4K・8Kの流れが進む中で、スタジオ機器間IFはIPに向かうのか、12G―SDIへと置き換わるのか、関連メーカーの提案からその行方を読み取りたい。4K・8K放送実用放送（18年開始予定）が実現に向かって加速する中、4K対応機器のスタンダード化、8K制作機器拡充の様子も見られるだろう。

AIMS Japan出展

海外では2Kの環境で局内スタジオ内伝送IFもIP化が進んでいる。海外の4K化はまだ先の話であるが、今後、世界的な潮流がIPであることは間違いないだろう。

日本でも4K・8K制作の設備需要が高まる中、ソニーを筆頭にライブ制作対応のIFとしてVoIP（Video over IP）技術を用いたIFの提案がされている。

日本の放送事業者による4Kのライブコンテンツ制作は、既に多くの放送局が実績を積むに至っているが、その制作現場における機器間伝送は、3G―SDIを同軸4本で実施するケースが大半で、日本の放送業界における「SDI文化」の根強さを物語っている。

今回のInter BEEは、IPと12G―SDIのどちらが次のスタジオIFの主流になっていくのか、その行方を感じ取る絶好の機会になるだろう。

IPについてはソニーが10GbEベースの「ネットワーク・メディア・インターフェース」による「IP Live Production」を提案。カメラからスイッチャー、サーバーなど一連の機器をIPで接続するスタジオシステムを実現している。ネットワーク・メディア・インタフェースはNHKの8K中継車にも採用されている実績があり、注目度は着実に高まっている。

通信事業者で世界初の「ネットワーク・メディア・インターフェース」のアライアンスメンバーとなったインターネットイニシアチブは、バックボーンや専用線、データセンター、クラウドなど豊富な実績のあるインフラを用い、放送設備と通信設備のハイブリッド化を提案する。

一方で注目される動きが、VoIPの標準化推進団体「AIMS」内の組織として発足した「AIMS Japan」だ。これは日本におけるAIMSのマーケティング活動を目的とする組織で、パナソニックが事務局的な役割を負っている。

AIMSの参加企業は10月21日時点で57社。グラスバレーやエバーツ、アビッド、CBS、21世紀フォックス、NBCユニバーサル、日本メーカーもパナソニック、ソニー、池上通信機、キヤノン、NEC、東芝などが参加している。

AIMS Japanは機器展にブースを出してその活動をPRする一方、IPライブ伝送の各方式と今後の展開をテーマとするパネルディスカッションに参加する。

このほか、AJAは「KONA IP」によるVoIPソリューションを提案。ハーモニックジャパンもSDI over IP技術によるIPワークフローを実演する。

12Gでスタジオシステム

機器展では12G―SDI対応機器も数多く出てきそうだ。4K映像のベースバンド信号を同軸1本で伝送できる利点は大きい。同軸ケーブルでの伝送距離が問題視されていた12G―SDIだが、これは既に100㍍の伝送を実現している。

SDI文化が発達した日本においては、12G―SDIは安心感のある伝送規格であることは間違いない。課題の解消が進む現在、Inter BEEでシステム提案が出てくれば、12G―SDIが一気に存在感を高める可能性がある。

今回、パナソニックは12G―SDI対応4K／2K大型ライブスイッチャー「AV―HS8300」を出展。同時に開発した4K対応ルーティングスイッチャー、4K対応ペリフェラルも4K伝送には12G―SDIを標準採用しており、同軸ケーブル1本で信頼性の高い4Kスタジオシステムが構築できることをアピールする。

朋栄は、12G―SDI、VoIPの両方式で製品を展開。12G―SDI製品はルーティングスイッチャー、マルチビューワーを公開する。VoIPはIPゲートウェイとコンバーターを披露する。

SDI／IPハイブリッドのライブ映像制作・配信システム「NewTek IPシリーズ」を国内初披露するのがアスク／ディストーム。既存設備への投資を損なうことなく、変化し続けられる映像制作環境を実現するという。

コスミックエンジニアリングは、12G―SDI／4K対応を見据えた、安心・安全の中継伝送プランを提案する。リーダー電子の4K波形モニターLV5490は、12G―SDI入力、IP（NMI）入力対応オプションでIPと12G―SDIの両方を同時に観測できる。



4K制作がスタンダードに

BS、110度CSを使って2018年中に開始が予定されている4K・8K実用放送ソフト業務の公募に在京民放キー局の5社、WOWOW、スカパーJSATなど計10社が申請した。新たな放送の実現が迫る中、4Kによるコンテンツ制作はスタンダード化しはじめている。

8K関連機器も進展

4K HDR映像制作システムをけん引するソニーは、HDのための4Kを前面に、4KシステムカメラHDC-4300」を核とした放送用4Kソリューションを展開して着実にシェアを高めている。

パナソニックは、4Kスタジオシステムや送出&ファイルベース、および制作ソリューションを展示。8Kレコーダーと4Kレコーダー、ポータブルレコーダーシステムも紹介する。

共信コミュニケーションズは、HD／4K／8K編集ワークフローを展示。「SGO Mistika」は、オンライン編集やカラーグレーディング、VRを1つにおさめたトータルポストプロダクションシステム。

ブラックマジックデザインは、NAB2016やIBC2016で発表した製品を中心に、トータルなポスプロダクションシステムを展開する。

URSA Miniは、スクリーン上のアイコンに触れるだけでホワイトバランスやシャッターアングルを変更可能。スタジオワークをアシストするURSA Mini Studio Viewfinderは、シネマカメラをプロ仕様のスタジオカメラに変身させる。

池上通信機は4K／HD番組制作ソリューションを中心に、「HDR」「12G」「IP」への取り組みを提案する。富士フイルムは4K制作に対応した高画質・高性能レンズの豊富なラインアップを披露。高画質ズームレンズの新製品「XK6X20」を出展する。

EIZOは、新規提案として「HDR制作ワークフロー」を展示。最終リファレンス用途に、高輝度1000nitの開発中HDR対応モニターを参考出展する。同モニターはHLG、PQカーブにも対応する。

ビデオトロンは、4K化の過渡期に要となるアップコンバーター／ダウンコンバーターを提案。色域変換、HDR（HLG）／SDR変換、カラーコレ機能に対応し高画質で低価格を実現している。

ハーモニックジャパンは、UHDとHDRワークフローとして、4K素材伝送、4Kプレイアウト（送出）サーバー、エンコード配信に至るまでエンド・トゥー・エンドのソリューションを紹介する。

Visual Researchは、リニア編集での作業フローに合わせた新しいハイブリッド編集システム「VRiハイブリッド編集システム」を紹介。ノンリニア編集の課題であったリアルタイムでのテロップ作成・編集を可能にする。

アイ・ディ・ケイは、4K／60（4:4:4）、HDCP2・2対応マルチスイッチャー、分配器、延長器、4K対応ケーブルなどを出展。

8Kの制作環境も一気に進展する。スネル・アドバンスト・メディアは、8K／60pのリアルタイム再生を保証するオンライン編集・カラー&フィニッシングシステム「Quantel Rio 8K」をデモ。シャープ製HDR対応85型モニターで8K HDRグレーディングのデモを披露する。

アストロデザインは、超小型8Kカメラシステムをはじめ、新しい8K編集ワークフロー、フルスペック8K（120p）対応製品も展示する。

IP中継系ではソリトンシステムズが「Smart-telecast-erZao-S」を中心に展示する。モバイル回線で高画質動画をライブ中継できる。

特集 Inter BEE 2016



賑わう機器展会場（Inter BEE 2015）

監視系で多彩な製品

監視装置も多彩な製品が登場する。トラフィック・シムは、複雑化する技術へのサポートをテーマに、新放送に対応する新製品・参考展示を紹介。放送監視システムではMMTにも対応可能な「Alert Magic MMT／TS」を展示する。

既に稼働中の4K／8K法定同録システムと、4K専用のソフトウエアプレーヤー「Jack」を納入実績なども含めて紹介する。

K-WILLは、4K／HD画像評価装置、4K映像・音声検査装置、2K／4K映像・音声監視装置を提案する。

アルビクスは、従来の映像・音声監視システムからIPオンデマンド監視、次世代型放送システムまで、さまざまな放送に関する機器を提案する。

ビデオオンデマンド監視装置は新製品の国内製初となるオンデマンド監視装置。ビデオオンデマンドサービスに接続し、1画面に複数のコンテンツを分割表示できる。

ミハル通信は、「放送局向け緊急回線バックアップ装置」と「IPDCを活用した防災情報ソリューション」を展示する。

放送局向け緊急回線バックアップ装置は、IP送信機とIP受信機で構成され、マスターの放送TSをIPで送出。受信側でIPを中継局に適したインタフェース（TS／IF／RF）に変換して送出可能なシステム。

コンバーター関連製品ではヴィレッジアイランドがSDIコンバーターの低遅延伝送をデモ。TICOで3G-SDI4系統を1系統に圧縮する。12G-SDIをTICOで圧縮する装置もNHKと共同開発した。8Kを12G-SDI1系統で伝送できる。

エーディテクノは、国内正規代理店を務めるDigital Forecast社のマルチコンバーターの新製品「X-TS」を展示。富士通は4K対応H・265／HEVC小型コーデックを出展する。SD、HD、4Kまでの幅広い解像度に対応する。



FUJITSU

富士通のH.265/HEVCコーデック
「IP-HE950」が4Kの映像伝送を実現。
クラス最小・最軽量*ボディーで、
ライブの臨場感をお届けします。

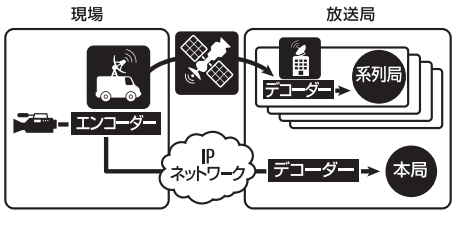
※サイズ：210(W)×300(D)×43(H)mm(突起物を除く)、重量：約2.5kg
放送業務向けコーデック装置として国内最小・最軽量クラス

- ローエンドのSD・HDからハイエンドの4Kまで幅広く対応。
- 1Uハーフラック、A4サイズの小型筐体。
- フロントパネルによる簡単操作。
- IPネットワークだけでなくFPUや衛星経由の同時伝送が可能。
- SFPを採用し、多様なインターフェースに対応。



※2017年2月発売予定

「リアルタイム映像伝送装置 IP-HE950」の
IPネットワーク・衛星伝送の同時配信機能



shaping tomorrow with you
社会とお客様の豊かな未来のために

FUJITSU Network リアルタイム映像伝送装置 IP-HE950

富士通の映像ソリューション　検索

お問い合わせ先：富士通コンタクトライン
0120-933-200
総合窓口　［土・日・祝日を除く 9:00～17:30］

特集 Inter BEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要①

12G-SDI対応ライブSW発表

パナソニック

【ブースNo.6213/2112】

パナソニックグループは、「Broadcast Next Excitement with Panasonic～INNOVATION@Business Front～」をテーマに、映像制作・放送関連機材部門（No. 6213）、プロオーディオ部門（No. 2112）の2部門に出展する。



8Kスーパーハイビジョンレコーダー「AJ-URD100」

映像関連では、4Kスタジオシステムや送出＆ファイルベース、および制作ソリューションを展示。新たに開発した12G-SDI対応4K/2K大型ライブスイッチャー「AV-HS8300」や、8Kスーパーハイビジョンレコーダーと4Kレコーダー、ポータブルレコーダーシステム「POVCAM」も紹介する。

展示ブースでは、2020年に向けワールドワイドスポンサーとしてのメッセージを掲げる。ブースはトータルデザインでの「和」を演出。ステージでは、空間演出やコンテンツ戦略を含めたソリューションをプレゼンテーションする。会期中は毎日、ブースの様子をYouTube Liveで公開する。

AJA Video Systems

【ブースNo.7305】

AJAブースでは、HDR（CTA-861.3）対応ビデオカード「KONA 4」と「Io 4K」を含む最新ワークフロー展示や、「KONA IP」によるVideo over IPソリューションを中心に展示とデモをする。

▽撮影コーナー：AJA初のカメラ製品「CION」、HDBaseT対応のコンパクトブロックカメラ「RovoCam」など▽「Ki Pro Ultra」収録コーナー：ExFAT ファイルシステムやDNxHDコーデックでの収録も可能となった▽編集/配信コーナー：4K/60p編集ターンキー・システムやAJAのビデオI/Oデバイスを使用した多彩なソリューションを紹介▽変換コーナー：4K対応コンバーターをメインとしたミニコンバーターを一挙に展示。

また、IBC2016で発売されたばかりの64入出力SDIルーター「KUMO 6464」、コンバーターのフラッグシップ機「FS4」を出展。実際にモニタリングしながら操作できる環境で展示する。

FS4

アビッドテクノロジー

【ブースNo.3314】

Avid Everywhere構想に基づいた最新ビデオ・オーディオ・報道・スポーツソリューションを、デモンストレーションと展示で紹介する。

Avid Everywhere戦略の基盤となる「Avid MediaCentral Platform」は、世界中で3万8000を超えるユーザーと急速に拡大するパートナー・エコシステムを有し、業界で最もオープンで拡張性が高いメディア制作のための共通プラットフォームだ。 メインステージではPremiere Pro CCユーザーにAvid 制作環境へのアクセスを可能にするMediaCentral | UX Connector for Adobe Premiere Pro CC を紹介する

Inter BEE 2016の海外からの特別ゲストは、映画『ロード・オブ・ザ・リング』や『ホビット』のサウンド・デザインを手掛けたデイブ・ホワイトヘッド氏。16―18日の連日12時と15時10分からの各2回、「映画制作におけるPro Tools によるサウンドデザイン」と題して講演する。



アビッドNEXIS

8Kモニターアウトで編集披露

共信コミュニケーションズ

【ブースNo.8506】

共信コミュニケーションズは、「HD/4K/8K編集ワークフロー」「インジェスト＆アーカイブ」「165型超狭ピッチ4KLEDディスプレー」「4K撮影-高速転送」「オリジナルソリューション」の5分野で出展する。

「SGO Mistika」は、オンライン編集やカラーグレーディング、VRを１つに納めたトータルポストプロダクションシステム。「VRフィニッシング」「HDRグレーディング」を実演するほか、「8Kモニターアウトでのポストプロダクション」を世界で初披露する。

メディアアセットマネジメント「Metus MAM」は、ソニー光ディスクアーカイブ（Optical Disk Archive）の直接制御が実現。

シリコンコア製「P0.95mmウルトラファインピッチLEDパネル」は、165型の超狭ピッチ4KLEDディスプレー。高輝度・超広視野角映像を表現する。

オリジナルのマスク専用ターンキーシステム「-嫺（Miyabi）-」は、CS放送向けの実機を紹介する。「Revnes4K編集システム」はEDIUS Pro7、DaVinci Resolveを搭載し、高レスポンスで快適な操作を実現する。



SGO Mistika



特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要②

ハイエンド制作環境構築を提案

エヌジーシー

【ブースNo.4402】

エヌジーシーは、ファイル転送から3DCG・VFX制作、VR撮影、メディア管理などハイエンド制作環境構築を提案する。

展示するのは、撮影素材などの高速転送を実現する「OpenText Media Management」、DailyMedia作成、RAWプレビュー、カラコレ、編集を1アプリケーションで実現する「DaVinci Resolve 12.5」、新レンダラーを搭載した3DCGソフト「Maya 2017」、コンポジットツール「NUKE&NUKE STUDIO」内でVRコンテンツ制作用Pluginとしてリリースされた「CARA VR」、ユーザビリティーを向上させたフィニッシングツール「Flame 2017」など。

これらのソリューションを支えるシステム環境として、3G-SDIからEthernetまで多種のインタフェースの統合伝送を可能にする「ADVA　FSP-3000」、1Uハーフサイズで16ポートの100GbEを有するネットワークスイッチ「Mellanox　SN2100」、NVIDIA Geforce GTX 1080などのグラフィックスボードを最大8機搭載可能なGPUレンダリングサーバ「CIARA TITAN 380」なども実演。

アドビ システムズ／インテル

【ブースNo.8502】

アドビ システムズ／インテル共同ブースでは、マウスコンピューター機材提供のもと、ハイパフォーマンスなインテル・プロセッサーおよび、耐久性と信頼性をもたらすインテルSSDを搭載したハイエンドワークステーション「MousePro」および、ハイエンドクリエイターPC「DAIV」を展示する。

MouseProのハイエンドモデル「Wシリーズ」は、Xeon E5v4プロセッサー×2基対応で、ノンリニア編集に適したタワータイプワークステーション。全モデルでBTOに対応、CPU、メモリー、ドライブなど多彩なカスタマイズが可能。

DAIVは、GeForce　GTXグラフィックスパワーを生かしたクリエイター向けハイエンドモデル。

シナジー

【ブースNo.8316】

データストレージ技術を中心に、オンセットカラーグレーディング、撮影データマネジメント、インジェストからライブ制作、追いかけ編集、ファイルの入出力やスケジュール送出までのファイルベースワークフローを紹介。

それに加え、トランスコード、フレームレート変換などを含めたワークフロー自動化、そして制作中データのバックアップからメディアアセット管理をもつLTOへのディープアーカイブ、オフサイトまでの完全なデータセキュリティー&データマネジメントソリューションを提案する。

グラスバレー

【ブースNo.8315】

グラスバレーは、「EDIUS Collaboration」と題し、編集ソフトウエア「EDIUS」を活用するユーザーやプラグインメーカー、ハードウエアメーカーが最新のワークフローや活用法を紹介するセミナーを開く。

隣接のホテルニューオータニ幕張では、プライベートショー「グラスバレー・ソリューション2016」を開催。報道支援システムと連携したニュース向け編集ワークフローやEDIUS、ライブプロダクション向けの4K/HD6倍速対応カメラやリプレイシステムを展示する。

今後のインフラ構築に向け、リアルタイムIPプロセッシングノード＆ルーティングプラットフォーム「GV Node」やルーターコントロールシステム「GV Convergent」などのIP対応製品も紹介。同社は放送インフラシステムの概念として、これらを中心にした「ブロードキャストデータセンター」を提唱していく。

プライベートショーの入場には招待状が必要。同社の担当営業や販売代理店まで問い合わせる。

IP化とソフトウエア化に対応

NEC

【ブースNo.5217】

将来の放送局を支える技術であるIP化とソフトウエア化に対するNECの取り組みを紹介。新開発のIPゲートウェイユニット「IPGW4000」を使い、各社のブースとIPでの映像伝送をする。



次世代放送システム向け映像処理プラットフォーム「MF4400」

そして、次世代放送のキーコンポーネントとなる4Kビデオサーバー「Armadia ff 4K」や、新製品の8K HEVCコーデック「VC-8350/VD-8350」などの4K,8K機器も展示。また、次期デジタルテレビ送信機、スタジオサブシステムなどの基幹システムや、CMオンライン送稿へ向けた入稿サーバー・映像プラットフォーム、AIソリューションなどの新商品も出展する。

イメージニクス

【ブースNo.6315】

SDIスイッチャーの新シリーズ「HSシリーズ」の16入力16出力SDIマトリックススイッチャー「HS-1616」と、スキャンコンバーター内蔵のSDI入力HDMI出力変換器「CRO-SHC5」の組み合わせによる、高速切り替えを実演する。

HDMI製品では、アナログ/デジタルどちらも入力可能なスイッチャー「SLシリーズ」の新製品、6入力2出力マルチシグナルマトリックススイッチャー「SL-62C」を展示。

そのほかには12G-SDI対応製品「ISU-3232」「ISU-104」、IMG.Link光伝送器「OIL-TX/RX」、64入力64出力IMG.Linkスイッチャー「ILS-6464」、HDMI入力NTSC出力コンバーター「HDC-165」などの新製品を出展する。





特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要③

HDR、HFR対応の商品群披露

ソニー

【ブースNo.4406】

今回ソニーが掲げるテーマは「Beyond Definition ともに創る。ともに進む。」。ブースでは、2018年の4K実用放送に向けて加速する4K映像制作、それに付加価値を与えるHDR、HFR対応の商品群やワークフローを紹介する。

また、映像・音声信号に加え、制御信号もIP伝送できるIP Live Production Systemや、収録・編集からアーカイブまでをカバーするMedia Backboneをはじめとしたファイルベースソリューションを提案する。

国際会議場201会議室では、4K HDRライブ制作、IP Live Production、CineAltaについて、技術セミナーを実施する。



PXW-Z450

4K対応画像装置の性能が向上

K-WILL

【ブースNo.6211】

K-WILLは評価装置、検査装置のハンズオン展示とQC（Quality Control）ソリューションを紹介する。

「VP4000」はHD画像評価装置「VP21H」の後継機で、4K対応の二重刺激（比較方式）画像評価が可能になった。エンコーダー評価、現用・予備比較、バンク向け検査などに最適。

4K映像・音声検査装置「ProQ4000」は、PCワークステーションに12G SDIによりUHDTV信号を取り込み、ブロックノイズ、ラインノイズ、プチ音など一瞬のノイズをリアルタイムで正確にとらえることが可能。ブースでは検査結果とエラーキャプチャー機能を紹介する。

また、同社QCソリューションの中核となるQuMax PROBEシリーズを展示。新たに4K対応のPROBE4000が加わった。PROBE300シリーズとの組み合わせで、4K/2K映像・音声監視を実現する。フルリファレンス評価実装の二重刺激ユニットにより、画素単位のエラーも検知する。



VP4000

ＴＢＳテレビ

【ブースNo.4505】

TBSテレビ（以下、TBS）は、報道取材用として導入したP2カムコーダーの信号を状況により、さまざまな手段で本社に伝送するフローを紹介するのをはじめ、最新のオリジナル開発機器を展示・実演する。また、各技術に関するトークセッション（www.tbs.co.jp/company/pdf/interbee2016.pdf）も実施するなど、TBSの技術を一挙公開する。

TBSでは、報道、スポーツ、情報制作の完全ファイルベース化が完了。今回は、特に報道での取材からさまざまな伝送路や方法を用いて放送局へ素材を届ける流れや、報道取材ワークフローで使用するP2ストリーミング機能、ファイル伝送機能について、メーカー担当者の開発秘話や具体的な運用方法を含めて紹介する。

また、TBSが開発した高速ファイル転送プロトコル「STORM」とファイル伝送素材選択ツール「コンテンツセレクター」について説明。

FPUやSNGなど既存回線で、ファイル素材もその形式のままで、再生時間よりも大幅に短縮した伝送時間で送信できる「ファイル伝送アダプタ」の使用方法も披露する。

さらに、WOWOW、NIXUS、Xtoneと連携して進めているライブストリーミングアプリ「Live Multi Viewing」、30㌔のケーブルだけで、マラソン・駅伝中継の電波受信性能が大きく改善される開発案件「アンテナシェアリングダイバーシチシステム」を送受側にiPhone1台ずつ用いて映像と音声の遅延時間差を測定できるアプリップシンクアジャスターアプリ『BooLip』、電源や有線インターネット回線がない場所に設置できる完全独立型のタイムラプス カメラシステム「AirLapse」を展示する。

このほか、TBSテレビの番組制作におけるクラウド化の試みや大容量映像ファイル共有・運用についても紹介。4K番組制作における東通の取り組み、テレビ向け動画配信の取り組みなども紹介する。

4K制作ワークフローを実演

フォトロン

【ブースNo.4405】

「4K HDRプロダクション」「EVS スポーツ・スタジアム・ドラマ/バラエティー」「Vizrt バーチャルグラフィックス・オンエアグラフィックス」の3つをキーワードに、最新の映像制作機器・ソリューションを展示・実演。システムインテグレーターとして、豊富に取り扱う製品の中からさまざまな機器を組み合わせた最新のソリューションで、ユーザーのワークフローに合わせた最適なシステムを提案する。



TFX-Artistのメニュー画面

ブースでは4K HDRワークフローデモを連日、テロップシステム「TFX-Artist」導入企業によるスペシャルデモを実施する。



特集 Inter BEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要④

各コーナーで「ユーザー体験」

メディア・インテグレーション

【ブースNo.3218】

メディア・インテグレーションは、従来からスペースを拡大。用途別にブースを構成し、「ユーザー体験」を可能にした各コーナーを設ける。また、プロダクト解説セミナー／システム構築セミナー／Pro Tools12.6HDソフトウエアの徹底解説などを、毎日1時間おきに開催する。

ポストプロダクション／ブロードキャストby ROCK ON PRO：▽Pro Tools12.6HD DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）▽Avid S6モジュール式コントロール・サーフェス▽MERGING Pyramix DAW▽Trinnovモニター・システム・プロセッサー▽DiGiGridネットワーク・オーディI/O／プラグイン・サーバー

レコーディング／ミックス：▽Waves Audio 150種以上のプラグイン▽Apogee Symphony I/O MK2とThundeboltオーディオI/O▽EVE Audioアクティブ・モニター・スピーカー▽Focalアクティブ・モニター・スピーカー

ライブサウンド：▽Waves SoundGridライブ・ミキシング用プラグイン▽DiGiGridネットワークI/O／プラグイン・サーバー▽Earthworks高解像度マイクロホン▽Lewittマイクロホン

ネットワーク・オーディオ：▽DiGiGridネットワーク・オーディI/O／プラグイン・サーバー

キッセイコムテック

【ブースNo.5102】

キッセイコムテックは、映像機器レンタル業者向けの業務システム「KAREN-CORE」を出展する。KAREN-COREは、自社でもレンタル事業を運営しているキッセイコムテックが実際の業務で利用しているシステム。カメラ、マイクなど映像機器のレンタル期間、商品、顧客管理をシステム的に行える。最短導入は5週間から。レンタル事業のノウハウとシステム開発の実績を基に、カスタマイズ対応やクラウドでの利用など、顧客の要望に応じた提案をしていく。

NextoDI

【ブースNo.6109】

NextoDIは、モジュラーメモリーカードバックアップ製品「NSB-25 Plus/NVS2801」を出展する。製品概要：2.4型 TFT LCDモニターを上部に装着し、現行モデルNVS2825のインタフェースを一新して、高速バックアップスピードを実現した。SSDバックアップスピードは、実行速度400MB/s, 128GBを約６分のスピードコピーで実現。

SxS/Cfast/SDメモリーカードビルトイン１式をポータブルケースに組み込んでいる。P2/XQD/CFはオプションのアダプター対応。2K/4Kサムネイル表示およびプレビュー再生。

アズラボ

【ブースNo.7506】

アズラボは、16画面で構成されたマルチシステムを展示する。8K/4K試験放送のパブリックビューイングを実施。8K放送のデモでは、シャープが開発した8K放送の受信が可能な「高度広帯域衛星デジタル放送受信機」が用いられる。同製品は、10月に「CEATEC AWARD 2016 総務大臣賞」を受賞している。

8K試験放送に世界で初めて対応した専用受信機で、同時に複数の番組を放送する4Kのマルチ編成放送も受信できるほか、8K放送の特長である三次元音響の22.2ch音声出力、新字幕、新データ放送などのマルチメディアサービスにも対応している。



高度広帯域衛星デジタル放送受信機（9月の発表会で撮影）

災害情報送出ソリューション

SCN

【ブースNo.8404】

サテライトコミュニケーションズネットワーク（SCN）のブースでは、放送局向けに災害時の迅速な情報伝達をサポートする「災害情報送出ソリューション」や地域のローカル情報を表示する「地域情報送出ソリューション」を展示する。

放送局にとって、ますます重要性が増す地域密着コンテンツの制作とスタッフの運用負荷軽減という課題に対して、最適なサービスやコンテンツを提案する。



災害情報送出ソリューション

エクサインターナショナル

【ブースNo.8602】

エクサインターナショナルは、Inter BEEに初出展し、刷新したバーチャルシステム「Infinity Set」や、LTO-7メディアに対応した「ファイルアーカイブサービス」、4K HDRデモンストレーション映像を展示する。トータルポストプロダクションとして最新の技術を取り入れた独自のサービスを紹介する。

アドバンストバーチャルシステム Infinity Setは、これまでにないレベルで実写とCGが統合し、より斬新で自然なVR合成が可能となった。

「LTS-70+MAMファイルアーカイブサービス」は、LTO-7メディアに対応した、よりコスト効果の高いアーカイブサービスの提案。素材ファイル管理ソフト「LTS-MAM」と連携することで、ネットワーク上のPC・Macから、素材ファイルの登録・検索・再利用・管理ができる一連のワークフローを説明する。





Kyoshin communications

ブースNo8506にて出展いたします！
Inter BEE 2016
11.16水 »» 18金 幕張メッセ

:SGO mistika
グレーディング / オンラインフィニッシングマシン
4K/8K/HDR




編集用ストレージシステム


4K/60p対応ノンリニア編集システム

SilverBullet™
Skeed SilverBullet™ 導入ユーザー様
200社突破！
高速データ転送ソフトウェア


超高精細LEDディスプレイ

インジェストMagic
ファイルベースMagic Enterprise
アーカイブMagic Cube
インジェスト&アーカイブシステム

■ 8K/4K/HDオンラインフィニッシングシステム〔SGO Mistika〕 ■ ポストプロダクション・ワークフロー〔Avid | Interplay、Avid | NEXIS PRO、Avid | Media Composer、Avid | Pro Tools〕
■ インジェスト&アーカイブ〔Metus MAM〕 ■ 超高精細LEDディスプレイ〔Silicon Core〕 ■ 高速データ転送ソフトウェア〔Skeed Silver Bullet〕 ■ 4K編集システム〔Revnes 4K〕

共信 Kyoshincommunications コミュニケーションズ株式会社
東京都品川区北品川5−9−11 大崎MTビル4F
TEL：03-3445-2070 Mail：info_mk@kycom.co.jp
kycom.co.jp

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑤

新開発の4Kカメラシステム

池上通信機

【ブースNo.7216】

池上通信機は、「Broadcast Innovation―より豊かな映像表現をめざして―」をテーマに掲げ、今後ますます実運用化が広がる4K/HD番組制作ソリューションを中心に、「HDR」「12G」「IP」への取り組みを提案する。主な出展機器は次のとおり。

▽新開発の2/3型4KCMOS 3板式カメラシステム「UHK-430」▽UHK-430のカメラコントロールユニット「CCU-430」▽「FE741D」7.4型OLEDなど新型ビューファインダー▽システムエクスパンダー「SE-U430」▽超高感度マルチパーパス3MOS HDTVカメラ「HDL-F3000」▽4K対応マルチフォーマット液晶モニター「HQLM-3120W」。HDR対応タイプも参考出品する▽1.2/2.3GHz帯デュアルバンド対応タイプの超小型FPU送信機「PP-90」。

そのほか、4K対応コンパクトスイッチャーやFPU集中制御システムをはじめ、多数の製品を展示する。



UHK-430

海外21社の映像・音響機器

テクノハウス

【ブースNo.3114/3503】

海外約21社の映像・放送関連機器、イベント関連機器、プロオーディオ機器を映像とオーディオの2ブースで紹介する。

プロオーディオ部門（No.3114）では、デジタルミキサー、音声コーデック、IP回線二重化ユニット、Ravenna対応マスタークロック、FMリファレンスモニターといったテレビ・ラジオ放送用音声機器を多数展示する。

映像制作/放送関連機材部門（No.3503）では、IP伝送や中継機材など各種放送関連機器、グレーディングシステム、フィールドレコーディングモニター、イベントスイッチャーなどの映像機器を展示。AVIWEST社のビデオ中継送信ソリューション新製品「DMNG PRO 180-RA」も出展する。



ConvergentDesign社製品「apollo」

ティ・アイ・ディ

【ブースNo.4714】

TIDブースでは、4K映像編集環境で複数の導入実績を持つ台湾Accusys社製高速ディスクストレージ「ExaSAN」シリーズ、「T-Sahre」シリーズを紹介する。

ExaSANシリーズのラックマウント型モデル「A16S3-PS」は、サーバーやワークステーションとPCIe（PCI-Express）で直結することで、SATA HDDを搭載しながら2000MB/s超のI/Oパフォーマンスを実現。専用のPCIe-SANスイッチを使用することで、安価なSATA-HDDベースのディスクストレージで高精細映像編集システムの構築が可能になる。「T-Sahre」シリーズからは、Thunderbolt3.0ポートを4基備え、4台のThunderboltクライアントから共有可能な新モデル「A12T3-Share」を展示。

豊富な製品ラインアップ紹介

伊藤忠ケーブルシステム

【ブースNo.2502/5416/7112】

報映産業と統合して初の出展となる今回は、ファイル編集から配信までのトータルソリューションをこれまで以上の豊富なラインアップで紹介。映像制作放送関連機材部門（No.5416）において次のカテゴリーに分け展示する。①ファイルベースワークフロー～トランスコーダ～4K/8K関連ソリューション②映像制作編集ソリューション③マルチスクリーン配信・管理・プラットフォーム④映像伝送ソリューション――。

プロオーディオ部門（No.2502）では、英AMS Neve社製デジタルコンソールの最新モデル「DFC 3D」を国内初公開する。DFC 3DはDolby AtmosやAuro-3Dなど3Dサラウンドにネイティブ対応したサラウンド・パンニングシステムを搭載。最大16システムを扱うミキシングエンジンなど、映画やTV制作に不可欠な機能を備える。

テクトロニクス

【ブースNo.4607】

「放送・メディア業界のIPマイグレーション、4K HDR/WCG、ファイルベースQCをサポート」をテーマに最新ソリューションを展示する。内容は次のとおり。

▽IP/SDIメディア解析：2016年8月発売の「Prism」を国内で初披露。マルチフォーマット対応のビデオ・シグナル・ゼネレーターSPG8000A型も紹介する。▽ベースバンド計測/モニタリング：波形モニターWFM8300型は導入後に4K対応へとアップグレード可能。4K/UHDTV1から3G/HD/SD-SDI、Dual Linkのほか、新たにHDR/WCGのサポートも追加した。併せて、TG8000型信号ゼネレーター、9ch自動チェンジ・オーバー・ユニットECO8000型なども展示。▽IPTV/MPEG：MPEGテストシステムMTS4000型は、4K映像HEVC解析をサポート。MPEGトランスポート・ストリームのリアルタイム解析機能を持つ。また、HEVC/H.265対応のMTS4EAV7型 HEVC/AVCビデオ＆オーディオ・アナライザーも紹介。▽ファイルベース：ネットワーク経由のビデオコンテンツ納品をサポートするAuroraを展示。



80 million EOS　120 million EF
EOSは2015年11月10日に累計生産台数8,000万台、EFレンズは2016年8月26日に累計生産本数1億2,000万本を達成しました。

キヤノン CINEMA EOS SYSTEM ホームページ
canon.jp/cinema-eos

キヤノンお客様相談センター/映画制作機器
050-555-90006

[受付時間] 平日9:00～17:00（12月27日～1月4日は休ませていただきます。）※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-5428-1208をご利用ください。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑥

IP映像伝送テクノロジーを紹介

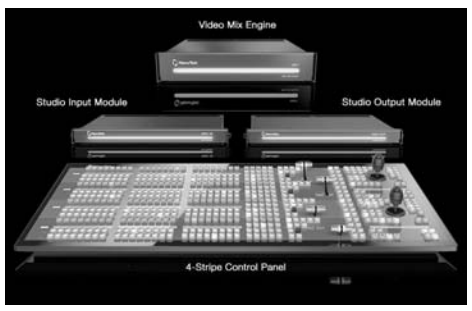
アスク／ディストーム

【ブースNo.7212】

アスクとディストームは共同ブースで、NewTekのIP映像伝送テクノロジー「NDI（ネットワーク・デバイス・インタフェース）」を紹介。NDI搭載のライブ映像制作・配信システム「NewTek IPシリーズ」を国内初披露する。

NDIはイーサネット接続されるNDI互換のシステム、デバイス、PCなどに対して、IPワークフローを利用し高品質かつ低遅延な複数のビデオストリームの双方向伝送を可能にする技術。映像制作システム「TriCaster」、スローモーション/リプレイシステム「3Play」、Skypeによる中継システム「TalkShow」にも対応する。

NewTek IPシリーズはSDI/IPハイブリッドのライブ映像制作・配信システム。モジュール型アーキテクチャー採用のメインシステム「Video Mix Engine」、複数Video Mix Engineを制御可能な4段スイッチャー「4-Stripeコントロールパネル」、SDI/IP入出力の増設オプション「Studio Input/OutPutモジュール」で構成される。既存設備への投資を損なうことなく、変化し続ける映像制作環境を見越して設計された。

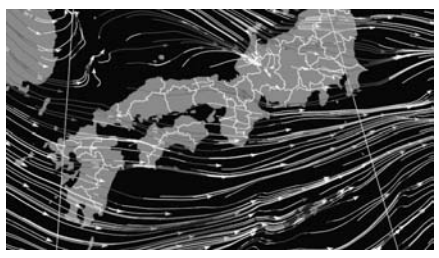


NewTekの製品群

クロスイメージング

【ブースNo.5214】

放送メディアに向けた地震・津波などの防災情報送出システム、気象情報送出システム、緊急地震速報システム、L字お天気チャンネルシステムなどを出展する。今展示会では、好評の3D気象情報作画システムBOLTに加え、風の流線を立体的に見せる新しい表現などのデモを実施予定。また、より操作性を重視した新GUIも紹介する。


気象情報作画システム

クロスイメージングでは、迅速かつ正確な情報伝達が求められる放送業界のニーズに対応するため、アプリケーションをはじめ各種ハードウエアも、自社で設計、開発、保守運用サービスまで一貫したソリューションを提供している。現在、全国のテレビ局、BS・CS局、CATVなどで日々利用されている。

日本デジタル・プロセシング・システムズ

【ブースNo.4708】

DPSJはテクノネットとの共同出展で、ビデオコンテンツ制作から管理・配信の効率化と最適化、マネタイズを実現する最新のストリーミングおよびファイルベースのソリューションを展示する。内容は以下のとおり。

ストリーミングソリューション▽小型USB接続キャプチャーデバイス「Magewell USB Capture HDMI/SDI」▽マルチ入出力可能な業務用ライブエンコーダー「Imagine Communications社 SelenioFlex Live」▽業界標準のストリーミングサーバー「Wowza Media Systems社 Wowza Streaming Engine」▽HTML5対応HLS/MPEG-DASHプレイヤー「THEOplayer社 THEOplayer」

ファイルベースソリューション▽4 HDMI入力のキャプチャーボード「Magewell Pro Capture Quad HDMI」▽多機能インジェストソフト「Metus社 Metus INGEST」▽アセットマネジメントソリューション「Metus MAM」▽MXFファイル専用QCツール「Metaglue MXFixer」。

スポーツ集音技術を参考出展

NTTグループ

【ブースNo.6509】

NTTグループ3社は共同ブースで出展する。

NTTアイティは、多機能ビデオプロダクションハブ「viaPlatz 4K/8K」を用いた4K映像制作ワークフローと、ビデオストリーム監視システム「viaPlatz Stream Monitor」を出展。NTTアドバンステクノロジは、スポーツ集音技術の参考出展として、PAキャンセラー搭載ターゲットマイクを紹介する。NTTエレクトロニクスは、自社開発ASIC搭載、クロマ4:2:2 10bit H.265/HEVC対応リアルタイムエンコーダー/デコーダーの新製品「HC10000/HC11000シリーズ」を展示・デモする。

また、メディアインテリジェンス研究所からは「HDR映像符号化技術～4K-IP放送サービスへの展開～」と題し、同研究所開発のHDR映像符号化技術の紹介や、同技術を適用したHLG方式対応伝送装置を展示。10月に開始されたNTTぷららのIP放送サービス動態展示も実施する。

インターネットイニシアティブ

【ブースNo.4509】

2つのソリューションに分けて自社サービスを紹介する。

IP映像伝送：IIJはソニーのIP Live Productionに賛同し、通信事業者で世界初のアライアンスメンバーとなった。バックボーンや専用線、データセンター、クラウドなど豊富な実績のあるインフラを用い、放送設備と通信設備のハイブリッド化を提案する。

ライブ中継：イベント中継に必要なコンポーネントを提供。映像をブロードバンドやモバイル回線で送信し、IIJ設備で視聴デバイスごとに最適化。映像をリアルタイム配信する。「IIJ大規模コンテンツ配信サービス」のほか、Youtube Live、Ustream、ニコニコ動画、フレッツキャストにも対応。



特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑦

NAB、IBC発表製品を多彩に展示

ブラックマジックデザイン

【ブースNo.8261】

ブラックマジックデザインは、NAB2016やIBC2016で発表した製品を中心に、展示する。

新しいユーザーインタフェースとなったURSA Miniは、スクリーン上のアイコンに触れるだけでホワイトバランスやシャッターアングルを変更可能。スムーズな使い心地を実現する。スタジオワークをアシストするURSA Mini Studio Viewfinderは、シネマカメラをプロ仕様のスタジオカメラに変身させる。



URSA Mini

DaVinci Resolve 12.5はVFXツールのFusionと連携。HDRグレーディングツールやフィルムグレインなどのエフェクト機能の追加で、さらに進化している。

Teranex AVは、ライブイベントでの柔軟な運用を可能にするHDMI入力やHDMI ループスルー/HDMI出力を搭載。単体でHDMI-SDI変換を実現する。

新機能が追加されたVideo Assist 4Kや、40Gbps/Thunderbolt 3/PCIエクスプレス対応のUltraStudio 4K Extreme 3も紹介。ブース内ではDaVinci ResolveとFusion Studioの実演を披露。ユーザーのデモを予定している。

ビデオトロン

【ブースNo.6315】

豊富なラインアップを誇るモジュール製品Vbus-70シリーズから、新たに4Kラインアップに追加された新製品を中心に4Kソリューションを展示する。

Vbus-70シリーズは、4Kシステム移行をスムーズかつローコストで実現するソリューションをサポートする。4Kアップコンバーター/ダウンコンバーターは4K化の過渡期に要となる製品。色域変換、HDR（HLG）/SDR変換、カラコレ機能に対応し、高画質かつ低価格を実現した。そのうち「HUC-70」はHD→4Kアップコンバーター（税抜き55万円）、「UHC-70」は4K→HDダウンコンバーター（税抜き45万円）。

そのほか、4Kシグナルジェネレーター、4Kマトリックススイッチャー、4K信号分配器、4K信号監視、4K DSKなど、さまざまな4Kラインアップを出品する予定。



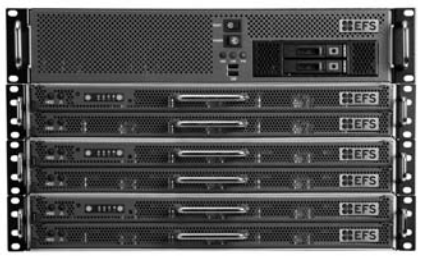
「HCU-70」㊧と「UHC-70」

ビジュアル・グラフィックス

【ブースNo.6515/7303/3314/5607】

ビジュアル・グラフィックス（VGI）は4つのブースでソリューション別に出展する。

朋栄ブース（No.6515）では、4K HDRやVRなどの最新映像制作に欠かせないツールを搭載する「Autodesk Flame」の最新情報を展示。エディットシェアの素材共有ストレージ「Xstream EFS」は、優れたフォールトレランスと拡張性、高速で低遅延なアクセスが特徴。HDDとSSDのノードグループ階層化に対応した最新モデルを展示する。プロキシ再生をベースにしたリモート編集システム「Flow Story」は、クラウドベースでの協調編集環境を実現した。



素材共有ストレージ「XStream EFS」

アマゾン ウェブ サービスジャパンのブース（No.7303）で紹介するハイブリッドクラウドストレージ「Strato Gateway」は、S3に対してオンプレミス内のデータ情報を収集分析し、ポリシーベースで自動アーカイブ処理する。アドビPremire Proのクラウドベース協調制作機能を、VGIインテグレーションによりAWSクラウドと連携させた環境も提案する。

アビッドブース（No.3314）では、8K描画に対応する、大型スクリーン向けのリアルタイムグラフィックスウォールディスプレー製品「PowerWall」を紹介。

イーサネットスイッチを開発するメラノックスのブース（No.5607）では、VGIの「WIRED SERVER」100ギガビット版を参考出展する。

クラウド環境へのニーズに対応

ヴィレッジアイランド

【ブースNo.6508】

ヴィレッジアイランドは、「リターン・オン・インベストメント」（投資効果）および「タイム・ツー・マーケット」（必要な時に必要なものを迅速に提供）に即したソリューションを提供する。

放送市場におけるクラウド環境へのニーズの高まりには、Quales社の画質自動評価ソフトなどを提案する。新開発の自社マルチビューワー「FlexViewer」や、高品質インジェスト・トランスコーダ「DALET AmberFin」も披露。

自社製品では、SDIコンバーター「VICO-4」の低遅延伝送をデモする。TICOで3G-SDI4系統を1系統に圧縮する。



VICO-4



VICO-8

12G-SDIをTICOで圧縮する「VICO-8」もNHKと共同開発した。8Kを12G-SDI1系統で伝送できる。

放送局向け緊急回線バックアップ装置
自然災害、フェージング等による放送中継回線の障害時に
MIHARU

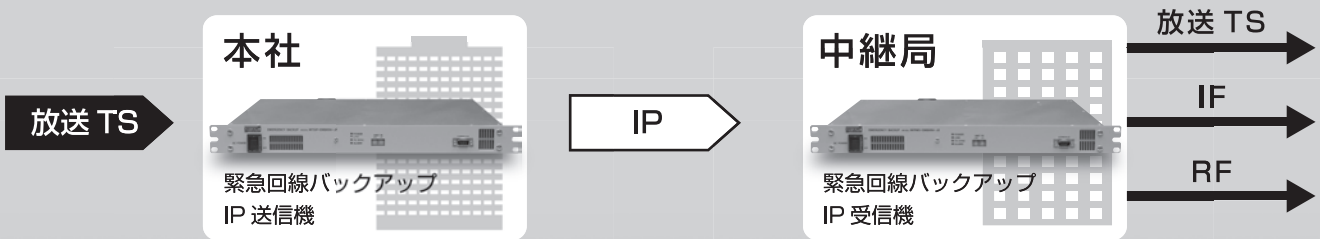


緊急回線バックアップ IP 送信機



緊急回線バックアップ IP 受信機

●マスターの放送 TS を IP で送出、各中継局に適したインターフェースで送出可能



●通信はユニキャスト、マルチキャストに対応
●電源電圧 AC100V、IP 受信機は中継局での使用を考慮して DC48V にも対応

出展告知 Inter BEE 2016
11.16 水 ⋙ 18 金 幕張メッセ
小間番号 6307（ホール 6）
出展内容 緊急回線バックアップ装置 ／ IPDC 防災情報ソリューション

三八通信株式会社
本社 〒247-8538 神奈川県鎌倉市岩瀬1285 TEL 0467(44)9111(代)
東日本 中部 関西 中国 九州 西東北 信越 北陸 北関東 山陰 四国
http://www.miharu.co.jp

FOR.A® × InterBEE

最先端技術への取り組みを中心に、多数の新製品、ソリューションを展示します



Video over IP

各種 IP 規格に対応し、相互変換を実現する IP ゲートウェイ、ファイルベースとの親和性を高めたインジェストエンコーダを開発。ベースバンド、ファイルベース、IP の融合を実現します。

12G-SDI

4K/8K システムの簡素化に向け、ルーティングスイッチャ、マルチビューワ、プロセッサ、キャラクタジェネレータなど各種製品で対応していきます。12G-SDI と 3G-SDI の相互変換も提供します。



HDR・広色域



画像処理技術を活かし、従来の環境とHDR、広色域環境を相互変換可能なプロセッサを開発。HDR 制作環境を支えます。

4Kアーカイブ

最大記憶容量 6TB（非圧縮時）の LTO-7 テープへのデータ保存と高速インターフェースによる転送速度の向上により、4K 時代に求められる大容量のアーカイブやバックアップをサポートします。



Inter BEE 2016
11.16 水 ≫ 18 金 幕張メッセ
ホール6 ブースNo. 6515

FOR-A World of Possibilities

FOR.A® INNOVATIONS IN VIDEO and AUDIO TECHNOLOGY

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑧

自動化で合理的なモニタリング

スネル・アドバンスト・メディア

【ブースNo.3505】

クォンテルからスネル・アドバンスト・メディアに改称して2度目となるInterBee最大の見どころは、8K/60pのリアルタイム再生を保証するオンライン編集・カラー＆フィニッシングシステム「Quantel Rio 8K」。シャープ製HDR対応85型モニターで、8K HDRグレーディングのデモを披露する。また、スポーツハイライト・リプレーシステムの「LiveTouch」、自社独自の技術により自動化された合理的なモニタリングを実現する「Media Biometrics」、IP対応の「IQ Modular」製品群なども紹介。ライブプロダクションからIPまで、幅広いビジネスをカバーする製品をそろえる。



クォンテル Rio 8K

エレメンタルテクノロジーズ

【ブースNo.7307】

エレメンタルテクノロジーズは、ソフトウエアベースのビデオソリューション（SVD）による、オンプレミスとクラウドでの映像制作から、配信までのフローと収益化を紹介する。

技術展示では、4K/HDR/HLG映像処理クオリティーを見せるほか、クラウドとオンプレによるライブチャンネルプレイアウトに、モーショングラフィックスオーバーレイ、番組自動放送システム（APC）を含む放送サブとOTTを収束させたシステム構築、さらに、SDI over IP対応のライブエンコードシステムを、実機デモを交えて紹介する。

PDシステム

【ブースNo.8002】

PDシステムは、カメラ映像に含まれる要素の輝度変化を検知するシステムパッケージ「交差点劇場」を出展する。

このシステムによって、交差点付近に設置したデジタルサイネージのコンテンツを、信号機の色に応じて切り替える運用が可能になる。主に交差点の信号機が監視対象で、固定カメラで信号機の赤、青のライトを撮影。信号の輝度を調べることで、どのライトが点灯しているのかを判断する仕組みだ。

例えば、青信号では運転を妨げないような静的なコンテンツを、赤信号では製品PR動画などの動的なコンテンツを表示する――といった運用も可能になる。ブースでは、交差点ミニチュアを使ったデモを実施する。

サードウェーブデジノス

【ブースNo.8210】

「最新のハードウェアを使用した、次世代の映像ソリューション」をテーマに、映像制作に特化したWindowsサーバー、ワークステーション、クライアントPCを出展する。

動画配信業者、クラウド事業者に向けた4K/60p HEVC動画変換ソリューションやIP映像スイッチソリューションのほか、制作チームごとの導入が可能な4Kネイティブ編集機向けPCを紹介。さらに、VRのHMDで視聴するための360度動画制作・リアルタイム配信用PCを参考出展する。

ブースでは、VideoStitch Vahana VRを使用して、GoPro6台からのビデオ映像をPC上で360度映像に合成し、リアルタイム配信のデモを実施する。

8K対応の最新ソリューション

アストロデザイン

【ブースNo.3506】

2016年8月1日に試験放送が開始された8Kは、2018年の本放送開始と2020年の東京五輪開催に向け、より進化を遂げる必要がある。ブースでは、超高精細映像8Kスーパーハイビジョン製品、デジタル放送業務に欠かせない最新機器および最新技術を一堂に展示。超小型8Kカメラシステムをはじめ、新しい8K編集ワークフロー、さらにはフルスペック8K（120p）対応製品も展示する。出展内容は以下のとおり。

▽8Kソリューション：カメラヘッド「AH-4801-B」、55型液晶モニター「DM-3815」、フルスペックSSDレコーダー「HR-7518/HR-7518-A」など▽放送関連機器：字幕監視装置、4K-HD低遅延切り出し回転装置「GP-4020-A」など。

そのほか、HDR測定機器、HDMI解析ソリューション、4K/8K放送の送出設備・受信機開発ソリューション「MMT」、遠隔拠点の放送監視システム「MPEG-2 TS」なども展示する。



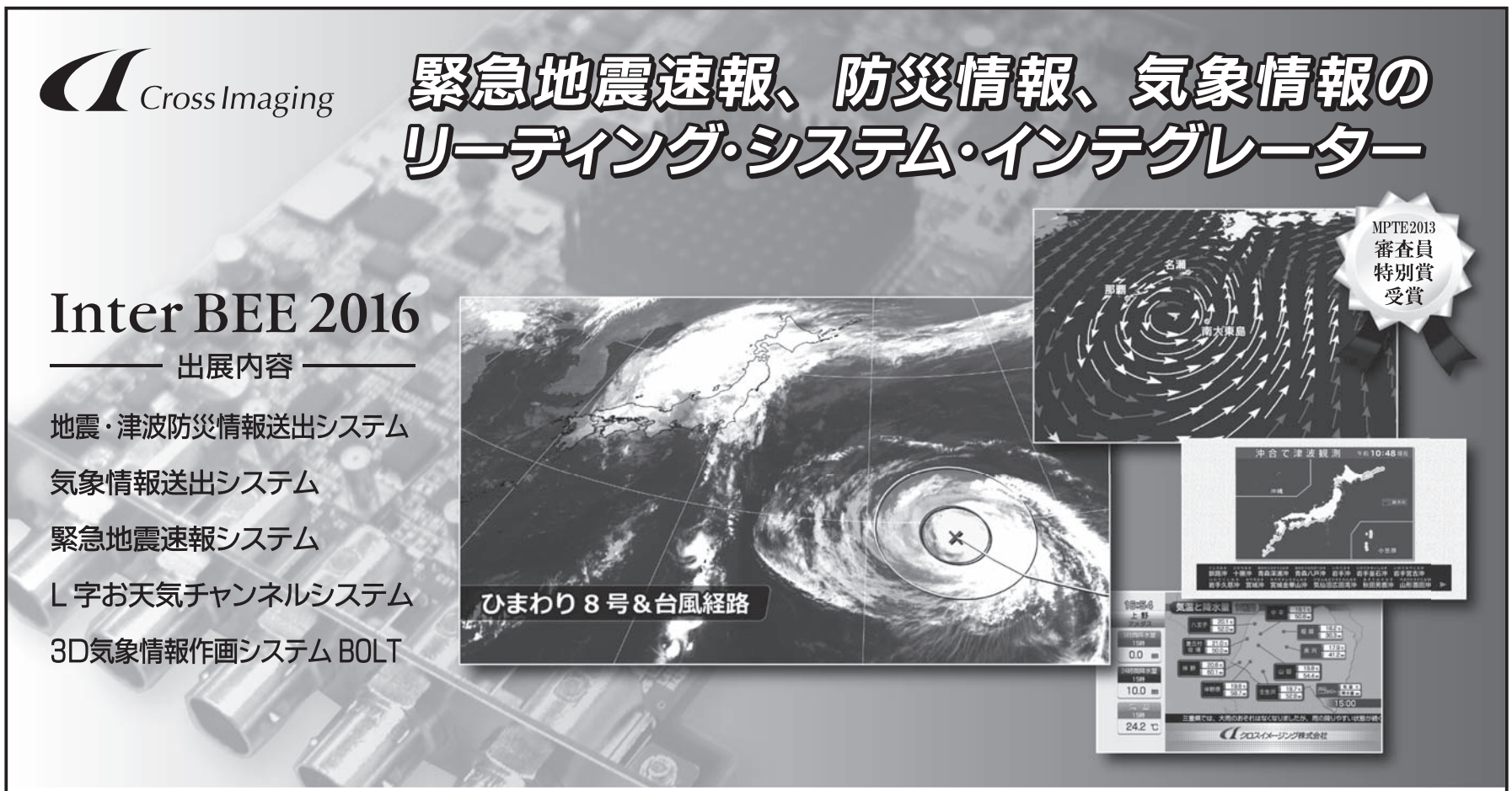
SSDレコーダー「HR-7518」

アルゴ

【ブースNo.6409】

アルゴは、講演やイベントなどをリアルタイムで録画・配信できるEpiphan社の録画配信ユニット「Pearl」を出展する。同製品は1台で複数のVGA、DVI/HDMI、SDI信号をキャプチャーでき、それぞれの入力映像の自由なレイアウトが可能。レイアウト映像はその場で録画およびストリーム配信でき、複数のレイアウトを作成しておくと、録画・配信中でもレイアウトを切り替えられる。12月には4K対応でさらにパワフルになった「Pearl2」もリリース予定だ。

そのほか、ブースでは各種映像信号をUSB/PCIe経由でPCに取り込めるキャプチャー製品や、カンファレンスカメラ「LUMiO 12x」を展示する。



特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑨

6エリアに分け最新技術紹介

朋栄

【ブースNo.6515】

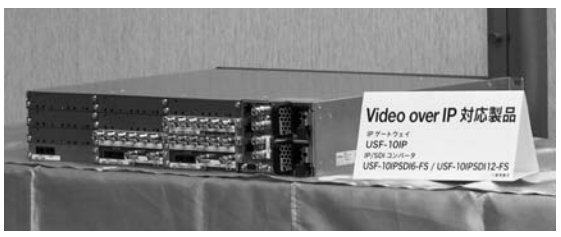
朋栄は、「FOR-A World of Possibilities（無限の可能性に向けて）」をメインテーマに掲げ、ブースを6エリアに分けて展示する。

最新技術展示エリアは、12G-SDI、HDR（ハイダイナミックレンジ）、WCG（広色域）、HFR（ハイフレームレート）、Video over IPといった最新技術への取り組みを中心に展示。12G-SDI製品はルーティングスイッチャー「MFR-4000」、マルチビューワー「MV-4320/4220」を公開。VoIPでは、IPゲートウェイ「USF-10IP」、IP/SDIコンバーター「USF-10IPSDI6-FS/10IPSDI12-FS」を参考展示する。

スタジオソリューションエリアでは、同社を代表する製品を組み合わせてサブシステムを構築。再撮向けに高度な演出が可能なFLEXaVISIONを使ったビデオウォールシステムや、バーチャルシステムを展示する。

スタジアムソリューションエリアでは、スポーツイベントを想定し、スタジアムなどの場内送出用設備をシステム展示。制作ソリューションエリアでは、制作環境に向けたベースバンド、ファイルベース、グラフィックス製品を紹介する。

局内回線設備や伝送設備に向けた製品を扱う伝送ソリューションエリアや、データバックアップに向けたアーカイブソリューションエリアも用意する。



IPゲートウェイ「USF-10IP」

三信電気

【ブースNo.8215】

三信電気は、IBCで発表した新製品を中心に、コストパフォーマンスに優れた最新映像ソリューションを紹介する。全国の地上波放送局で多数活用されている「LiveU」は、LTEや4Gなどの携帯回線を使用して、容易にHDライブ中継が可能になる簡易中継システム。今回の展示会では、LiveU初のH.265/HEVCにも対応可能なモバイル中継装置「LU600」、4Kエンコーダー「LU710」などの新製品を中心に、展示・デモをする。

そのほか、Imagine Communications社の4Kビデオサーバー「Nexio Amp」、SDI/IPコンバーター「Selenio MCP3」、ProMAX社製ワークフローストレージシステム「Platform Portable」「Online 1000」、Capella社製4K対応トランスコーダー、ライブエンコーダー「Cambria FTC」「Cambria Live」、NECの4Kディスプレー「LCD-X651UHD-2」や画像鮮明化装置、アビッド「Media Composer」、Blackmagic「Teranex Mini」「HyperDeck」も展示する。

芙蓉ビデオエイジェンシー

【ブースNo.6314】

芙蓉ビデオエージェンシーは、IPビデオルーターシステムや無線タリーシステムを展示する。

IPビデオルーターシステムは、IP-SDIインタフェース基板を実装した「IPG3000」とIPベースのAVルーティングを行う「IVR3000」の組み合わせをメインとしたVIDEO over IPルーティングシステム。無線タリーシステムは、親機の「TZC101M」と子機の「TZE100A」で構成され、2.4GHz帯の無線で送受信できる。

また、4Kモニターに3G/HD-SDIの16分割表示が可能な「HMV163A」や12Gのインタフェースを参考出品するほか、同社標準機器を展示する。

4K制作対応の多様なレンズ群

富士フイルム

【ブースNo.7304】

4K制作に対応した高画質・高性能レンズの豊富なラインアップを披露する。

新製品としては、NABショーで発表した高画質ズームレンズ「XK6X20」を出展。これは、併せて展示するドラマ制作などで高評価を得ている4K/PLマウントレンズ「ZKシリーズ」の姉妹機にあたる。ワイド端焦点距離20㍉から望遠端120㍉、ズーム全域でT3.5を実現しており、Tドロップを抑えることで、屋外ロケから番組制作まで1本のレンズでさまざまな撮影が可能になるなど、実用域が拡大した。

一方、スポーツ中継などで好評の2/3㌅4Kカメラ用レンズ「UAシリーズ」も展示・デモする。また、「UA80X9」や「UA22X8J」をはじめ、箱型望遠ズームやワイドズーム、ハンディー型もラインアップし、4Kレンズによる高画質映像体験を提供する。

その他、4K/PLマウントレンズ「HKシリーズJや箱型高倍率ズームレンズ「XA99X8.4」も展示する。


「UAシリーズ」

平和精機工業

【ブースNo.5415】

平和精機工業は三脚ブランドLibec（リーベック）から、IBCで発表されたエントリー三脚「TH-X」や、今回が日本初披露となるビデオ一脚「HFMP」を展示する。HFMPは、自立性能を第一目的として考案された新しいタイプの一脚。ブースでは実際に手に取り操作できる。

また、無段階カウンターバランスシステムを搭載したRSとスライダーシステム「LIBEC ALLEX」の組み合わせ提案や、三脚システムのフラッグシップモデル「RS PLUS」のスタジオ仕様をはじめ、伸縮式ジブアーム「SWIFT JIB50 KIT」、リモートヘッド「REMO30」も体感可能。これらの製品に加えて、修理サポート相談窓口を設置し、日本メーカーならではの充実したアフターサービスを提示する。

POMFORT fn
LiveGrade PRO
ボムフォート ライブグレードプロ
ライブグレードで
オンセット・カラーグレーディング
LiveGradeは、HD-SDIやUHD/4Kライブ映像フィードへのカラーコレクション操作をリアルタイムに反映。LUT/ルックを適用した映像の確認や、ルックの作成、プレビュー、ルックの比較検討が撮影現場で行えます。

POMFORT fn
Silverstack
ボムフォート・シルバースタック
オールインワン撮影素材管理ツール「シルバースタック」
大切な素材管理とカラーの
ワークフローをシンプルに。
撮影素材のプレビュー、整理・分類、バックアップ、編集工程の下準備をこなせる撮影メディア管理ツール。
各種RAWフォーマットに対応するほか、新たにカラーの管理や、クリップごとのカラーデータとのマッチング機能を追加しました。

えいぞうこ
EIZOKO
NAS機能つきアーカイブアプライアンス
シナジー「EIZOKO」(えいぞうこ)は、LTOテープへのアーカイブとアーカイブ後のデータの活用を快適にする機能を備えた映像制作者に最適なアーカイブシステムです。
Archiware P5をストレージOSに統合し、あらゆるメディアデータをLTOで保管・管理。 映像制作において使用される、台本や香盤表のワードやPDFから予算管理のエクセルデータまで全てをLTOへアーカイブします。

映像用途に特化した国産NASストレージ
MIDO NAS

CineRAID
Advanced Storage for Digital Cinema

Macで放送局システムを構築するブロードキャストスイート
tools ON air
ツールズオンエア

プロジェクト共有・管理 編集コラボレーションシステム
STRAWBERRY
by FLAVOURsys
フレイバーシス・ストロベリー

Synergy 株式会社シナジー
www.synergykk.com TEL : 03-3654-3883

世界最小・最軽量 H.265 モバイルハードウェアエンコーダ
Smart-telecaster Zao-S
Soliton
LIVE 100% HDMI
STANDBY
BR 4.0 Mbps
FR 30.0 fps
MENU START
POWER
映像・放送関連機材部門
第6ホール
ブース番号 6501
Soliton®

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑩

4K HDR制作に対応した各種製品

キヤノン

【ブースNo.7306】

キヤノンは、「入力から出力まで、拡がる表現力で、映像はその先へ。4K HDR BY CANON」をテーマとして出展する。4K HDR制作に対応した各種製品やワークフロー提案、8K関連の参考商品を展示する。

4K放送向けのレンズ「UHD DIGISUPER 27」は、高い光学性能と運用性を両立。HDレンズ同様の機動性や快適な操作性を実現した。

ディスプレーでは、新たにラインアップに加わった17型「DP-V1710」と、ST 2084およびHLG表示が可能な高輝度の「DP-V2420」を紹介。4K/60p記録できるCINEMA EOS SYSTEMの旗艦カメラ「EOS C700」や、EOS C300 MarkⅡとのマッチングが良い業務用カメラ「XC15」、4Kレーザー光源で業界最小、最軽量を実現したプロジェクター「4K600STZ」も展示する。

ブースでは、レンズやディスプレーの開発者や、EOS C700ユーザーによる多数のミニセミナーを開催。昨年好評だったHDR制作ワークフローも実演。

カメラやレンズ、ディスプレーまでHDRに必要な製品をそろえたキヤノンならではのブースを展開する。



EOS C700

インターテック

【ブースNo.5512】

「ケーブルテレビの情報チャンネルの充実化」をテーマに掲げ、データ放送とL字放送を連携した「情報チャンネル送出システム」を出展する。ブースでは、データ放送画面での河川カメラの映像表示と、災害発生を想定したL字放送の自動切り替えデモを実施する。

製品の特徴は次のとおり①情報チャンネルをキーワードに、DATA放送とL字放送を共有した情報チャンネル送出ユニット②緊急文字放送システムは、定点カメラの送出、緊急速報メールの送出、J-ALERT、L-ALERT、RSSにも対応③情報カメラ送出ユニット、定点カメラの信号を受信し、地図などの壁紙に画像を配置。4―16分割までの送出ができるターンキーシステムを搭載――。

このほか、最大9chまでコントロール可能なAPC（自動番組送出制御装置）「CONTRUST」、ライブ送出時に現場からクリップ送出ができる「ポンだしくん」も出展する。「ポンだしくん」は、5個のスイッチにクリップを登録することで、TAKE感覚でのクリップ送出が可能。野球などのライブ中継に適している。

カールツァイス

【ブースNo.7417】

2016年9月に発表した最新シネマレンズ「ZEISS LWZ.3 ZEISS LWZ.3ライトウェイトズーム 21-100mm/T2.9-3.9 T」の実機を国内で初披露する。本レンズは、昨今市場を席巻しているスーパー35㍉㍍判高画素カメラへの対応に向けて開発されたもの。画質に妥協することなく対応センサーサイズを小さくし、レンズ直径と価格を抑えたうえ、持ちやすさを重視した軽さに仕上げられている。

カールツァイスからはすでに、高解像度かつ豊富な周辺光量のフルサイズ35㍉㍍判ズームが販売されているが、価格面から手が出しにくいとの声も聞かれた。本レンズは、これまで本格的なシネズームレンズの購入が難しかった若手の映像作家やカメラマンも個人所有が可能になるよう配慮された価格帯となっている。

HD無線伝送機シリーズの新製品

キャムキャスト7

【ブースNo.5407】

無線伝送、ライブストリーミング機器ベンダーの米Teradekから日本初登場の2製品を展示する。HD無線伝送機BOLTシリーズ最新モデルのBOLT 3000は、最長伝送可能距離が900㍍に、5GHz帯チャンネル幅20MHzが利用可能になった。本体の小型かつ軽量化に加え、再リンク時間の大幅短縮など魅力的にチューンナップされている。



BOLT3000

360度ビデオ制作市場向けの新提案となるSphere（スフィア）は、高精細360度ライブモニタリングとストリーミング用システム。H.264エンコーダーを搭載し、専用iOSアプリで色調・露出・歪曲収差などをリアルタイムに微調整して、ダイナミックな360度コンテンツを表現する。

三友

【ブースNo.8504】

主な出展製品は次のとおり。▽Hyper CUBE：シンプルかつ安価な8Kコンテンツプレーヤー。最高品質のコーデックを使用▽Hyper PON：4K動画対応のポン出し装置。サムネイルをタップするだけの簡単操作が特徴▽Media Bucket：超高速ネットワークストレージの同製品は、超高速I/Oにより複数のノンリニア編集機を接続して同時に利用できる。トランスコーダーや高速ファイル転送を組み合わせたワークフローも紹介する▽Leica CINE LENSES：最高峰のシネマレンズ。カメラコーナーでは、Leica Summilux-C、Summicron-C、Cine Macrolux＋1 Diopterを体感できる▽TRUE ND：高品質シネマ用NDフィルター。正確な透過率、色再現を実現した▽PortaBrace、ORCA Bags：撮影・映像機材のプロ向け機材ケースなど。



UNITEX
The Innovator, Computer Storage

Strong Archive



4K/8Kを
正副せよ。

撮影・編集はもちろん、それぞれの現場にふさわしいメディアを選定し、しっかりと正副アーカイブをとる。
そこまで行ってはじめて「4K/8Kの世界」を我が物にできるとユニテックスは考えます。
世界で初めてUSB接続を可能にしたLTOテープ装置、LTOとHDDなど異なるメディアへの同時アーカイブを
実現するソフトウェア等、強力なストレージ・ソリューション・ラインナップをご用意しております。

LTOテープ装置
LT70 / 60 / 50 / 40 USB



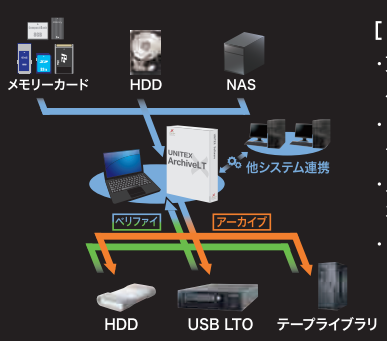
［ 主な特長 ］
・USB3.0／SASインタフェースモデル
・UNITEX 日本語LTFS3000ソフトウェア添付 ※
・Mac OS X、Windows、Linux対応
※ LT40 USBを除く

1U LTOラックマウントテープ装置
LT70 / 60 / 50 USB-RM



［ 主な特長 ］
・19インチラックに搭載（1U）
・USB3.0インタフェース
・Mac OS X、Windows、Linux、UNIX対応

LTOアーカイブソフトウェア
UNITEX ArchiveLT



［ 主な特長 ］
・アーカイブデータの統合管理を可能とするハイグレードLTOアーカイブソフトウェア
・映像データや監視カメラデータなどあらゆるデータのアーカイブが可能
・メディア管理機能によるアーカイブデータのオフライン管理
・コマンド/APIによる他システムとの連携

LTOデータコピーソフトウェア
UNITEX FASTapeLT



［ 主な特長 ］
・最大4つのコピー先へ同時コピーが可能
・独自アルゴリズムで高速コピー&ベリファイ
・LTO複製機能によりLTFSテープの複製が可能
・ジョブ実行結果の履歴管理

お問い合わせ・ご相談は　**株式会社 ユニテックス**
〒194-0021 東京都町田市中町2-2-4 ユニテックスビル
TEL:(042)710-4630　FAX:(042)710-4660
http://www.unitex.co.jp

※記載の内容、仕様、デザインなどは予告なく変更および終了となることがありますのでご了承ください。

InterBEE2016
ユニテックスブース
ホール6 No.6110
（映像・放送関連機材部門）

InterBEE2016
JEITAブース
ホール7 No.7204
（映像・放送関連機材部門）

特集 Inter BEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑪

映像表示装置マウントの新製品

映像センター

【ブースNo.8312】

米国シェアトップクラスのプロ向けAVマウントブランド「CHIEF（チーフ）」の正規輸入総代理店である映像センターは、中型、大型、超大型と3タイプそろった引き出し型・壁掛けマウントタイプのディスプレーマウントや、プロジェクターマウントの新製品を紹介する。

ブースでは、さまざまな角度からの投射が可能なピボット式プロジェクターマウントの「VPAU」、レーザー光源・DLPタイプなど大型プロジェクターに対応する天吊式のホワイトタイプ「VCMUW」や、高さ調整が自在な小型プロジェクター用のグリッド天井式「SYSAU」も展示。CHIEFならではのユニークかつスマートな設置スタイルと高い機能性が確認できる。



プロジェクターマウント「VPAU」

昭特製作所

【ブースNo.3501】

SHOTOKUブースでは、SmartPed＆TR-XTコントロールシステム、リモコン雲台システムを展示する。SmartPedは、2016年に発売を開始した新型ロボットペデスタル。安定性と高性能および安全性を兼ね備え、マニュアル運用も可能だ。

このほか、バーチャル機器、クレーン、ヘッド、ペデスタル、三脚システムなど、SHOTOKUが誇る最新技術の粋を結集した各製品を紹介する。

オムニバス・ジャパン

【ブースNo.8604】

「Beyond the Standard」をテーマに掲げ、CREATIVEエリアに出展する。ドーム映像制作の事例や球体映像、VR体験型映像など、平面にとどまらない映像制作技術を紹介。さらに、独自開発のリアルタイム可視化システム「OmniViz」を展示。ツイッターなどから得られる文字情報を視覚化したインフォメーション・コンテンツから、曲面およびマルチスクリーンの映像空間設計、撮影・編集時のプレビズ、現場送出まで対応する。

16日14時からはINTER BEE CREATIVE内オープンステージで、日本科学未来館3Dドームシアター作品『9次元から来た男』を具体例に挙げ、クリエイティブセッションを実施する。

おいぬビジョン

【ブースNo.4702】

センサーモジュールのOEM供給・開発・設計などを手掛けるおいぬビジョンでは、超小型カメラのラインアップを紹介する。「OVC-H10」は、1/2.8型220万画素CMOSセンサーを搭載し、画質劣化のない映像信号を出力できる超小型インターレスカメラ。1080i/59.94のHD-SDI信号を出力でき、ウエアラブル用途に適している。基板サイズは26×26×16.8㍉の超小型。モジュールタイプのほか、小型ケースに入れたタイプもある。また、CSマウントレンズが使用できる「OVC-H11」や、充実のアクセサリーも併せて展示する。

デジタルシネマ関連機材を出展

ナックイメージテクノロジー

【ブースNo.7416】

ナックイメージテクノロジーは、最新のARRIデジタルシネマカメラ、カールツァイスおよびアンジェニューのシネマレンズ、ARRIのLEDライト、放送向けVRシステムを出展する。

カメラでは、アレクサシリーズ最新モデルの「アレクサSXT」を紹介。最新スタビライザー「トリニティ」＆アレクサミニの体験コーナー、アミーラとPROTECH光伝送システムによる放送向けマルチカメラシステムのデモも予定している。

レンズでは、ズーム比21-100㍉のカールツァイス製小型軽量ズームレンズ「LWZ.3」、フルサイズに切り替え可能なアンジェニューの新型ズームレンズ「EZシリーズ」など、歴史・伝統のあるメーカーによる手頃な価格帯の製品を展示する。

照明では、ARRIの新しいLEDフラットライト「スカイパネル S120-C/S60/S30シリーズ」を出展。また、モーションアナリシスから2種類のバーチャルスタジオシステムを紹介。NカムのAR/VRリアルタイム・カメラトラッキングシステムをデモする。



アレクサSXT

MetaMoJi

【ブースNo.7003】

MetaMoJiは、タブレットを現場で活用するための高機能デジタルノート、ペーパーレス情報共有アプリ、メディアサーバーを組み合わせた、法人向け手書き認識入力システムを展示する。このシステムにより、待ったなしの現場で手書きのメモを映像・写真などのデータと自由に組み合わせたノートを作成。作成したノートは、現場と現場の共有がリアルタイムにできる。また、手書き処理機能、動画アノテーション機能を活用することで、取材現場、アナウンス現場、編集現場など、多くのシーンで表現豊かな情報を共有できるようになる。

NewTek™



Inter BEE 2016 NewTek 社関連製品デモ展示ブース

ブース名：（株）アスク /（株）ディストーム

ブース番号：映像制作 / 放送関連機材部門 / ホール 7 / 7212

NewTek 社製品関係コンファレンス

● 11 月 17 日（木）15:30-17:00 * 受付開始 15：00

『NewTek が推進する IP ワークフロー「NDI」と新しい映像ソリューションのご紹介』

講演者：NewTek 社 ウィル・ウォーターズ
（ディレクター プロダクトマーケティング＆セールス イネーブルメント）

場所：幕張メッセ・国際会議場 1 階「103 会議室」

聴講申込先：Conference Sponsored Session

http://www.inter-bee.com/ja/forvisitors/conference/sponsored_session.html

● 11 月 18 日（金）15:00-17:00

特別講演 2『世界初！ IP 伝送ライブ制作技術サミット IP ライブ伝送提案の各方式と今後の展開』

※ 第 1 部 各方式の提案説明と第 2 部パネルディスカッションにて、NewTek 社 ウィル・ウォーターズが登壇

場所：幕張メッセ・国際会議場 2 階 国際会議室

聴講申込先：INTER BEE FORUM

http://www.inter-bee.com/ja/forvisitors/conference/content_forum.html

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑫

放送データ配信システムを紹介

トラフィック・シム

【ブースNo.6502】

複雑化する技術へのサポートをテーマに、新放送に対応する新製品・参考展示を紹介。放送監視システムではMMTにも対応可能な「Alert Magic MMT/TS」を展示する。

既に稼働中の4K/8K法定同録システムと、4K専用のソフトウエアプレイヤー「Jack」を納入実績なども含めて紹介。放送データ配信システムRecShare（レクシェア）は、放送したデータを簡単に局内配信・シェアでき、プラグインなしでウェブブラウザー上にARIB字幕再生を実現する。

HACOBEブースではHEVCデコードの取り組みのほか、HACOBE2と5月発売開始の「HACOBE9」を展示する。

そのほか、ワンセグ放送の字幕およびデータ放送を一画面でモニタリング可能な総合監視集約システム（仮）や、他社システムも含め全て接続可能な新監視システムを出展。法定同録システムの活用例や、ISDB-S3の復調について、クラウドソリューションへの取り組みの紹介も予定している。



RecShare（番組表画面）

ニコンシステム

【ブースNo.6401】

ニコンシステムは、主に放送事業者、通信事業者、ポストプロダクションに向けて、「デジタル・コンテンツ制作支援ソリューション」をテーマに出展する。

見どころとして、映像評価ソリューション「VQ-Revolution」の新製品VQ-BB20S、複数台のデジタルカメラをリモート制御する「マルチカメラコントロールシステム」を展示。VQ-BB20Sは、テープノイズを自動で検査できるアナログテープ品質検査システムで、映像アーカイブシステムとの連携によりアナログテープのファイル変換作業の効率化を可能にする。また、ベースバンド・コンテンツ品質検査装置「VQ-BB10」も展示する。

「マルチカメラコントロールシステム」は、複数のニコンデジタル一眼レフカメラをPCから制御するリモート撮影ソフト。最大12台まで接続して多視点同時撮影できる。

これらの同社製品は「映像品質チェックの効率化」と「新たな映像表現の獲得」を可能にするもの。ブースではデモも実施。

そのほか、データ解析ソフトウエアのHEVC/H.265コーデックアナライザーや、画質の劣化現象を評価する「VQ-1200」も紹介する。

CRI・ミドルウェア

【ブースNo.5114】

発表以来好評を得ている「CRI DietCoder（ダイエットコーダー）」を展示する。同製品は、H.264やMP4などに圧縮済みの動画データを画質劣化なしでさらに1/2に圧縮可能なトランスコードシステム。通信コストやストレージ容量を半分に削減でき、国内会員数トップの映像配信サービス「dTV」のVR視聴専用アプリ「dTV VR」向けコンテンツに全面採用されるなど、映像配信、監視カメラ、医療動画などさまざまな業界に注目されている。

6月以降のアップデートで、プリセットの適用で簡単にIPTV向け出力することが可能になった。また、大型モニターやサイネージなど、閲覧環境に応じて動画を最適化する機能を追加した。

ブースでは、ほかのツールとDietCoderで圧縮した映像の比較や、実際に配信されているdTV VR向けコンテンツを体験できるデモをする。

マルチコンバーターの機能向上

エーディテクノ

【ブースNo.8109】

エーディテクノが国内正規代理店を務めるDigital Forecast社より、マルチコンバーターの新製品「X_TS」を展示。「X_TS」は、SDI/HDMI/VGA/コンポジット入出力端子を搭載。フォーマット変換して複数端子からコンバート出力ができる。5型タッチパネルでの入力信号表示や、各種設定の変更が可能。簡易アナライザー機能とテストパターン出力機能も備えており、さまざまなシーンで活躍する。

このほか、8月に発売して好評を得ている15.6型/18.5型/21.5型SDI端子搭載フルHD液晶モニター「SH1560S/SH1850S/SH2150S」を中心に、業務用液晶ディスプレーを多数展示。4K/60p対応メディアプレイヤーも参考展示する。



マルチコンバーター「X_TS」

ダイナコムウェア

【ブースNo.4706】

ダイナコムウェアが展開するダイナフォントシリーズは、視認性に優れたゴシック体・明朝体から、オリジナル性の高さで視聴者の目を引くデザイン書体まで、バラエティー豊かな書体を網羅。ブースでは、映像・放送業務はもとよりゲーム＆アプリ、印刷物、ウェブデザインなど幅広いコンテンツを使用許諾範囲とするダイナフォントの年間ライセンス「DynaSmart V」を紹介する。

また、2016年10月28日に発表した「DynaSmartシリーズ アップグレード2016」では、タイトルなどに最適な存在感の毛筆系書体「大河体W12」と、テロップなどで有用な字幕書体「シネマ凜W4」が追加収録された。これら新書体も紹介する。



特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑬

撮影車にカメラ防振装置を搭載

東通インターナショナル

【ブースNo.8505】

空撮用カメラ防振装置シネフレックスULTRA、同4K対応のSHOT OVER、4K/HDカメラ防振装置とルーフ型伸縮ポール搭載の撮影車を展示する。グラスバレー社のライブ番組に対応したIPルーティングスイッチャーGV Nodeおよび内蔵マルチビューワー、SDI/IP変換ボードなどをシステムとして展示。また、パカパカ（PSD）やラウドネスを含めたビデオとオーディオの品質チェックに加え、ファイル構造やパラメーターなど、ファイルメディア全体のチェックが可能なVidcheck社の自動QCソフト「Vidchecker」、さらに、クラウド、携帯電話回線対応の小型エンコーダー「Streambox」も紹介する。



撮影車も展示する

アイ・ディー・エクス

【ブースNo.6514】

撮影現場で使える商品を強力にサポートしたいという思いのもと、「来て、見て、触って体感してもらう」をコンセプトとした展示をする。

高密度セル採用のコンパクト多機能バッテリーDUO-Cシリーズから、今年発売の「DUO-C190」「DUO-C95」2機種を手に取って確認できる。採用事例をもとに再現したワイヤレスシステム「CW-F25」では、3つのアプリケーションを体験できるデモを実施。

さらに、TVlogicの新商品も紹介。4K撮影・制作シーンに対応したハイエンドタイプ4Kモニターをはじめ、小型高輝度モニター、多連モニターをラインアップする。

また、NAB2017で発表予定の新製品情報も案内する。

プロ機材ドットコム

【ブースNo.4306】

本社を沖縄に置くプロ機材ドットコムは、最新の機材情報発信をしていくとともに、情報交流コミュニティーを目指している。2016年9月には、「キレイドリ」ブランド（http://kireidori.com/）を立ち上げた。スマートフォン動画ガジェットからプロユース商品まで、幅広いラインアップを取りそろえている。

ブースでは、スマートフォン配信機材を中心に、LEDライト新製品「ビューティライト」などを発表。また、30㌢㍍スライダーが人気のSkier新商品LEDも発表する。

JUNS

【ブースNo.4716】

2020年の東京五輪開催に向けてスポーツ中継への期待と関心が高まるなか、JUNSは限られた予算で最大限のパフォーマンスを発揮してスポーツ中継者のニーズに応えるオリジナル映像機器を出展する。出展内容は以下のとおり。

▽LiveStudio-Sports：代表的な6種目のテロップソフトとスイッチングや画面分割の機能を備え、スポーツ中継に特化したミキサー▽設営や運営の負担を軽減するケーブルレス・オールインワンを実現するリモートカメラとカメラコントローラー（CCU）、ケーブル敷設の負担を10分の1にする光SDIエクステンダー、ミリ波・非圧縮のHD無線装置、IPで映像と制御信号を伝送するIP to SDI H.265Encorder/Decorder

▽4ch/8chSDIレコーダー：スロー再生機能に対応し、審判の判定をサポートする用途として活用できる。

モジュール式コンソールデスク

ニッキャビ

【ブースNo.6408】

ニッキャビは、新製品としてモジュール式コンソールデスク「cyber RAIL α」を初披露する。操作部をモジュール化し、10UのEIAラックマウント機構を標準装備。大型スイッチャーやデジタルミキサーなどの落とし込みにも対応し、ブロードキャストにおける副調整室（サブ）などに対して、より最適なコンソールデスクとなった。

また、多様なシーンに対応可能なモニターウォール「cyber WALL」や、ラックマウントやモニターアームにも取り付けできるコンパクトなサイネージモニター「CSM series」、ラック側板に設置可能の「サイネージ側板」を初出展。そのほか、魅力ある製品を多数そろえる。



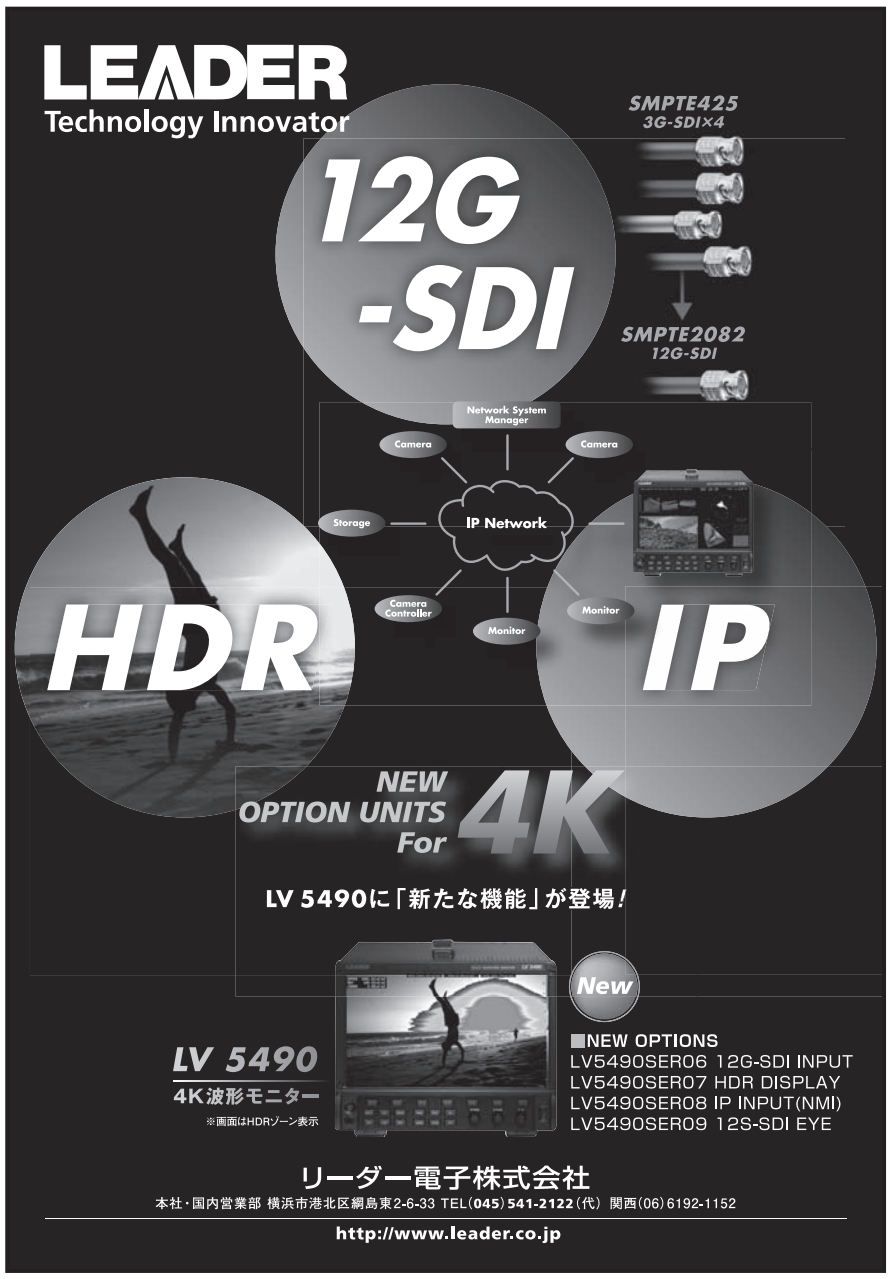
コンソールデスク「cyber RAIL α」

キッズプレート

【ブースNo.4113】

キッズプレートは、360度動画撮影用のラジコン撮影機「Dolly 360」によるデモと、撮影サンプル画像を展示する。Dolly360は、ドローンが苦手とする狭い場所での移動や、躯体のコントロールが難しいスロースピードでも、安定してブレなく360度動画が撮影できるラジオコントロール撮影機。人の目線の高さや歩くスピードに調整することで没入感を加速させ、まるでそこにいるかのような強烈なVR体験を実現する。

ラジコンの老舗である京商と共同開発した本機は、ラジコンを母体とした躯体でコンパクトかつ機動性にも優れている。狭い路地や室内のほか、ドローンを飛ばせない街中での撮影も可能。現在、20台限定で販売している。





（第三種郵便物認可）　映　像　新　聞　平成28年11月14日（月曜日）　(36)

Panasonic
BUSINESS



業界最広角24mm※1
×
1.0型※2 MOS光学20倍ズーム。



プロの制作現場をサポートする、
広角・高倍率レンズ一体型カムコーダー誕生。

- 新開発、業界最広角24mm※1光学20倍LEICA DICOMARズームレンズ搭載。
- 1.0型※2（有効）MOSセンサーによる高精細・高感度4K60p/50p※3収録。
- 3G-SDI出力、XLR音声入力、16軸独立色補正などプロの現場に応える機能とデザイン。



4K PROFESSIONAL
UX SERIES

4K/60p※3 カムコーダー
UX プレミアム モデル
AG-UX180
本体希望小売価格450,000円（税抜）※マイクは別売りです。
4K UX　検索

※1：4K24p（画面アスペクト比17:9）時、35mm換算値。レンズ一体型カメラレコーダーで業界最広角24mm。（2016年9月現在、当社調べ）※2：有効サイズ　※3：実際の記録はUHD（3840×2160）59.94p/50p。文中の4K24p以外の「24p」、「60p」は、実際にはそれぞれ、23.98p、59.94pで記録されます。○写真はイメージです。○ご使用の際は、必ず「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。○ご購入の際は、必ず「保証書」の記入事項をご確認のうえ、大切に保管ください。

パナソニックブース【幕張メッセ ホール６】へ、ぜひお越しください。

Inter BEE 2016
11.16（水）»» 18（金）幕張メッセ

［資料請求／お問い合わせ］パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
〒571-8504　大阪府門真市松生町1番15号　TEL.06-6901-1161
詳しくはホームページで panasonic.biz/sav

Wonders! by Panasonic

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑭

4K対応H.265小型コーデック

富士通

【ブースNo.4401】

富士通は、2017年2月より出荷開始する4K対応H.265/HEVC小型コーデック「IP-HE950」を出展する。

IP-HE950は、富士通研究所が開発した独自のアルゴリズムよって高性能化した映像処理LSIを搭載。1台でSD、HDから4K映像までの幅広い映像解像度に対応する。また、放送業務向けコーデック装置では国内最小・最軽量クラスとなるA4サイズの小型筐体を実現。IPネットワークだけでなく、FPUや衛星回線などのさまざまな伝送路で高品質なリアルタイム映像伝送が可能だ。

報道番組、スポーツ番組などでの生中継や素材伝送に加え、全国各地で開催される大規模なスポーツイベントのパブリックビューイング、また、医療や教育の現場など、多様な分野への適用を提案する。



4K対応小型コーデック「IP-HE950」

計測技術研究所

【ブースNo.7209】

計測技術研究所は、国内初公開となる8K非圧縮Dualgreenに対応したUDRシリーズの新製品「UDR-XL40」と、8K ProRes対応レコーダー「KRS-8K」を出展。コンパクトながら高品質な8K表示システムを実現する「UDR-XL40」と、コストパフォーマンス重視の手軽な8K表示システムを実現する「KRS-8K」で多様なニーズに応えていく。さらに、技術展示として、新コンセプトのビデオプラットフォーム「CS」を初公開する。

今回はOA研究所、クレッセント、ニューテックとの合同企画となり、8K/4K超高精細映像を生かす各種機器・システムのInterBEE特別コラボを披露する。

エム・ソフト

【ブースNo.4101】

「画像技術」をコアに成長を続けるエム・ソフトは、ユーザーのニーズに則したソフトウエア受託開発事業と、独自技術によるプロダクト・サービス事業、保守・運用事業を展開している。

今回、ブースではイベントや展示会、観光施設などのプロモーションに最適な「簡易VRゴーグル」、アミューズメントパークや体験型サイネージ、教育コンテンツなどでの利用を進める「画像解析VR」を出展。また、グリーンバック、ブルーバックによるマクロキー撮影不要の動画切り抜き専用サービス「動画切り抜き.com」も紹介する。

ベイテクノロジーズ

【ブースNo.5201】

創業以来、デジタルインタフェース分野において海外新興メーカーの半導体、電子機器製品を取り扱ってきたベイテクノロジーズでは、“延長”のニーズに対して、個人からメーカー向け製品までさまざまなソリューションを提案する。

ブースでは、iMAGE SYSTEMSの4Kビデオover LANエクステンダー「LIGHTNING」を展示。10GbLAN上でHDMIをマトリックススイッチングでき、ビデオウォール、マルチビューに対応。IPカメラ/ビデオレコーダー、USBエクステンダーなどLAN機器と組み合わせたシステムが柔軟に構築できる。

そのほか、映像配信ネットワーク、スイッチャーなどの各種関連製品も出展する。

緊急回線バックアップ装置展示

ミハル通信

【ブースNo.6307】

今回は「放送局向け緊急回線バックアップ装置」と「IPDCを活用した防災情報ソリューション」を展示する。

放送局向け緊急回線バックアップ装置は、IP送信機とIP受信機で構成され、マスターの放送TSをIPで送出。受信側でIPを中継局に適したインタフェース（TS/IF/RF）に変換して送出可能なシステム。通信はユニキャスト、マルチキャストに対応する。2016年には鹿児島の民放3局に導入。離島への放送中継回線が海上フェージングなどの影響で中断したときのバックアップ回線として運用が開始された。

IPDC活用防災情報ソリューションでは、同社開発のデータ放送にラジオ・音声サービスを追加できるオールインワン装置「音声エンベデッダー」とIPDCを組み合わせることで、CATVのコミチャンの新たなサービスを提案する。ブースでは、データ放送を使った防災情報、コミチャンの見逃しサービス、データ放送ラジオなどのデモ展示を予定している。



音声エンベデッダー

イノコス

【ブースNo.5504】

イノコスのブースでは4Kをはじめ、放送およびインターネットによる映像配信、音声通話、SNSなどのOTTサービスに必要なエンコード・暗号化・監視といったソリューションを紹介する。

展示の目玉として、Harmonicの次世代フラッグシップモデル「Electra VS」による4K HEVC 60pライブエンコード画質のデモを実施する。

また、電源不要のHD-SDI 2分配ユニット「無電二統流」も出展。故障が許されないポイントでのパッシブ分配に適し、電源のない現場での分配に威力を発揮する。3G-SDIに対応。

そのほか、HDMI信号の一括監視に適したAcetelのマルチビューワー「MD2000」も展示する。

K-WILL Corporation
http://www.kmw.co.jp/



4K Picture Quality Analyzer
VP4000
UHDTV/HDTV 対応画像評価装置

フルサンプルの4K基準画像及び評価画像の時間軸を補正し、画素同士ピッタリと合わせこみ、その差分値（PSNR）と共に、ITU-T J.144 をベースとした評価方式により客観評価値（DSCQS）を算出します。

なお、HDR, BT2020, HEVC に対応した測定モードを選択可能です。

[測定対象]
・3840 x 2160, YC 4:2:2, 10 bit 59.94p/50p
・3G-SDI Level A or Level B　Quad 入力
・Square Division 及び 2-Sample Interleave
[特長]
・HD を測定する場合は PROBE4000 ボード 1 枚で、UHD(4K) を測定する場合はボードを 4 枚実装することで測定ができます。
・基準画像と評価画像の差分を 4K 出力可能（Quad SDI 3G）

Inter BEE 2016
11.16 Wed. ⋙ 18 Fri. Makuhari Messe, TOKYO

ホール 6 / ブースNo.6211
ご来場を心よりお待ち申し上げます

株式会社K-WILL
〒194-0001 東京都町田市つくし野3-23-41　マルビシビル 2階
TEL: 042-788-3834（営業部）　FAX: 042-788-3835



NEW BOLT 3000 Receiver
NEW BOLT 3000 Transmitter

遅延わずか1ms以下、
無免許5GHzバンドを利用した
非圧縮無線伝送装置

BOLT™

技術基準適合証明取得済み

■最上位モデルは最長伝送距離900m※1
■チャンネル幅20MHzの利用が可能に※2
■再接続時間を短縮
■トランスミッタを小型、軽量化
■HDMI to SDIコンバータをビルトイン
■トッププレートで"色分け"カスタマイズ

※1 直線見通しの場合のメーカー発表値。伝送距離は障害物や周辺の電波環境に依存しますので、すべての環境で最長距離を保証するものではありません。※2 20MHzチャンネルでは、音声伝送、インターレース、PSF、ならびに1080p/60/50フレームレートは利用できません。（2016年10月末現在）

高精細360度ビデオコンテンツの
リアルタイムモニタリングと
ライブストリーミングを実現する

SPHERE



NEW SPHERE HDMI



NEW SPHERE SDI

■カメラの接続数はSphere1台に最大4台。Sphereのデイジーチェーンで8台まで可能
■高性能スティッチングエンジンを搭載したiOS用アプリケーション付属
■豊富なスティッチングオプション
■録画機能付き
■360度 VRプラットフォームに対応※1
■3つのモードで360度仮想体験が楽しめる

※1 Webへのライブストリーミングには別途ライセンスオプションが必要。

株式会社キャムキャスト7 keep on streaming
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCFビル5F
TEL 06-6131-9995　FAX 06-6131-9996
http://www.camcast.jp/

TERADEK

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑮

4K/60p対応製品をラインアップ

ATENジャパン

【ブースNo.3405】

ATENジャパンは、4K/60p（4:4:4）対応製品をはじめ、映像の切替・分配・延長・制御をワンストップで実現できるソリューションを、デモや導入事例とともに紹介する。

ブースでは、マルチメディア制作に最適なThunderboltシェアリングスイッチ「US7220」や、多対多の複数構成にも対応するIP-KVMエクステンダー「KE6900」のデモを展示する。

さらに、新製品である32入力3

2出力モジュール式マトリックススイッチャー「VM3200」も展示。ユーザーフレンドリーな操作画面が好評の「ATENコントロールシステム」は、機器の増設が簡単にできる各種拡張ボックスが加わり利便性が向上した。



IP-KVMエクステンダー「KE6900」

日本クアンタムストレージ

【ブースNo.4508】

日本クアンタムストレージは、数々の受賞歴を誇るXcellisワークフローダイレクターをベースに、長期クラウド・アーカイブ・サービス「Q-CloudVault」に対応したStorNext 5.3プラットフォームなど、ワークフロー最適化ストレージシステムの新製品・ソリューションを紹介する。

同社のソリューションは、4K以上というかつてない高解像度、コンテンツのダイナミックレンジ、色域の拡大という難問をワークフロー克服でサポート。アニメーションからアーカイブまで、OTT配信やオンデマンド配信まで、成長を続ける幅広いワークフローにも対応する。

摂津金属工業

【ブースNo.6107】

新製品として発売予定の大型監視モニター架と、複数のモニターを取り付けられる「システムデスク FOTシリーズ」をメインに出展する。大型マルチモニターラックは、公共設備などにおける大規模なマルチモニター用筐体の参考展示。FOTシリーズは、映像・音響編集、医療、プログラム開発、監視管理などでの使用を考慮した多機能性が特徴だ。ブースでは、6台のモニターを取り付けた特別仕様品を展示する予定。

その他、フルカスタマイズ対応の音響・映像向けラックケースや、放送映像向け耐震型19型ラック、タブレット60台を収納可能なラック、放送機材の保管・輸送用トランクケース、新製品のラックアクセサリーなども出展する。

BlueBee

【ブースNo.7213】

BlueBeeは、ドローンおよび撮影機材をレンタルするDoRent（dorent.jp）を運営している。ブースでは、CMやシネマ撮影に最適な大型ドローンDrone XX、Drone XXXを発表。そのほか、空撮用ドローン、調査用ドローン、レンタル用撮影機材を展示する。

大型ドローンは、4K、6K、8Kのカメラを積んで飛行・撮影ができるように開発。今回展示のドローンは、RED EPICにカール・ツァイスのレンズを搭載しても飛行できる能力を持つ。そのほか、一般の空撮から赤外線カメラ搭載の調査用まで、さまざまなドローンをラインアップ。幅広い撮影のニーズに応えられる内容となっている。

多機能4K波形モニターを紹介

リーダー電子

【ブースNo.4403】

リーダー電子は4K対応製品を中心に展示する。ブースでは、4K波形モニターLV5490の各機能を紹介。12G-SDI入力対応オプションはアイパターンやジッタ測定ができ、IP（NMI）入力対応オプションは、NMIのIP伝送に対応した信号の映像、波形などの確認および12G-SDIの両方を同時に観測できる。すでに好評を得ているHDR機能は、HLG、PQ方式、S-Log3方式に対応した波形のスケール表示や、ピクチャーのHDR部分を表示するHDRゾーン表示により輝度分布の確認が可能だ。

そのほか、ラスタライザーLV7390の4K対応、12G-SDIに対応した信号発生器、レベルメーターLF990の4K/8K放送対応新オプションや、小型RF（4K/8K放送）信号発生器LG33なども展示する。



4K波形モニター「LV5490」

ヤマキ電気

【ブースNo.2511】

ラウドネス測定ソフトウエア「PC Loudness Ver.2」、オーディオモニター「PVM-M108S（3G-SDI対応版）」をはじめ、ラウドネスメーター用「YLM-Utility」を初出展する。

PC Loudness Ver.2は、BWF-Jフォーマットの読み込み、ターゲットラウドネス値へのレベル補正に対応したPC用ラウドネス測定ソフト。デュアル/モノラルの音声モードにも対応する。ラジオ番組などの音声素材にも適している。

PVM-M108Sは新たに3G-SDI入力に対応した。8ch LEDバーメーター表示でピーク、VU、ダウンミックスレベルを確認できる。

YLM-UtilityはPCとラウドネスメーターを専用ケーブルで接続し、同ソフト上でラウドネスメーターの設定や各種ラウドネス値の取得・グラフ表示を可能にするもの。ウェブサイトでの無料ダウンロード配布を予定。

SHARP
Be Original.

Inter BEE初出展
高度広帯域衛星デジタル放送受信機

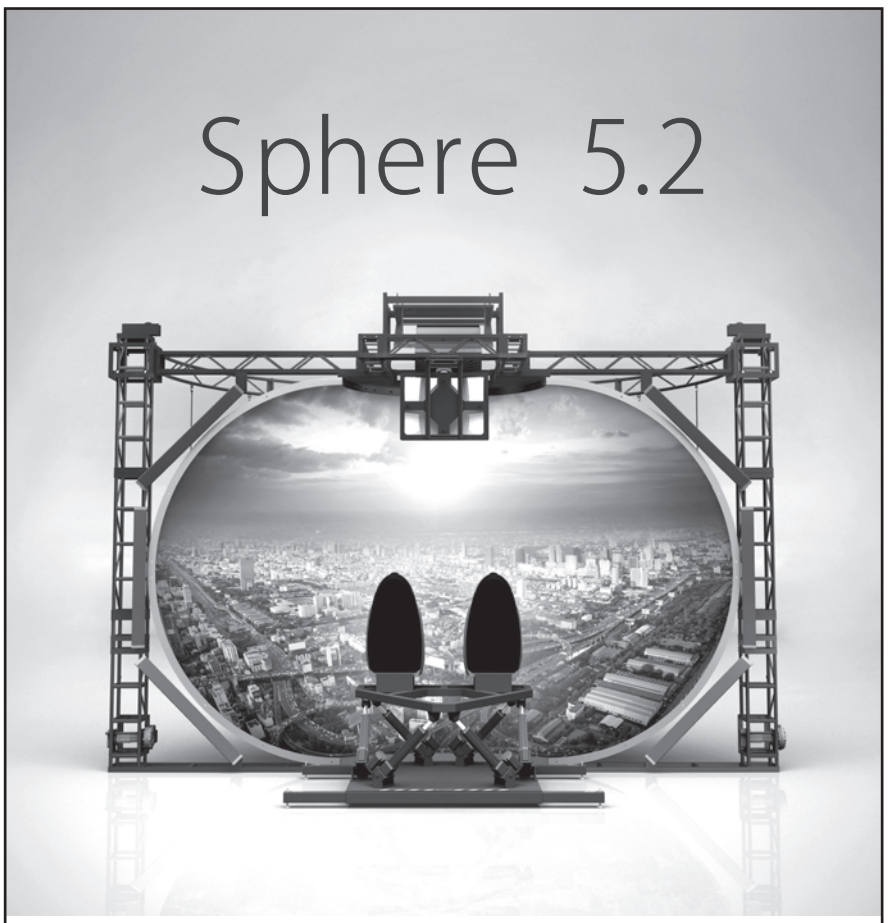


● 8K/4K試験放送に対応
● 22.2ch音声出力対応
● 4KモニターとHDMI×1本で接続可能なダウンコンバート機能搭載

8K 7,680×4,320 画素

8K/4K試験放送のパブリックビューイングを
Inter BEE 2016 AZLABブースでの
16面マルチシステムで御体感頂けます。
AZLAB THE INNOVATIVE FUTURE DESIGN ブースNo:7506

シャープ株式会社 | http://www.sharp.co.jp/



WV WONDER VISION
T 03-5493-1070
M info@wvtl.jp
H www.wvtl.jp

WONDER VISION TECHNO LABORATORY 株式会社

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑯

最新の衛星映像伝送機材を展示

エーティ コミュニケーションズ

【ブースNo.5515】

エーティ コミュニケーションズは最新の衛星映像伝送機材を出展する。注目は、インマルサットGlobal Xpress（グローバルエキスプレスサービス）に対応した最新の小型映像伝送アンテナ各種。また、SNG車および小型可搬型アンテナによる衛星4K映像伝送システムも展示する。

そのほか、衛星中継システムのサービスの枠を広げるLiveUシステムと融合したハイブリッド伝送システムも出展する。



衛星4K映像伝送システムを展示

アテイン

【ブースNo.6404】

アテインは〝カメラ目線で原稿が読める〟として収録やライブ配信に最適な撮影用機器「テレプロンプターWJシリーズ」を展示する。

「WJシリーズ」は22型大型モニターを搭載でき、広く大きな文字表示が可能。19型スクエアモニター用と22型ワイドモニター用をラインアップする。サポートとして外国語対応の文章スクロール用ソフトウエアとモニター１台が付属。必要な分配器やケーブルなどの構成も提案する。

製品は販売だけでなく、レンタルもしている。秋葉原駅近くの自社スタジオでの収録サービスではプロンプターを使用しており、見学も可能。

このほかブースでは、スピーチプロンプターやマニュアルカンファレンススタンドも出展する。

アイ・ディ・ケイ

【ブースNo.6212】

IDKブースでは、次の4つにフォーカスして新製品を中心とした展示とデモを実施する。

▽4K製品：4K/60（4:4:4）、HDCP2.2対応マルチスイッチャー、分配器、延長器、4K対応ケーブルなど▽VIDEO OVER IP機器：IP-NINJAR▽MSD新製品：4K/60（4:4:4）、HDCP2.2対応マルチスイッチャー、コンパクト＆ローコストマルチスイッチャーなど▽HDBaseT機器：マルチスイッチャー、延長器、分配器、HDBaseTアライアンス推奨ケーブルなど。

また、Inter BEE 2015で好評だった、海外で見つけた製品をグループ会社のアルバニクスで検証した新製品展示・デモコーナーもある。

ケンコー・トキナー

【ブースNo.5310】

ケンコー・トキナーはKPI（ケンコープロフェショナルイメージング）とともに出展する。自社製造のカラーメーターのほか、同社が販売代理店権を持つ韓国ブランドSAMYANGのレンズ、映画用など業務用途で高評価の英LEE社フィルター、米ビーストグリップ社のスマートフォン動画撮影用リグシステム、新規取り扱いとなったLume cubeを展示する。Lume cubeは防水LEDでスマートフォンからブルートゥース操作が可能。

SAMYANGのVDSLRレンズは、広角から望遠まで12種類の幅広いラインアップとリーズナブルな価格で注目を集めている。ブースではVDSLRレンズ群を手に取って試すことができる。

各社カメラ使いレコーダー実演

ATOMOS

【ブースNo.3219】

ATOMOSでは国内外の最新カメラを集結し、カメラ＋ATOMOSレコーダーの使用感を体験できる展示をする。出展予定は以下のとおり。

▽ARRI「Alexa+」▽キヤノン「C300Mark Ⅱ」「XC15」など▽富士フイルム「X-T2」▽池上通信機「HD-HC300」▽JVCケンウッド「GY-LS300」「GY-HM200」▽Leica「SL」▽ニコン「D5」「D500」など▽パナソニック「Varicam LT」「AG-DVX200」など▽RED Digital「EPIC Dragon」ソニー「PXW-FS7」「PXW-FS5」など。

また、毎年好評の「ATOMOS 4K ワークフローセミナー」では、映像業界のクリエーターを招いて映像制作事例をセミナー形式でプレゼンする。最終日にはパネルディスカッションを開催。

そのほか、ATOMOSレコーダー収録の記録媒体を直接挿抜できるG-Technology社のストレージシステムも展示予定。


最新カメラをそろえ、ATOMOSレコーダーの体験展示をする

理経

【ブースNo.5613】

理経は、マルチスクリーン出力、広告・グラフィック挿入をはじめ多様なニーズに応じたIP映像配信ソリューションを、エリクソンの「MediaFirst Video Processing」を中心に展示する。併せて展示する「CE-HEVCエンコーダ モジュール」は、4K/8K対応でHEVCコーデックを搭載。MPEG-4 AVCと比較して約30％の圧縮率向上が見込まれ、エンド・トゥー・エンドで最大200㍉秒の低遅延を実現。HDR（ハイダイナミックレンジ）にも対応し、立体感のある精細な映像を届けることが可能だ。

そのほか、無瞬断伝送を実現する最新機種、長距離無線LANシステム、衛星関連製品も多数展示予定。

ATEN
http://www.aten.com/jp/ja/
あきらめていたその構成、
ATENなら実現できます。

≪映像システムに関する課題≫
予算が足りない
構成が複雑すぎる
メンテが大変
映像の切替・分配・延長・制御を実現するトータルソリューションをワンストップでご提供。ATENは、御社の映像システムの課題解決をサポートします。
実機デモをぜひご覧ください。
InterBEE 2016 ホール3 ブースNo.3405
ATEN ジャパン株式会社　TEL:03-5615-5810(代表)　E-mail:sales@atenjapan.jp

Professional Mount Solution
CHIEF

オーディオ＆ビジュアルの
黎明期から業界をリードする
CHIEFのマウントソリューション

ディスプレイマウント 壁掛タイプ 引出し型 MSM1U-VK

プロジェクターマウント ピボットタイプ VPAU

デスクマウント ダイナミックスウィングタイプ K1C220

マルチディスプレイマウント スタンドタイプ 縦設置・3画面用 LVM3X1UP
正規輸入総代理店
AVC 株式会社 映像センター AUDIO VISUAL COMMUNICATIONS LTD.
http://www.avc.co.jp/
【システム販売事業部】
首都圏：〒135-0063東京都江東区有明3-7-18 有明セントラルタワー8F TEL 03-3527-8660
関　西：〒564-0062大阪府吹田市垂水町3-18-25 TEL 06-6836-7827
CHIEFブランドサイトがNEW OPEN致しました!!
http://chiefmfg.jp/
Inter BEE 2016
11.16㈬ ≫ 18㈮ 幕張メッセ
HALL8 / 小間 No.8312

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑰

モバイル回線で高画質動画中継

ソリトンシステムズ

【ブースNo.6501】

ソリトンシステムズはIBC2016で発表した「Smart-telecaster Zao-S」を中心に展示をする。Zao-Sは、モバイル回線で高画質動画をライブ中継できるSmart-telecaserシリーズの最新モデル。H.265/HEVCハードウエアエンコード対応の現行モデル「Smart-telecaster Zao」を本体体積40%以下、重量約350㌘へと小型化・軽量化した。HD-SDI、HDMI入力に対応し、モバイル回線を3回線束ねることも可能。また、ドローンや無人ロボットにも搭載できる設計思想を特徴とし、従来受信機での受信映像を配信する機能も追加。利用シーンのさらなる拡大が期待できる。



Zao-S

フルスコア

【ブースNo.4715】

フルスコアはColorfront社のマスタリングシステム最新版「Transkoder2016」をメインに、独自の8K編集システムを紹介。ブースでは、ソニーF65SRで収録したRAWデータの現像から納品データ作成までの円滑な8K制作ワークフローを提案、実機展示する。

Transkoder2016と最新のGPUアーキテクチャーを駆使したシステムにより、8K/60pの再生確認、リアルタイムかそれに近い高速処理でトランスコード、デコード、コンバート、ラッピングが可能。8K映像制作において確実性と快適性を両立し、さらにはMacProなど比較的安価なシステムとの組合せによる作業のコストダウンを目指す。

ベルボン

【ブースNo.5511】

ベルボンでは、業務用三脚フルードヘッドのMILLER社新製品「アローXシリーズ」を含めた同社製品と、Velbon社独自の特殊パイプを使用した高伸縮比三脚「ウルトラシリーズ」、高所からの撮影向けに開発した「ロングポール」を展開する。

約10年ぶりにリニューアルされたアローXシリーズは、前モデルよりも負荷荷重範囲が広がり、カウンターバランスも16段階に大幅アップした。日本市場でも多くのユーザー数を誇るアローシリーズだけあり、業界での活躍が期待される。

ベルボンからは、注目の製品として手軽に高所からの撮影を可能にする「ロングポール」を出展。ドローン撮影風の映像も楽しめるほか、防犯・監視カメラ設置用機材としても需要がありそうだ。

とくしま４Ｋフォーラム実行委員会

【ブースNo.8301】

徳島県では「4K実証するなら徳島で！」を合言葉に、映像コンテンツ制作会社やクリエイターなどの4K関連事業者の集積に取り組んでいる。2016年も「とくしま４Ｋフォーラム」の開催に合わせて、徳島県神山町で4K映像専門の映画祭「４Ｋ徳島映画祭」を開催。期間は11月25―27日の3日間だ。神山町は、IT企業のサテライトオフィスや古民家を利用したシェアオフィス、国内外からの移住者の受け入れなど、地方創生の先進事例として全国的に注目されている。

ブースでは，徳島のブロードバンド環境をはじめとする立地環境の説明や、関連企業などを紹介したパネル、パンフレットの展示をする。

放送業務の省力化・効率化実現

コスミックエンジニアリング

【ブースNo.3502】

2016年は、「次世代エンベデッドオーディオ」「12G-SDI/4K対応を見据えた、安心・安全の中継伝送プラン」「ライブ運用に柔軟に対応するオンエアグラフィックスシステム」の3テーマを軸に、放送業務の省力化・効率化に貢献。これまでの運用シーンの常識を覆す製品提案を実施する。

オーディオモニタスピーカーSPシリーズは、新製品3機種を投入。そのうち「SP-MX1/MX2」の製品コンセプトを発表する。

また、新型モジュールシステム「C5000シリーズ」を発表。中継車システム・ヘリコプター中継伝送システム、汎用のスタジオサブシステムや回線センターシステムの構築に貢献できるとして、今後の展開を説明する。

キャラクタージェネレーターではD.O.TやCoCo3Dの新機能をデモ。得点競技用マルチスポーツコーダーの参考出展もする。さらに業界大評判のオートキャリー：小型中継車伝送システムでは、FPU中継伝送車と４カメ対応中継収録伝送車の実車を展示。


「C5000シリーズ」

ブラックボックス・ネットワークサービス

【ブースNo.5509】

マスター/スタジオコントロールルーム、放送運用管理に最適なソリューションを展示する。ブースでは、4K60Pの長距離延長と瞬時マトリクススイッチングが可能なKVMや、IPベースの生産モニタリング＆コントロールを実現するover IP製品などを紹介。「DCX3000」は直感的なGUIを持つ中小規模向けKVMマトリクススイッチ。4K対応のモジュール式KVMスイッチ/エクステンダー「DKM FX」はポストプロダクションや集中制御管理室向けとして最適だ。

そのほか、光/IPで延長できる4K対応HDMIビデオエクステンダー、ワイヤレス会議システムの「コアレス」など、豊富な製品をラインアップする。





特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑱

サイネージプレーヤーの新製品

ジャパンマテリアル

【ブースNo.8503】

映像・サイネージに関わる多彩なソリューションを展示する。

「Monarch LCS」は1台で理想的なレクチャーキャプチャーを実現するH.264エンコーダー。カメラ映像とプレゼン資料をP in PやSide by sideなどで合成・録画・ストリーミング配信できる。サイネージプレーヤー「BrightSign」は、11月発売の新シリーズを国内初出展。シリーズ最高速4KビデオエンジンHTML/グラフィックスエンジン搭載の最上位機種などがそろう。エッジブレンディングプロセッサー「GeoBox G-701」は、プロジェクター出力映像の境目をシームレスにマルチ画面表示可能。ひずみ・幾何学補正などにも対応する。



BrightSign

ねこじゃらし

【ブースNo.8308】

同社がサービス展開している「Jector（ジェクター）」は、映像・放送業界を中心とする映像・デザイン制作チームに適したクラウドストレージサービス。ウェブブラウザーだけでファイルのプレビューが完結。MXFをはじめとする多様な動画形式や、Photoshopなどで作成された画像ファイルに対応する。

好評を得ている「ファイル便」や「自動プロキシ作成」機能だけでなく、新機能の「二画面同時再生機能」や「Androidアプリ」「メタデータ機能」も紹介。ブースではデモ環境で実際の使用感を体感できる。

Dalet Digital Media Systems

【ブースNo.8116】

ソフトウエアベースのメディア管理ソリューションを開発および提供している仏Dalet Digital Media Systems（ダレット デジタルメディア システムズ）は今回が初出展となる。

ブースでは、MAM（メディアアセット管理）、アーカイブ、ニュース、スポーツ制作、ラジオ向けのエンタープライズプラットフォーム「Dalet Galaxy」をはじめ、企業の事業プロセス管理（BPM）ワークフローエンジン、トランスコーダー「Dalet AmberFin」、ビデオサーバー「Dalet Brio」を紹介。

また、パートナー社の日立製作所（No.7215）およびヴィレッジアイランド（No.6508）でも、Dalet社のメディア管理ソリューションを紹介する。

電波産業会

【ブースNo.5503】

電波産業会（ARIB）のデジタル放送普及活動作業班（DiBEG）は、地上デジタル放送日本方式（ISDB-T）の国際普及活動を推進する組織。海外では2006年にブラジルが最初にISDB-Tの採用を決定し、現在は中南米、アジア、アフリカの18カ国で採用されている。2016年はブラジルのISDB-T採用から10周年に当たり、ブースでは10年間にわたる活動の概要をパネル展示やビデオ上映などにより紹介する。

また、ISDB-Tの特徴の一つである緊急警報放送（EWBS）の海外普及を見据えて試作したEWBS受信モジュールもデモする。

SDI出力で素材のプレビュー

ブロードデザイン

【ブースNo.8503】

ブロードデザインは韓国Visual Resarch Inc社との共同ブースで、ファイルメディアプレビューソフト「FP-300」、パーシャルリトリーブソフト「PR-30」、HDMIコンバーターを展示する。

FP-300は、NASやUSBメモリーなどに保存したSONY XDCAMデータ（mxf）の素材をプレビューできるソフト。HD-SDIとHDMIを同時出力でき、1枚のアルファチャンネル付TIFF画像を素材に合成してNAS、USBなどからの直接再生や、タイムコード表示、Clip間のシームレス再生なども可能。番組制作などのプレビュー用途に適している。

PR-30は、MXFファイルの必要な部分を切り取り、番組交換メタデータに対応。IN/OUT点の設定作業を軽減させられる。

そのほか、世界最小のSDI→HDMIコンバーター「3GCSH」、HDMI→SDIコンバーター「3GCHS」、マルチフォーマットディスクレコーダー「D-Stream」も展示する。



FP300メニュー画面

フォントワークス

【ブースNo.3605】

高品位でバラエティー豊かなフォントがすべて使用できる年間契約ライセンス商品「LETS」を紹介。フォントワークス、白舟書体、欧文フォントの3つのコレクションからなり、日本語、中国語、韓国語、欧文の各種フォントを提供。横画の太さや曲線の濃度調整を施した「テロップ明朝」や、端正かつ情感あふれる白舟書体の筆文字など、ディスプレー表示に適したフォントを数多く用意している。また、使用許諾の明確さも特徴で、TV番組・CM、映画、PV、デジタルサイネージなどの映像におけるフォント使用はもちろん、映像作品の二次使用に際しても追加料金は発生しない。フォントレンタルに留まらない、包括的なフォント環境をサポートする。

The new documentary-style camera

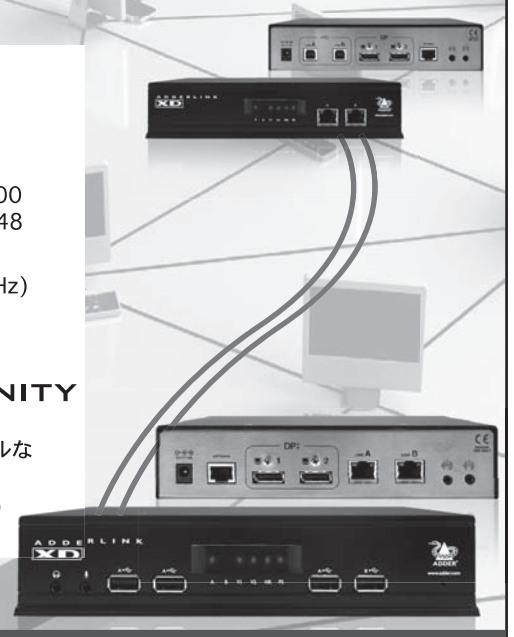


ALEXAから継承した高画質、最高200fps収録
ワンマンオペレートに特化した操作性 完璧なショルダバランス
3D LUTによるカメラ内蔵クレーディング
ARRIならではの信頼性の高い筐体設計

Pick Up > Shoot
AMIRA
ARRI AMIRA. TRULY CINEMATIC.

For more information please contact:
www.nacinc.jp
nac IMAGE TECHNOLOGY
株式会社 ナックイメージテクノロジー
映像制作：東京都港区北青山2-11-3：03-3796-7901 seisaku@camnac.co.jp
レンタル：東京都港区赤坂4-13-13：03-3583-7902 nacinc.rental
大阪／名古屋／九州
ARRI

ADDER
KVM OVER IP システム
4Kの編集作業に
高解像度の作業に
XD522
高解像度の延長を可能にした
KVMエクステンダー
最大対応解像度：2560×1600
2048×2048
最大150m 延長
オーディオ伝送(24bit、96kHz)
ADDERLINK INFINITY
IP伝送による非常にフレキシブルな
マトリクスシステム
最大対応解像度：2560×1600



http://www.tacsystem.com/products/adder/
TIDE TAC Import, Distribution & Export
タックシステム株式会社IDE事業部
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-5-1
Tel：03-3442-2955 Fax：03-3442-1526
www.tacsystem.com
E-mail: info@tacsystem.com
Inter BEE International Broadcast Equipment Exhibition
出展：ホール３ ブース No.3311

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑲

Audio over IP関連製品そろう

タックシステム

【ブースNo.3214/3311】

タックシステムは、プロオーディオ部門と映像・放送関連機材部門に分けて出展する。

プロオーディオ部門（No.3214）では、AES67対応のRavenna、DanteなどAudio over IP関連製品が一堂に会する。PTP(Precision Time Protocol) グランド・マスター・クロック・ジェネレーターOMICRON「OTMC-100i」は初出展。Cymatic Audio社製品、NTP Technology A/S社のDAD製品などをネットワーク接続して展示する。また、TAC VMC-102とともに、Dante対応の32ch DSP内蔵パワーアンプを初出展する。その他、MADI関連ではDirectOut Technologies社製品や、Millennia社のマイク・プリアンプなど多数の製品がそろう。デモコーナーでは、Avid S6、S3＋Pro Tools Dockを展示。新発売のiZotope Neutronをはじめ RX5、Ozone7などをデモする。

映像・放送関連機材部門（No.3311）では、制作用サーバーのアビッド社Nexis1000、GB Labs社FAST-NASを展示。Adder社からは新製品のXDIPに、KVMエクステンダー＆マトリックスを含めた多数の製品が並ぶ。さらに、Decimator Design社のマルチビューワーDMONシリーズ、Thunderbolt関連製品として「MAGMA Mac Pro Rackmount Kit + EB-3T」なども展示する。



OMICRON 「OTMC-100i」

エス・シー・アライアンス

【ブースNo.2206】

新製品として、デジタルインターカム/キューライトシステム「Green-GO」の無線モデルを国内で初出展する。既存のイーサネットにアンテナを接続するだけで使用開始でき、特別なインタフェースは不要。既存の有線Green-Goシステムにも組み込め、可搬性に優れたシステムを構築できる。

そのほか、AXIA社のIPオーディオネットワークコンソール「FUSION」「iQ」、Wheatstone社のIPオーディオネットワークコンソール「LX-24」、FM中継局のモニターに最適なInovonics社のFMサイトストリーマー「635」、ENCO社の番組自動送出装置「DAD」など、米メーカー製品を多数展示予定。

また、劇場やテーマパークなどで使用できる英Out Board社のデジタルマトリクスミキサー「TiMax SoundHub2」とUBM（超広帯域無線通信）使用レーダー追尾システム「TiMax Tracker」による音像定位システムのデモを行う。

アルビクス

【ブースNo.5003】

従来の映像・音声監視システムから、IPオンデマンド監視、次世代型放送システムまで、さまざまな放送に関する機器を提案する。出展製品は以下のとおり。

▽ビデオオンデマンド監視装置：新製品の国内製初となるオンデマンド監視装置。ビデオオンデマンドサービスに接続し、1画面に複数のコンテンツを分割表示できる。UNITの組み合わせにより10～70chのビデオオンデマンド再生が可能。

▽「MV-600」：最大32chのSDI入力信号を2系統の高画質モニターに分割表示できる新製品のマルチビューワー。2台構成で64入力2出力でき、エンベデッドオーディオ対応。目視で音声の確認ができる。

また、来春発売を予定している低遅延送り返しシステムの新モデルも展示。画質・パケットが破たんした際の復旧の速さなどを実機で試せる。そのほか、同期信号/位相比較監視装置やオンエアー監視装置も出展する。

最新世代LTOテープ装置を披露

ユニテックス

【ブースNo.6110】

4K/8Kの高解像度映像や音声データの長期保存に最適なLTOアーカイブソリューションを提案。世界初のUSB3.0接続を可能にした最新世代LTO-7テープ装置とLTFS LTOテープファイルシステムおよび自社開発のアーカイブソフトウエアを組み合わせて、外付けHDDだけではなく、LTOテープなど複数メディアへの同時コピーを可能にすることで、データの保全性を高める。

また、ドローン撮影やVRなど、今後増え続けていく膨大な映像資産の保存、編集現場での大容量データの効率的な受け渡しとデータ共用、そして、過去資産として多様なメディアに分散して保存されているデータを、最新世代のLTOにマイグレーションして保存効率を高める仕組みも併せて紹介する。



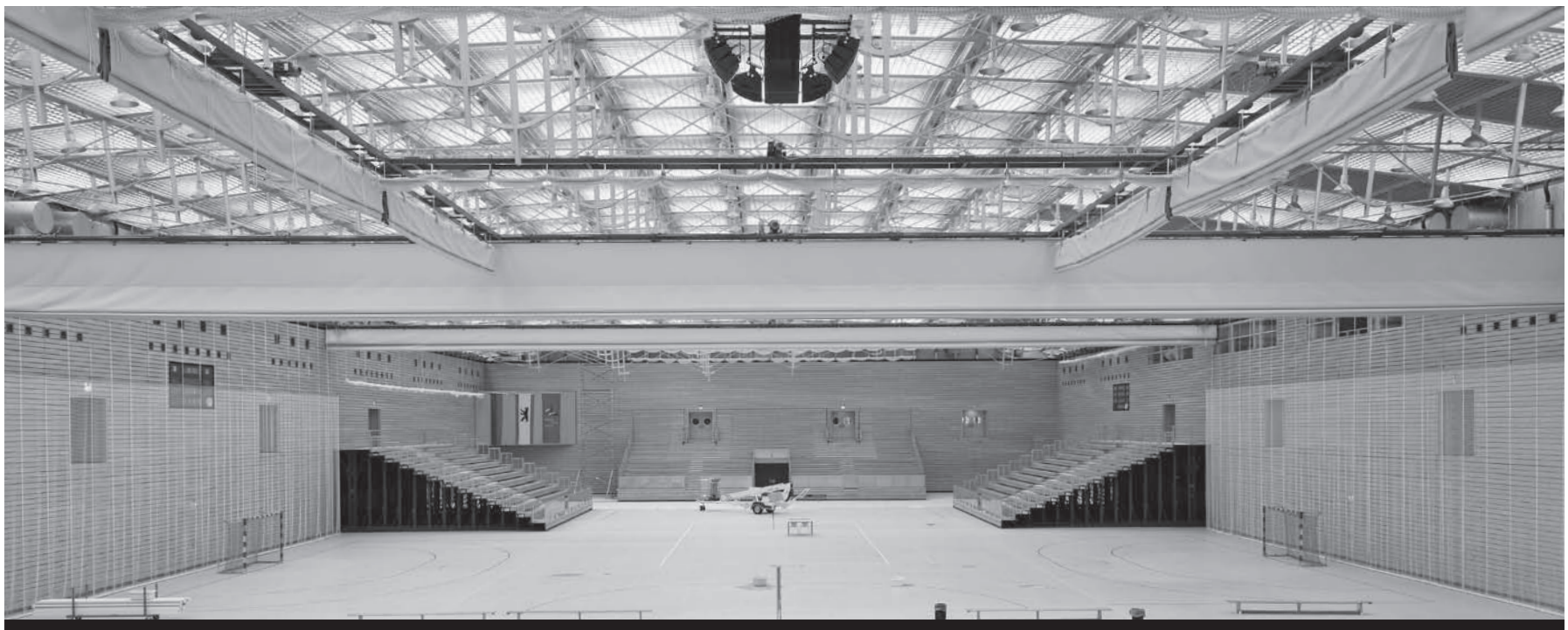
USB3.0接続を可能にしたLTO-7装置

センチュリー

【ブースNo.5108】

防災関連製品や、コンピューター、モバイル、電子雑貨機器などの開発・製造・販売を手掛けるセンチュリーでは、iStar USA Groupの各製品を展示する。iStar USA Groupは産業・工業向け製品を製造する総合機器メーカー。ラックマウントケース、キャビネット、電源などのほか、RAID機能搭載ストレージやリムーバブルラックなども製造している。

サーバーケースは大手企業に採用されており、放送機器や監視カメラシステム、医療機器など、さまざまな分野での採用実績がある。取扱製品数は3万点以上。OEM、ODMを得意としているが、小ロットの製造にも対応可能。




Visit SSL
at
Inter BEE 2016
Hall 2, Booth No. 2201
Solid State Logic
SOUND || VISION

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要⑳

操作機能を向上したAVミキサー

ローランド

【ブースNo.3211/3308】

ローランドは、プロオーディオと映像制作／放送機材関連の2部門に出展する。

プロオーディオ部門（No.3211）では、放送局／ライブ向けセットや最新製品をハンズオン展示。O・H・R・C・A「M-5000/5000C」は、128chの内部入出力構成を自由にアサイン可能な96kHz対応デジタルミキサー。Dante/MADI/Waves SoundGridのオプションボードと合わせて紹介する。キューボックス「M-48」やV-Mixer「M-300/200i」、デジタル音声伝送「REAC機器」製品群、24bit/192kH対応のフィールドレコーダー「R-88/44」、ミキシング機能を搭載した小型アンプ「SRA-5050A」も紹介する。

映像制作／放送機材関連部門（No.3308）では、タッチモニターでの映像切り替えや、音量の自動調節などの操作機能を搭載したフルHD対応AVミキサー「VR-4HD」を初展示する。ビデオカメラやパソコンを接続して使える。

3G-SDI/HDMI対応のHDビデオスイッチャー「V-1SDI」は、ハーフA4サイズと小型。2M/Eスイッチャーとプロセッサー、オーディオ機能を搭載したビデオスイッチャー「V-1200HD」や、タイムコード対応フルHD非圧縮映像をクイックレスポンス再生可能な「PR-810HD」をはじめ、現場で幅広く活躍する製品を紹介する。



VR-4HD

ソリューション ラボ アール

【ブースNo.2203】

ソリューション ラボ アールは、「21世紀の発明スピーカー」として、2013年に独自に開発した小型かつ廉価で高性能なSLR方式BOXスピーカー＆アシスト・ウーファーを展示する。SLR方式BOXは、既存BOX構造では得られない「豊かな響きと余韻で気持ちよい音」が再生できるスピーカーシステムで、手軽なBGMから本格オーディオ、プロ用まで、30機種をラインアップする。

「SLR-ACE-MONITOR」は、InterBee2015でも好評を博したスタジオモニターに最適な製品。ハイルドライバーの中高域採用で、力強く濃厚な限りなく生に近い臨場感あるサウンドが体感できる「SLR-ACE-MONITOR」と併せて展示する。

これら大好評の家庭用スピーカーに加え、SR用にも使用できる「マスカレード」を開発。ホーンドライバーが同軸の20cm2wayで、ピュアオーディオからライブハウス程度の会場に適応する。

エムアンドエヌ

【ブースNo.2312】

エムアンドエヌは、全天候型スピーカーシステム「ONESYSTEMS」とDSP搭載パワーアンプ「Ashly」を展示する。

ONESYSTEMSは、屋内から沿岸部含む屋外まで幅広く施工することができる高明瞭度な製品。本体は、耐候樹脂、金具（グリル、取付ネジ、取付ナット、取付金具）にSUS316ステンレス鋼を使用した重耐塩仕様で、沿岸部でも腐食しにくいのが特徴だ。4.5―18型ユニットを使用した多彩なモデルをラインアップ。IP45、IP56の耐候性能を備える。

Ashlyは、固定設備用パワーアンプとして最適なnXシリーズの1Uパワーアンプ。ハイ/ローインピーダンスをチャンネルごとに設定できる。

オールイン・ワン・コンソール

オタリテック

【ブースNo.2111】

ブロード・キャストコンソールで高評価の独LAWO（ラボ）社や、インカムや光伝送システムの独RIEDEL（リーデル）社をはじめ、取り扱い各社の新製品・注目製品を展示する。

▽LAWO：今回はブースを拡充。多くの国内導入事例を持つオールイン・ワン・コンソール「mc236」に加え、日本ユーザーの声に応えてブラッシュアップされた「mc256 xc」のほか、IP関連製品も紹介する。

▽Riedel Communication：おなじみのインカム関連製品をはじめ、新開発の映像・音声リモート制御に力を発揮するインカムのパネルを使用したリモートコントロール機能、コンパクトかつ多機能な高密度信号インターフェース「MicroN」など、光伝送関連製品も多数展示する予定

▽OTARI：マルチポイント光伝送システムLWBから、待望の次世代機が登場。併せて従来のLWBシリーズも展示する。


LAWO「mc 256 xc」

アコー

【ブースNo.2308】

アコーは米英韓など各国で「センサーのアコー」として高い評価を得ている。今回は新製品としてダミーヘッド「SAMURAI HATS」を出展。

ANSI、IEC規格に準じたHATS（Head and Torso Simulators：ダミーヘッド）は、音波が頭部と胴体部付近に伝わる際に生じる耳付近での回折や反射などの影響を考慮した測定が可能になる。マイクロホンは無指向性で、人間の耳に入ってくる音に近い、臨場感あふれるバイノーラル録音ができる。ヘッドホンやイヤホンの評価、車室内音場測定、建築音響用として高精度な音響分析が、FFTアナライザー、ハンドヘルドアナライザーの使用で可能となる。

電源レンタル　エコパワー

安心・安全　ガソリン不要　騒音ゼロ　排気ガスゼロ

電源のない屋内外で電気が使える！



Webサイトに放送局様など多数のご利用事例を掲載しております！


蓄電型電源「エコパワー 2500」

レンタル料：18,000円(税別)～

映像放送機器の電源確保に最適！

全国配送可能！　電源レンタル専門店　検索

株式会社オンリースタイル　東京都新宿区北新宿1-5-2 佐藤ビル2F　E-mail：info@onlystyle.jp

ONLYSTYLE　0120-511-550　dengen-rental.com

Snell Advanced Media

高性能オンライン編集・カラー＆フィニッシング

Quantel Rio™ 8K



Quantel Rio 8K は、7680 x 4320 60fps リアルタイム再生を保証するターンキーシステムです。 複数解像度共存、広色域、HDR、16/32 ビットフローティングポイント処理対応により、柔軟なワークフローと高品質の成果を提供します。4K と 8K を両立する、全てのソリューションがここに。

Inter BEE 2016
11.16水 ≫ 18金 幕張メッセ

Hall 3 #3505 ブースにて
8K HDR デモンストレーションをご覧いただけます！

スネル・アドバンスト・メディア 株式会社
〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-55　Tel. 03-3400-5711　Fax. 03-3400-5712
www.s-a-m.com/japan/

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要㉑

AoIPベースの次世代コンソール

ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン

【ブースNo.2201】

ソリッド・ステート・ロジック・ジャパンは、デジタルコンソールをはじめ、ネットワークオーディオ関連製品を展示する。出展内容は以下のとおり。



Next Generation Console：System T

▽System T：AoIPベースの次世代デジタルコンソール。Dante HCを採用し、1Gbイーサネットで512chのTXとRX @48KHzの伝送が可能▽C10 HD PLUS：プロセッサーをコンソールサーフェス内にマウントした一体型デジタルコンソール。省スペースかつ省エネ仕様。DAWコントロール機能も搭載▽500 Plus：SSLのライブコンソール。新たにモニター回路を追加。48K、サラウンドパンニングに対応する。

このほか、DAWコントロール機能統合のアナログコンソール「WS 948 Delta」、DAWコントローラー、ネットワークオーディオ関連のI/Oユニット、アナログ系アウトボード類を展示する。

スチューダー・ジャパン-ブロードキャスト

【ブースNo.3118】

スチューダーから、VISTAシリーズ、OnAirシリーズのフルラインアップを披露する。さらに、OnAirの弟分的位置づけとして、2016年9月のIBCショーで発表された注目の新モデル「MICROシリーズ」も展示予定。ラジオスタジオで必須の機能を標準装備するうえに、魅力的な価格を実現している。

映像システム部門では、グラスバレー「LDX 86 XS」を展示。LDXシリーズで定評のある高性能3×CMOSセンサーを採用し、ナイターなどのスポーツ中継にも最適なカメラシステムだ。ブースでは、6倍速ハイスピードカメラ対応のリプレイシステムとともにデモを実施。マルチビューワーシステム「Kaleido-MX」、4K対応プロダクションスイッチャー「Karrera 2.5M/E」も紹介する。

そのほか、独LAWO社のスタジオ統合コントロールシステム「VSM」のデモや統合型プロセッサー「V_remote4」、複数のマルチビューワーを同時制御できるthe WALL、スイスのギルメッティ社からは、IPオーディオインタフェース、オーディオモニタリング、AESチェンジオーバー、パッチベイなども紹介する。



VISTAシリーズ

Harmonic Japan

【ブースNo.7101】

ビデオ配信のインフラストラクチャーにおける最新動向とともに、ハーモニックによるイノベーションの一端を紹介する。展示内容は下記のとおり。

▽OTTエンコード＆デリバリーの最適化：「EyeQ」映像品質最適化のソリューションは、映像品質を維持しつつOTT配信のネットワーク帯域の効率的な利用を両立。自社のPURE Compression Engine技術により、CDNコストの大幅削減と満足度の高いユーザー体験を実現する。

▽ウルトラHDとHDRワークフロー：4K素材伝送、4Kプレイアウト（送出）サーバー、エンコード配信に至るまで、ViBE素材伝送エンコーダー「Spectrum X」、アドバンスド・メディア・サーバーシステム「Electra」、VS UHDエンコーダーを使ったエンド・トゥー・エンドのソリューションを紹介。

そのほか、クラウドでのメディア・プロセッシング、最新のSDI over IP技術によるIPワークフローなども展示する。

動画と音声のHDMI同期が可能

ティアック

【ブースNo.2413】

ティアックは、TASCAMブランドの放送業務仕様機器、PA/SR用音響機器を中心に、設備音響機器などを出展する。

ブースでは、主にProToolsシステムのバックアップ録音やマルチ再生に対応可能な64CHデジタルマルチトラックレコーダー「DA-6400シリーズ」を展示。マルチ再生用途、放送局スタジオ収録ならびにライブレコーディングなどのシステム例も紹介。

カメラ用オーディオレコーダーでは、動画と音声のHDMI同期が可能な「DR-701D」や、新製品のショットガンマイク搭載レコーダー「DR-10DG」、ネットワーク機能を搭載したソリッドステートレコーダーの新製品「SS-R250N」「SS-CDR250N」などを展示。また、新たに販売を開始した独KLOTZ AIS社のケーブル、PA/SRスピーカーの伊ブランドdBTechnologies製品もそろえる。

アユート

【ブースNo.2501】

アユートは、ハイレゾオーディオプレーヤーブランドAstell&Kern（アステル＆ケルン）から、最大DSD5.6MHz、PCM最大384KHz/32bitでの録音を可能にする「AK Recorder」を展示する。AK Recorderは、ハイエンド音楽プレーヤーのフラッグシップモデル「AK 380」をはじめ、AK300シリーズと接続することでポータブルレコーダーとして使えるモジュール式レコーディングデバイス。音楽コンテンツを自ら造り上げる「録音」の楽しさを提供したいというコンセプトで誕生した。

ブースでは、JH AUDIOとのコラボによる超高級ユニバーサルイヤホン「SIREN SERIES JH AUDIO ユニバーサルフィットインイヤー」も出展。そのほか、PCM384KHz/32bit、DSD11.2MHzをネィティブ再生でき、純度99.9㌫の銅をボディー素材に採用したモンスタープレーヤー「AK380 Copper」も展示する。





特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要㉒

メディアサーバーの最新版出展

マイルランテック

【ブースNo.4507】

マイルランテックは、2015年に発表したメディアサーバーModuloPlayerの最新バージョンV4を出展する。これまで以上に安定かつハイクオリティーな映像再生機能、そしてパワフルな補正機能を装備した。新たに、最軽量モデルNanoがラインアップに加わった。このNanoを使用した



メディアサーバー「ModuloPlayer」

デジタルサイネージ分野への応用も併せて紹介する。

また、メディアサーバーとショーデザイナーを組み合わせた新しいカテゴリーの製品「ModuloKInetic」を世界初披露する。同製品は、ライブショーの一連の演出ワークフローを、3D空間のプリビジュアライゼーションにより、プロジェクションのシミュレーション、マッピングデザインなどを画面の中で構築しつつ、各種機器の制御プログラムも同時に実現。デザインから本番実行までの一連のフローを１システムにパッケージ化できる。

このほか、ショーコントローラーMedialon、ネットワーク製品Luminex各種も展示する。

Visual Research Inc.

【ブースNo.8503】

「リニアからノンリニア、HDから4Kへ」をテーマに、現在の課題と未来へ向けた製品とシステムを出展する。

KarismaCGとD-Stream DXを連携した「VRiハイブリッド編集システム」は、リニア編集での作業フローに合わせた新しいハイブリッド編集システム。ノンリニア編集の課題であったリアルタイムでのテロップ作成・編集を可能にする。

ブースでは、4K HDR対応の「KarismaCG 4K」、2016年の「全国高校野球選手権」で朝日放送が使用した4K対応の野球コーダーと併せて展示。マルチフォーマットディスクレコーダー「D-Stream」の4K HDRモデル「D-Stream 4K」も参考出展する。さらに、「D-Stream」を編集機と接続し、実演デモをする。



KarismaCG

そのほか、SmartCGから名称を変更したリアルタイム2Dキャラクタージェネレーター「VisualCG」も展示する。

フォービット

【ブースNo.2509】

フォービットはブースで、MADIおよび22.2マルチチャンネル音響関連機器の新製品を発表する。そのうち「MS-564」はMADI入力で直接音声モニターできるMADIモニター、ラウドネスメーターユニット「LM-22」は、22.2ch＋5.1ch＋2chの同時ラウドネス計測が可能だ。

また、2017年1月に発売予定の3G/HD/SD-SDIエンベデッドオーディオモニター2機種、VUメーター搭載のMS-822Vと、コンパクト可搬型のMS-832を紹介。これらは2017年1月に発売を予定している。その他、中継用途として6×6オーディオマトリックスミキサー「MTX-0606」や、32×20アウトプットマトリックスユニット「MTX-2420」、より自然なコントロールを表現したラウドネスコントローラー「LC-88」なども併せて展示する。

超高精細LEDサイネージパネル

CreateLED Japan

【ブースNo.4304】

昨年に引き続き、超高精細LEDサイネージパネルの新製品を出展する。

ブースでは、ピクセルピッチ1.6㍉のSMD屋内用モデル「AirMAG-1X」、ピクセルピッチ1.9㍉のSMD屋内用モデル改良版の「AirMAG-1」により、高コントラストかつ超高精細な映像が体験できる。そのほか、曲面使用を可能にした「AirWAVE-6」、軽量設計の「AirMAGLITE-7」、クリエイティブなオブジェとして定評のある「AirMAGICBOX-3」、スポーツ施設などでの広告サイネージ用に適した「AirSPORT」も出展。

LEDサイネージの普及が一段と進む2020東京五輪に向けて、多様なシーンで活用が期待される製品の数々をラインアップしている。



超高精細LEDサイネージパネル

エコ・トラスト・ジャパン

【ブースNo.2316】

国産LED「TRUST-LIGHT」の製造・販売を手掛けるエコ・トラスト・ジャパンは、デンマークで名高いオーディオメーカーのLIBRATONE（リブラトーン）社とブルートゥーススピーカーの日本総代理店契約を締結。12月1日から国内販売を開始する。リブラトーン・アクティブスピーカーは、無線技術で6台までのスマートフォンやPCの音を拡声する音響システムを構築できる製品。全方向に広がる360度サウンドかつ内蔵バッテリー駆動で、位置を気にせず試聴できる。

また、インテリアになじむ北欧デザインも特徴だ。カバーはオプションで7色を用意。ライフスタイルや季節に応じて本体カバーを着せ替えて楽しめる。

Inter BEE International Broadcast Equipment Exhibition　HALL 3 #3218

Discover New Experience セミナー



ROCK ON PRO と MI 事業部が
多彩なゲストと共に展開する、ノウハウセミナーです。

☆１☆ Focus in Broadcast ROCK ON PRO 三

～２つの Broadcast にみる最新 Pro Tools と MTRX が創り出す未来～
～シン HD Pro Tools 解放！ 高品位 I/O による拡張の世界～



君塚　赤尾　山口

16(水) 12:00～/14:30～
17(木) 10:30～/13:30～
18(金) 11:30～/14:30～

☆２☆ ネットワーク・オーディオ時代の新しいレコーディング手法を学ぶ。

～DiGiGrid IOS を愛用する飛澤正人氏によるノウハウ・セミナー～

イベント概要、テーマ：DiGiGIRd Desktop / Rack ネットワークによって、より自由に、よりクリエイティブになったレコーディングとミックスを実演。エンジニア、アーティストの視点から DiGiGRid SoundGrid ネットワークによって実現した制作を徹底解説します。

出演　講師：飛澤正人
ゲスト・アーティスト：小南千明（DAW 女シンガーソングライター）
ゲスト：Dan Page（DiGiGRId プロジェクト・マネージャー）



16(水) 13:30～
17(木) 11:30～/15:30～
18(金) 10:30～/15:30～

☆３☆ 杉山勇司の「パーソナル・スタジオにおけるモニター環境の構築」
～重要なのはセッティング～

パーソナル・スタジオでは多くの制限が存在するため、必ずしも優先されないモニター環境の構築。
サウンドエンジニアの杉山勇司が、セッティング手法を実例で混じえながら、その重要性を解説します。

出演　講師：サウンドエンジニア　杉山勇司



16(水) 15:30～
17(木) 14:30～
18(金) 13:30～

ROCK ON PRO 三　Shibuya TEL : 03-3477-1776　Umeda　TEL : 06-6131-3078

2MIX 中の“話し声”を±12dB で
音量調整可能な、革新的プラグインが登場。



『SVC』は、2MIX 中の“スピーチ（話し声）”を検出／分離して±12dB の範囲で音量調整可能なプラグインです。背景音（スピーチ以外の音）も調整できるので、「スピーチが聞き取りにくい」、あるいは「背景にノイズがのっている」ようなコンテンツの問題を【素早く】解消できます。

詳細はこちら http://sonicwire.com/SVCES

「セリフ」抜き出し・差し替え技術の解説セミナーを開催！

Audionamix 社（米国）スタッフを招聘し、2MIX からのセリフ抜き出し、BGM 削除などについて実際の事例のご紹介や、最新『SVC』を含む、各種音声分離ソフトウェアについてご紹介します。

日時・場所　11/16（水）14:45 ～ 15:30
幕張メッセ内ホール 6 - 1F プレゼンルーム

今年も出展します！
Inter BEE 2016
11.16(水)～18(金) 幕張メッセ
プロオーディオ部門
ホール 3 / 3215

SONICWIRE.COM BY CRYPTON FUTURE MEDIA　あなたのネタ切れ、解決します。
サンプルパック、ソフト音源の配信ストア。
取扱い 10,000 タイトル 突破！

制作支援ツール「PE RUSH!」開発運用

ピクチャーエレメント（東京都世田谷区）は、映画やドラマの撮影済み映像やVFX素材を、iPadでプレビューおよび管理できるシステム「PE RUSH!（ピー・ラッシュ）」とプライベートクラウド「pe−cloud（ピー・クラウド）」を開発し運用。映像技術の高度化に伴って素材のデータ量が増加するなか、バックボーンにDell EMCのスケールアウトNAS「Isilon X200」を導入することで、安定した制作工程と、作品の仕上がりのクオリティ向上に貢献している。

ピクチャーエレメント

EMC Isilonサーバーで自社クラウドを構築

映画「シン・ゴジラ」でも貢献

ラッシュ試写、コミュニケーションをiPadで

3社接続して制作ツールを同期



左から齋藤氏、大屋代表、江畑氏

ピクチャーエレメントは東京・成城の東宝スタジオ内に拠点を構え、年間約20作品の映画やCM、ドラマ制作に参加する。単なるVFX／ポストプロダクションだけではなく、プリプロダクションから制作に携わることを強みとし、データ管理などの統括作業を含めて担当している。

この業務の主軸となるのは、2013年から運用を始めたPE RUSH!とpe−cloudだ。

PE RUSH!は、専用に用意されたiPad上のソフトウエアから利用する。スタッフは映像を再生し、気づいた点に矢印やコメントを手書きで書き込んで情報を共有。制作の方向性や修正すべき点を相互に確認できる。

開発の経緯について大屋哲男テクニカルプロデューサーは「映画制作のデジタル化が進むなか、ラッシュ試写による編集前素材の確認をストリーミング形式で、公開前の作品の情報を外部に流出させることなく安全に進めたかった」と説明。プレビュー以外にも画面比に応じたマスク表示や、素材検索を容易にするタグ付け、簡易カラーコレクションなど便利な機能を搭載。動画がアップロードされると、iPadの通知機能により連絡を受け取ることもできる。

これにより監督やスタッフは、離れた場所にいながらも同じ条件の画面を見ることができ、ラッシュ試写と制作会議が手元で実現。iPadのディスプレーはRec・709を包括し、さらに個体差が少ないことから視聴環境を統一することも可能で、いわば「コミュニケーションツール」として機能する。

安全性の確保は最も気をつかっている点だ。パスコード設定はもちろん、キャッシュが残っていない限りiPadに映像は安全で確実に進めることができる。



Isilon X200

現在、多彩な機能や安全性が制作者やコンテンツホルダーから評価され、稼働は着実に増加。この3年間で利用した作品は、映画やCM、イベント、ドラマなど100作品にまで上っている。

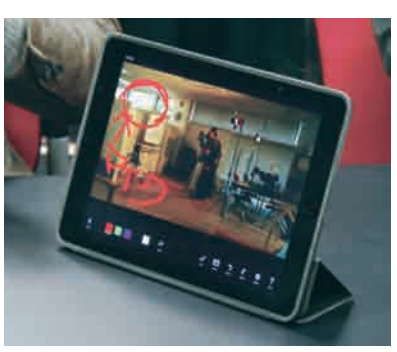
★アイシロンサーバーで運用

これらのシステムを支えるのが、2015年に導入したDell EMCのスケールアウトNAS「Isilon X200」（4ノード構成、容量100テラバイト）である。同製品は、NASコントローラーとディスクが一体化し、単一ファイルシステムで動作するため、拡張性が高く、増加し続ける大量のデータを保存管理しやすい。現在の映画制作では、仕上げは2Kでも4K撮影されることが多いため、データは加速度的に増加。必要なときに迅速にノードを追加できると同時に、データが増加してもスループットを高く保てることが必要だった。

サーバー環境の構築を担当した江畑勝氏は、「年々増加する映画の素材のデータ量にどう対処するか。これが最も大きな課題であり、機器の選択は、容量のスケーラビリティーがあるかどうかだった」と話す。

PE RUSH!は、主に次のように運用される。①撮影後、ピクチャーエレメントのDITが素材のバックアップ作業を行う②同社内で、クオリティーチェックや作品の最終的な公開環境を見据えたルックマネジメントを施す③ピクチャーエレメントがpe−cloudにアップロード④VFXや編集チームはそれぞれの作業進行に応じて素材をダウンロードおよびアップロードする――。

オリジナルデータを保存するpe−cloudは、ビットレートや画質は各現場が無理なく伝送、再生できるよう管理している。



PE RUSH!の画面

江畑氏は「Isilonは複数のノードであってもOS『OneFS』による単一ボリュームのため管理しやすい。必要に応じてアドオン機能を追加でき、コマンドラインから使いたいなどの要求にも応えてくれる。さらに、1つのシステムの内部を、社内と社外といったようにゾーンを分けて運用できる。多重化も不要だ」と説明する。

アプリケーションサーバーはEMCの子会社の製品であるVMwareで仮想化されており、アイシロンと問題なく動作する点も大きいという。

★シン・ゴジラでの活用

今夏、大きな話題を呼んだ映画『シン・ゴジラ』でも、PE RUSH!／pe−cloudは使われている。

同作品は2015年8−10月に撮影、その後16年夏に劇場公開というスケジュールで進行。VFXの多い作品としてタイトなスケジュールであることが課題だった。

これに対応するための手段の1つが、VFX作業開始後に、ピクチャーエレメントをハブに、『シン・ゴジラ』の総監督を務めた庵野秀明氏自身のスタジオ「カラー」、編集・VFXスーパーバイザーの佐藤敦紀氏が詰めていた「白組」のスタジオの3カ所を接続する方法だ。

3社のスタジオはNTTの光回線でIPv6接続され、VPN網を構築。pe−cloudサーバーをハブに、各社の作業内容が同期する環境を作ったことで、庵野氏は自身のスタジオをベースに作業を続けることができ、移動に伴う時間のロスやストレスを抑えられた。

大屋氏は「編集データを保存すると、数分後には別のスタジオでも変更点が反映される」と説明。こういった方法は初めての試みであり、「異なる会社間を接続したことの意義は大きい」と将来への期待を話した。

★日本のVFXを向上

PE RUSH!／pe−cloudは、制作効率を向上させるツールであると同時に、スタッフ間の意思疎通の場であり、手段となる。大屋氏は、「シン・ゴジラの場合、庵野氏のアイデアをその場で引き出し、記録するための道具としても役立った」と振り返る。

DI技術統括とカラーグレーディングを担当する齋藤精二氏も、「このツールが多くの方に受け入れられてきたのは、時間をお金で買えるような効果をスタッフの方々に体感して頂けたから」とする。

VFX制作は一般的に、時間をかければかけるほど、作業を繰り返せば繰り返すほど仕上がりが向上するもので、シン・ゴジラは100を超えるリテイクを重ねたカットもあるという。

齋藤氏は、「制作速度とコミュニケーションの密度を上げることで、日本の映像のVFXはさらに向上し、海外と勝負できるのではないか」とまとめた。

特集 Inter BEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要㉓

音声ファイルソフトなどを紹介

クリプトン・フューチャー・メディア

【ブースNo.3215】

クリプトン・フューチャー・メディアのブースでは、サウンド配信サイト「SONICWIRE」の効果音、BGMやソフトウエア音源、音声ファイル編集ソフト「TRAX PRO」、音声ファイル修正プラグイン「SVC」などを紹介する。「SVC」は、Audionamix社のADX技術を用いたエフェクト・プラグイン。2ミックスに含まれるスピーチ音量や背景音を調整可能にする。

また、ADX技術により、古い映像作品からのセリフ分離や不要なBGMの削除が可能なAPS（オーディオ・プロセッシング・サービス）も紹介。16日には開発元のAudionamix社スタッフを交えてAPSを解説するイベントを開催する。



音声ファイルプラグイン「SVC」

ビーテック

【ブースNo.2110】

ビーテックは、MUSICグループ・コマーシャルJPのプロオーディオ製品全般を特化して取り扱う新会社として2016年1月4日に設立。同時に、LABGRUPPEN、TANNOYに加えTurbosound、DDAの取り扱いも開始した。今回が初となるInter Beeではベステックオーディオと共同出展する。

LABGRUPPENからは固定設備向けシリーズからスリムラインのDシリーズ（1Uモデル）に加え、Eシリーズ、Luciaシリーズの新モデルを展示。TANNOY、Turbosoundからは設備、ツアー向け製品をラインアップする。また、DDAからは新製品のライブ＆スタジオ向けアナログミキサーを出展する。

イースタンサウンドファクトリー

【ブースNo.2505】

独ムジーク エレクトロニクガイザイン社のSR用同軸スピーカー「TS40/TS50シリーズ」を初展示する。さらに、モニタースピーカーとしてエンジニアから絶大な支持を誇るRLシリーズより、RL901K、RL904、RL906を展示。

ブースでは、もう1つの見どころとして米VUE audiotechnik（ヴュー）社のコンパクトインストールスピーカー「i-class」の試聴展示も行う。木製エンクロージャーの2ウェイ仕様により、小型でありながら低域の押し出し感と伸びのある高域・高音質を実現。標準付属の天吊り/壁面ブラケットのほか、オプションでスタンドアダプターを用意し、さまざまな設備シーンに対応する。

ATL-KYOEI

【ブースNo.3206】

ATL-KYOEIは音響総合研究所の業務を引き継ぎ新たに設立された。今展示会では、192kHz/24bit世界初の仕様となるミキシングコンソール「M2820」を第一弾の新製品として出展。28 IN/20 OUT、全DSP機能をFPGA内に実装、オーディオアウト用USBポート8ch、ProToolsなどのシステムで8chの192kHzのハイレゾ録音機能などを搭載する。

また、192kHz/24bitまでのデジタルデータに対応するデジタルアナログコンバーター「LDC-01U」、カスケード接続で最大96chの信号を1カ所のヘッドホン端子で切替検聴可能ヘッドホンアンプ「LLM16」、インターカム「IC-M12/U12」、ダイレクトボックス「IMB-04」、20ch信号切替機「SS20W」、マイクプリアンプ「DMA-02」、ヘッドホンアンプ「DHA-02」も展示する。

現場での音声伝達の要望に対応

谷沢製作所

【ブースNo.3109】

谷沢製作所は、各放送局の担当者から寄せられた、ワイヤレスインカムや送り返しで生じるトラブル事例に対する対応ソリューションを展示する。

一例を挙げると、①IP中継が増えるなか、ディレクターがフットワークよく現場を動き回る際に携帯型のマトリックスがほしい②台風中継や報道中継といった少人数・緊急性のあるIP中継時に、小型軽量の機材で簡易的に連絡線を構築したい③安価で通信距離が長い送り返しシステムがほしい――など。これら現状の困り事の連絡系統に関して、問題解決を図ることができる同社製品の数々を紹介する。

出展製品は、携帯型マトリックス　チームトーク2「IN-ME029-3」、トリオトーク型携帯アダプター「IN-ME018」、送り返し同時通話システム「ちびカム722型 IN-AN003」など。そのほか、アナログワイヤレスインカムや、ヘルメット、フルハーネスなども展示する。

ウエタックス

【ブースNo.2405】

防水音響機器を専門に扱うウエタックスでは、企画・開発から販売までを一貫して同社で実施している。

展示では、主力商品の水中スピーカー、水中マイク、防水マイク、水中カメラを中心にデモをする。

水中スピーカーは、シンクロナイズドスイミングの国際大会や、養殖、ダムなど、多様な環境における幅広い用途で使われており、多くの実績を誇る。インタビュー用防水マイクは東海テレビ放送との共同開発製品で、2016年の台風中継で実際に使用された。日本民間放送連盟賞の技術部門で最優秀を受賞するなど、高い評価を受けている。

また、展示ホール2で行われる「INTER BEE EXPERIENCE マイクロホン試聴体験デモ」にも出展。放送品質を満たした防水マイクを体験できる。



特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要㉔

蓄電型電源のレンタルサービス

オンリースタイル

【ブースNo.5113】

オンリースタイルは、撮影・編集・照明機材の電源確保に適した「電源レンタルエコパワー」のシリーズとして、蓄電型電源「エコパワー2500」と、屋外でも使用可能で最大容量5000Wの「エコパワー6400」を展示する。

レンタル商品でもあるエコパワーは近年、利用者が拡大しており、特にエコパワー2500は、レンタル用として60台を用意しているが、常時すべて貸し出し中の状態が続いているという。同社では近く、2500を増産して対応する予定だ。

エコパワー2500は軽量、小型ながら2.5kwhの蓄電能力がある電源装置。バッテリーの並列接続を可能とし、シーンに応じた蓄電量の確保ができるモデル。バッテリー残量計を装備し、現在の蓄電量がいつでも確認できるようにもなった。同6400は防滴、防塵性も備えた大型電源装置で、6.4kwhの蓄電量と定格3kwの大出力に対応。大型タイヤとハンドル付き。

電源レンタルエコパワーの特徴は、ガソリンいらず・排気ガスゼロ・騒音なし。ガソリンが使えない室内、電源のないロケ現場、イベントでの電源確保、法定停電のバックアップなどで使用できる新しい電源。満充電された状態で利用者へ届けるため、すぐに利用できる。



エコパワー2500

エクストロン・エレクトロニクス

【ブースNo.6410】

DSC HD-HD 4KシリーズやRoom Agentなどの新製品を中心に出展する。Quantum Ultraは高性能スケーリングエンジンの搭載で、比類ないリアルタイム処理性能を発揮するモジュール式4Kビデオウォールプロセッサー。エクストロン独自のVector 4K/4:4:4スケーリングエンジンおよび多数の高解像度ソース信号を処理できる400Gbps HyperLaneビデオバスを搭載。さまざまなウィンドー構成が可能で、多彩な用途に使用できる。シンプルかつローコストで柔軟なシステムデザインが特徴だ。

HDCP2.2準拠の高性能スケーラーDSC HD-HD 4K PLUS Aは、480iから4096×2160解像度までの信号をスケーリング出力可能。18Gbps HDMI2.0に対応し、4K/60Hz解像度までの信号の4:4:4カラーサンプリングをする。

また、自社タッチパネルTouch Link Pro向けのオンデマンド会議室予約ソフト「Room Agent」を無償提供する。マイクロソフトExchange、Office 365に接続したPC、スマートフォンなどからも予約可能になる。

DXアンテナ

【ブースNo.8401】

DXアンテナは、3224MHzに対応した受信機器や測定器までの4K・8K対応商品の最新ラインアップを一堂にそろえ、4K・8K時代に向けたシステム設計の提案をする。また、通信・放送の伝送路の区別なくIPデータを配信する技術（IPDC 技術）を活用した情報配信プラットフォーム「DXマルチキャスト」を中心に、地域の防災・福祉情報の配信システムや、V-Low波のデータ放送サービスによる新しい車社会に向けた取り組みを紹介する。

さらに、快適な生活環境の提案として、テレビで手軽に4Kネット動画を楽しめる「同軸線モデム」や、LEDセンサーライト、ワイヤレスインターホン、DXメディアコンセントなど多彩なラインアップを展示する。

直感的に操作を理解できる設計

ATV

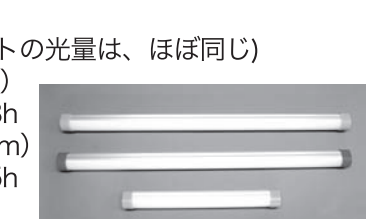
【ブースNo.6412】

ATVは、4CH HDライブAVミキサー「A-PRO-4」、8CHマルチフォーマット・ビデオ・スイッチャー「MS-8」、ビデオコンバーター「AV-5S/AV-3シリーズ」を展示するほか、電子楽器製品より、Electronic Drums「aD5」と、新製品のElectrorganic Percussion「aFrame」のデモ演奏をする。試奏もできる。

A-PRO-4は、直感的に操作を理解できるイージーオペーレーション設計。2K/60pまでを10ﾋﾞｯﾄ/4:4:4処理、マルチフォーマット対応、外部同期対応。最新Ver.1.2でマルチビューに対応する。

MS-8は、テレビ会議やプレゼンテーションに適する。内蔵スケーラーにより、すべてのビジュアルをスマートにコントロール。最新Ver.1.2でTELNETコマンドでのリモート制御に対応。

AV-5S/AV-3シリーズは、SDIとHDMIを繋ぐハイスペックコンバーター。フレームバッファ機能、さまざまなソースに自動対応、外部シンクロ対応、音声入出力などの機能がある。



A-PRO-4

グルーヴ

【ブースNo.3108】

グルーヴは、放送番組や映画、VPなどの各種映像コンテンツや、店舗・施設向けのBGMなどで利用されている業務用音楽ライブラリーを扱う音楽出版社。ほかにも選曲やオリジナル音楽の制作、最先端のレコーディングスタジオを運営している。

ブースでは、自社で企画・制作する国産業務用音楽ライブラリー「GROOVERS MUSIC LIBRARY」をはじめ、国内外約50の業務用音楽ライブラリーを案内する。

同社音楽ライブラリーは、放送番組やラジオ、VP/PR動画、プロジェクションマッピング、館内BGMなど各種コンテンツで利用されている。

NEW

HDR表示対応にアップグレード



31.1型 DCI 4K対応
カラーマネージメントモニター
ColorEdge
CG318-4K

Inter BEEで実機をご確認ください。

EIZO ブース　ホール4 No.4506

ご来場特典
毎日先着で150名様に
オリジナルミニノートを
プレゼント！



サービスのお申込み・お問合せは

EIZO株式会社 営業1部 コーポレートソリューション営業課
03-5764-3401

EIZO

Kenyon Gyro Stabilizers

= デジタルビデオ・カメラ用防震装置（米国製）=

■スタビライザーは震えを抑え、被写体を正確にとらえ、鮮明な映像を撮ることが出来ます。
■スタビライザーは4K、8K等の360度パノラマムービー撮影およびムービー 一眼レフカメラ撮影に効果抜群。
■機種：　3軸ジャイロ： KS-2 x 2、KS-4 x 4、KS-6 x 6、KS-8 x 8型
　　2軸ジャイロ： KS-2、KS-4、KS-6、KS-8型
　　(カメラの重量に応じて機種を選択して下さい)





LED電池内蔵蛍光型ライト

LED電池内蔵蛍光型ライトは、演色性の高さ、安定した色温度、フリッカーフリーに近い状態の光源及び小型軽量による機動性等の構造により、屋内及び屋外の映画撮影、ビデオ撮影、CMなどの補助撮影照明機材として便利です。
■AC/DC併用（AD/DC切換え時のライトの光量は、ほぼ同じ）
■種類：　ET1003型（本体の長さ30㎝）
　　バッテリーDC使用時間： 約3h
　　ET1006型（本体の長さ60 cm）
　　バッテリーDC使用時間： 約5h
■演色性：85Ra～90Ra
■色温度：5,600K（ディライト）、
　　3,200K（タングステン）

アナミ海外株式会社
〒164-0011 東京都中野区中央4-6-18 山成ビル 2F
TEL：03(3384)1860　FAX：03(3384)1867　http://www.anamikaigai.co.jp

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要㉕

進化した各種新製品がそろう

ディーエスピージャパン

【ブースNo.1603】

ディーエスピージャパンの展示項目は、①多様な入出力を装備したTrinnovプロセッサー「MCシリーズ」 ②AVID S6コンソールからのコントロールに対応したTrinnovプロセッサー「D-MONシリーズ」 ③v10.1に進化したDSD256対応DAW「Pyramix」 ④v6.1に進化したポン出し機「Ovation」 ⑤BMDキャプチャーボードに対応したビデオ・モジュール「V Cube v6.1」 ⑥信号に忠実なアクティブ・モニター「PSIスピーカー」 ⑦新発想で定在波を吸うアクティブ・デフューザー「AVAA」など、最新製品をそろえる。

また、今年も100vACを供給可能な大容量バッテリー「Elly Power」を併せて展示する。



アクティブ・デフューザー「AVAA」

音響特機

【ブースNo.2205】

EAWよりADAPTive System"Anya""Anna"をはじめ、新製品のラインアレイ"RADIUS"が初上陸。MACKIEからAXISデジタルミキシングシステムを披露。その他、QSCから評価の高いQ-SYSに音声のみならず映像をネットワークで通信可能にした"AV to USBブリッジング ソリューション"を。biampより新製品のTESIRAアンプ、業界標準のSmaart V8など新製品を主に展示出展する。

取り扱いを開始した映像ブランドATLONAからは、次世代を担う新たなネットワーク伝送"OmniStream"を展示する。このInterBEE期間中は本国よりエンジニアが来日し、OmniStreamのテクノロジーを詳しく説明する。



ATLONAの製品ラインアップ

バイオス

【ブースNo.8407】

バイオスは「2020年に向けた国産超高速ストレージのご提案」をメインテーマに、映像編集に欠かせないストレージ技術と、近年の高解像度映像素材に対するハードウエア開発の取り組みを披露する。一番の見どころは、先行初公開となる2017年度発売予定のThunderbolt3対応ストレージEclairProシリーズの参考出展。最大10台以上のHDD搭載可能の3モデルをラインアップする。

またブースでは、自社開発マザーボードおよびRAIDコントローラーを搭載した2U10bay・2U12bayのストレージサーバー「GAIA NAS」を展示。オプションの高速ネットワークカードを搭載したデモを実施する。

そのほか、高速・大容量ストレージ「EclairPro」は、国内メーカー初となるThunderbolt 2対応およびUSB31を各2モデル展示。Thunderbolt 2タイプはUSB3.0と6G eSATAのトリプルインタフェースを搭載し、Macだけでなく Windowsでも高速接続が可能だ。USB3.1タイプは世界初のTypeCモデル。

d&bオーディオテクニック・ジャパン

【ブースNo.2102】

ディーアンドビー・オーディオテクニック・ジャパンは、既存の固定設備用シリーズxS-Seriesに今秋追加された24Sラウドスピーカーと21S-SUBサブウーファー、同時期に仕様を変更して外観の向上を図った8Sラウドスピーカー、ソフトウエア製品のNoizCalcや本年新たに対応したQ-SYSへの統合などを出展する。同時開催のINTERBEE EXPERIENCEでは、ポイントソースV7P/V-GSUB、小型ラインアレイY-Seriesを ArrayProcessing機能を用いてデモする。



24Sラウドスピーカー

半球状のスクリーンに映像投写

WONDER VISION TECHNO LABOLATORY

【ブースNo.4206】

WONDER VISION TECHNO LABOLATORY（ワンダービジョンテクノラボラトリー）は、半球状の大スクリーンに映像を投写することで、これまでにない映像体験ができるシステム「WV Sphere（スフィア）5.2」を開発。今回の展示で国内初披露する。

「WV Sphere 5・2」は幅5.2㍍、高さ3.4㍍奥行き2.6㍍の半球状スクリーンに、4Kや8Kなどの高精細映像を映し出すことが可能。映像に合わせイスを動かしたり、風を吹かせたり、さらにサウンド効果を加えることもできる。これらの効果が五感を刺激することで特別な映像体験をもたらすという。



WV Sphere 5.2

同社では、高精細映像コンテンツを制作する企業やVR関連企業、アミューズメント業界なども注目しているため、多くの企業からの意見も取り入れながら、よりよい製品の開発を目指すとしている。

ヴァイテックビデオコム

【ブースNo.8319】

主な出展内容は、Vinten／Sachtler／OConnorのカメラサポートシステムを中心に、Anton/Bauerのリチウムイオンバッテリー、LitepanelsのLEDライト、Autoscript／Autocueのプロンプターシステムなどバラエティーに富んだカメラ周辺機器群を展示。

目玉展示となるのは、高輝度フラットタイプLEDライト「Astra 1X1シリーズ」ラインアップに、ソフトディフュージョンタイプの「Astra 1X1 Soft」が加わった。



Vintenのカメラサポートシステム

IP75防塵防滴仕様で注目されるヘビーデューティLEDライト「Brick」も紹介。高負荷のシネマカメラシステムに適したAnton/Bauer Cine Series Batteryのラインアップも充実させている。

EXA INTERNATIONAL | www.exa-int.co.jp

Inter BEE 2016
11.16 水 ≫ 18 金 幕張メッセ
展示ホール8
【INTER BEE CREATIVE】
ブース No.8602

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

主な展示サービス



アドバンストバーチャルシステム
Infinity Set
これまでにないレベルで実写と CG が統合し、より斬新で自然な VR 合成が可能となった新しいバーチャルシステム「Infinity Set」をご紹介いたします。



LTS-70+MAM
ファイルアーカイブサービス
LTO-7 メディアに対応した、よりコスト効果の高いアーカイブサービスのご提案。素材ファイル管理ソフト「LTS-MAM」を使ったソリューションをご紹介いたします。



4K トータルワークフロー
4K HDR Works
4K HDR のデモンストレーション映像を上映。撮影からカラーグレーディング、編集、納品まで一貫したワークフローをご紹介いたします。

株式会社 エクサインターナショナル
〒107-0052　東京都港区赤坂 2丁目16番 9号　TEL：03-5575-3911　FAX：03-5575-3910

タブレットラックTablet Rack　※新発売



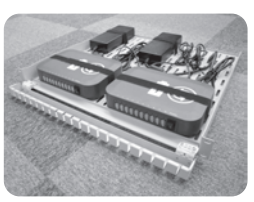
Apple iPad や Microsoft Surfaceなど、タブレットを最大40台収納可能。
USB-haco10に接続することにより、Apple iPad や iPad mini をお使いの場合には充電とデータ同期が可能です。
スライドタブレットトレイ/USBハブ（USB-haco10）/USBハブトレイ がパッケージングされた専用のタブレット搭載ラックです。

スライドタブレットトレイSlide Tablet Tray



EIA 5Uでデザインされたフレキシブルなスライド式タブレット収納トレイです。
本製品1ユニットで最大20台のタブレットが収納でき、オプションの『ショートストッパー』を使用するとスマートフォン等の小型デバイスも収納が可能となります。
300×209.5×18mmまでのタブレットを収納可能。
お使いの19インチラックにラックマウント可能です。

USBハブトレイ USB Hub Tray



EIA 1Uでデザインされたケーブルオーガナイザー付USBハブ収納トレイ。
ケーブルオーガナイザー部は開閉可能で、USBコネクターの抜き差しが容易です。
Tablet Tray の直上にレイアウトすることにより、良好なオペレーションが可能となります。
USB-haco 10 を2基搭載できます。
お使いの19インチラックにラックマウント可能です。

あらゆるソリューション設備（医療／教育／映像／音響／情報）の筐体開発・設計・販売・施工
ニッキャビ株式会社　〒211-0051川崎市中原区宮内2-5-8　E-Mail:niccabi@niccabi.co.jp
TEL:044-766-2111 FAX:044-777-9000　URL:http://www.niccabi.co.jp

特集 InterBEE 2016 International Broadcast Equipment Exhibition 出展概要㉖

発色評価などの色標準を発生

ノブオ電子

【ブースNo.5209】

カメラの色校正やディスプレーの発色評価などの色基準「色票」を発生する「CP1000」を出展する。異なる波長（色）で発色する18種類のLEDの光を、本体である直径30㌢㍍の球体の中で混色させ開口部に表示させる。「物体で反射するほぼすべての色を表現。18色そろえることで、色度値だけでなく光のスペクトル分布で再現する」という。

2018年から8Kスーパーハイビジョン放送が始まることを受け、カメラが正確に撮像できるよう色校正を支援する。xy色度図では、BT.2020を約97%カバー可能。カメラの特性評価やディスプレーの発色評価も用途とする。



CP1000

アイベックステクノロジー

【ブースNo.5202】

アイベックステクノロジーが12月から販売を開始するハードウエアデコーダー「HLD-540DC」は、最新の映像符号化規格「HEVC/H.265」に準拠している。自社開発のHEVC/H.265デコーダーおよびMPEG4 AVC/H.264対応コーデックコアを搭載したマルチスタンダード対応のスタンドアロン型ユニットだ。

伝送用のインタフェースとしては、IP伝送用に100BASE-TX/1000BASE-Tを2ポート、FPU伝送用にDVB-ASIを1ポート、ほかにRS-232Cポート、同期信号（GenLock）入力を装備しながらも、筐体サイズを1/3Uの小型サイズで実現した。

ヒビノインターサウンド

【ブースNo.2208】

ヒビノインターサウンドは、Inter BEE2016で、連携するシュア・ジャパンブースで、会議システム向けマイクロホン「マイクロフレックスアドバンス」を実演する。独自の収音コントロール技術を使用した製品で、ラインアップは3種類。

「MXA910」は、頭上から発言者の口元を狙って収音する天井設置型シーリングアレイマイクロホンで、出力は収音エリア個別の8系統と、自動ミキシングチャンネルを加えた9系統。信号はDanteで送れる。テーブルに置いて任意の範囲を収音する。収音方向を15度刻みで設定することもできる。

カルレック製の放送用ミキシングコンソール「BRIO（ブリオ）」も披露する。

エミライ

【ブースNo.2617】

エミライはOPPO Digital Japanと共同ブースで、取り扱い製品の米MrSpeakers社製ヘッドホンを展示する。

MrSpeakersはカリフォルニアに本拠地を置くヘッドホン専業メーカー。アンプの設計や特定顧客向けの音響機器、商業施設向けの大型スピーカー設計などを手掛ける設計エンジニアで、20年以上のキャリアを持つDan Clark氏が創業した。

そのなかで培った技術と経験をもとに開発された特許技術「V-Planar振動板」「True Flow テクノロジー」は、一般的な平面駆動ドライバーと比べても、ダイナミックレンジ、周波数特性、歪率において、より理想的な改善を実現できる。

OPPO Digital Japan

【ブースNo.2617】

OPPO Digital Japanは、エミライと共同ブースで出展する。シリコンバレーの中心部に本社を置くOPPO Digitalは、2004年創業のエレクトロニクスメーカー。主に米国、欧州、日本、オーストラリアの各地域で、ブルーレイ・ディスクプレーヤー、ヘッドホン、ヘッドホンアンプなどの高級音響・映像機器の製造開発および販売をしている。

2014年からはパーソナルオーディオ市場にも参入。フラッグシップモデルであるヘッドホン「PM-1」、DAC内蔵ポータブルヘッドホンアンプ「HA-2」は、欧州で最も権威ある賞であるEISAアワードを受賞した。ブースでは、スマートなデザインとハイレゾリューションな音質を両立した製品の数々を体験できる。

HDR制作ソリューションを提案

EIZO

【ブースNo.4506】

EIZOは、新規提案として「HDR制作ワークフロー」を展示。最終リファレンス用途に、高輝度1000nitsの開発中HDR対応モニターを参考出展する。同モニターは、放送・ライブ中継に適した「Hybrid Log Gamma」方式に加え、ネット配信動画や次世代ブルーレイコンテンツで標準化されている「PQカーブ（BT.2100/ST.2084）」方式にも対応。目で見た実世界に近い映像が体験できる。

また、編集・グレーディング用途を想定し、現行の31.1型DCI 4K解像度対応の「ColorEdge CG318-4K」がHDRのPQカーブに適応するようになる有償アップグレードを12月9日から開始。会場では実機を初公開する。



映像制作用モニター「CG318-4K」

昨年に続き、米BOXX Technologies社国内正規代理店のトーワ電機との共同出展では、BOXXワークステーションとともに、4K映像コンテンツを編集しながらリアルタイムでプレビュー確認できる制作環境を紹介する。

RAID
raid-japan.com
8Kの未来を創る
RED WEAPON
with HELIUM 8K S35 sensor
[LIMITED EDITION]
COLORFRONT
TRANSKODER
株式会社 RAID　info@raid-japan.co.jp　TEL:03-5765-2044
RED Digital Cinema と COLORFRONT SYSTEMS の国内正規販売代理店です

Inter BEE 2016 同時開催イベント Ⅰ

Inter BEE Forum 2016

事前申込制

会場：幕張メッセ・国際会議場2階 国際会議室

11月16日（水）

基調講演1		無料
10:20－11:20	4K・8Kロードマップ進捗と展望	
	"放送政策の動向と展望"　吉田 眞人氏 総務省　大臣官房審議官	
	"スーパーハイビジョン試験放送と東京五輪に向けての展望"　春口 篤氏 NHK　技術局長・副技師長	
	"当社の4K放送取り組みについて（仮題）"　小牧 次郎氏 スカパーJSAT　取締役　執行役員専務　有料多チャンネル事業部門長　兼　放送事業部門長	
基調講演2		無料
11:40－12:40	リオ五輪中継を振り返り、2020年を考える。	
	"リオ2016: Globoが自社史上最大規模のスポーツ中継を実現"　ジョセ・マヌエル・マリ氏 グロボグループ・エンタープライズ（TV Globo） スポーツテクノロジー・ディレクター	
	"リオオリンピック SHVコンテンツ制作を振り返る（仮題）"　東 嘉和氏 NHK 放送技術局 報道技術センター　中継部（撮影）副部長	
INTER BEE CONNECTED 基調講演		無料
13:00－14:00	日本における「DAZN」の市場展開と今後のビジネス展望（仮題）	
	ジョン・グレジャー氏 英パフォーム・グループ 「DAZN」CCO	
特別講演1		無料
15:00－17:00	災害多発する列島に対する放送とネットの役割	
	基調講演　災害多発期を迎えた国土に対する行政の取り組みと放送・メディアへの期待	
	飯泉 嘉門 氏 徳島県知事	
	パネルディスカッション	
	●モデレーター 須藤 修氏 東京大学大学院 情報学環教授・博士 一般社団法人スマートテレビ連携・地域防災等対応システム普及高度化機構 代表理事	
	●パネリスト 飯泉 嘉門氏 徳島県知事	
	柴田 健剛氏 NHK デジタルコンテンツセンター　副部長	
	有住 宣彦氏 テレビ熊本　報道編成制作局 局次長（報道担当）	
	三条 毅史 氏 TBSラジオ　編成局　編成部長	
	松本 邦久 氏 下田有線テレビ放送　常務取締役	
	鼻 良 氏 ヤフー 社長室 コーポレート政策企画本部　政策企画室　マネージャート	
	江口 清貴 氏 LINE　公共政策室　室長	

（11月8日時点／一部抜粋）



Inter BEE 2016 同時開催イベント

11月16日（水）	招待講演6　会場：幕張メッセ・国際会議場2階 国際会議室		無料
	10:30－12:00	アメリカ大使館商務部 特別フォーラム:Technology　米国最新テクノロジーのご紹介 挨拶 エリック・キッシュ氏 アメリカ大使館　商務部　上席商務官 "米国グリマーグラス社による映像伝送のための光スイッチソリューション"　オリンピオ・ジョセ・フランコ氏 アリス・グン氏　グリマーグラス　アジアビジネス開拓　ディレクター "オーディオ計測システム SoundCheckのご紹介"　寺岡 朋彦氏 オーディオテック "Panasasダイレクトフロー技術による高精細映像制作ワークフローの高速化"　落合 正隆氏 シーティーシー・エスピー ソリューション企画推進部　部長補佐	
11月17日（木）	招待講演1		無料
	10:00－10:40	IABM：放送・メディア業界の動向を追跡 ピーター・ブルース氏 IABM（国際放送機器工業会）　APAC理事	
	招待講演2		無料
	11:00－11:40	クラウドをコアにした「デジタル・トランスフォーメーション」がメディア業界に与えるインパクトとは何か？ トニー・エマーソン氏 マイクロソフトコーポレーション　ワールドメディア＆ケーブル　マネージング　ディレクター 畠山 大有氏 日本マイクロソフト　テクニカルエバンジェリスト（Cloud ＆ Media）	
11月17日（木）	招待講演3		無料
	12:00－12:40	ここまで来た！メディア業界におけるクラウドの最前線 ベン・マセック氏 アマゾンウェブサービス　グローバル・ビジネスデベロップメントメディア・エンターテインメント担当 北迫 清訓氏 アマゾンウェブサービスジャパン　技術本部　メディア・エンターテインメント部 部長／ソリューションアーキテクト	
	INTER BEE IGNITION 基調講演		無料
	13:00－14:30	INTER BEE IGNITION -Outlook 2020 基調講演 2020 × PopTech 中村 伊知哉氏 慶應義塾大学大学院　メディアデザイン研究科　教授 パネルディスカッション　テクノロジが切り拓くメディア＆エンタテインメントの未来 ●モデレーター 西村 真里子氏 SENSORS.jp　編集長　HEART CATCH　代表取締役 ●パネリスト 若林 恵氏 WIRED日本版　編集長 脇本 厚司氏 公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）文化事業部　事業部長　文化庁メディア芸術祭事務局　ディレクター 藤井 直敬氏 ハコスコ　代表取締役	

（11月8日時点／一部抜粋）

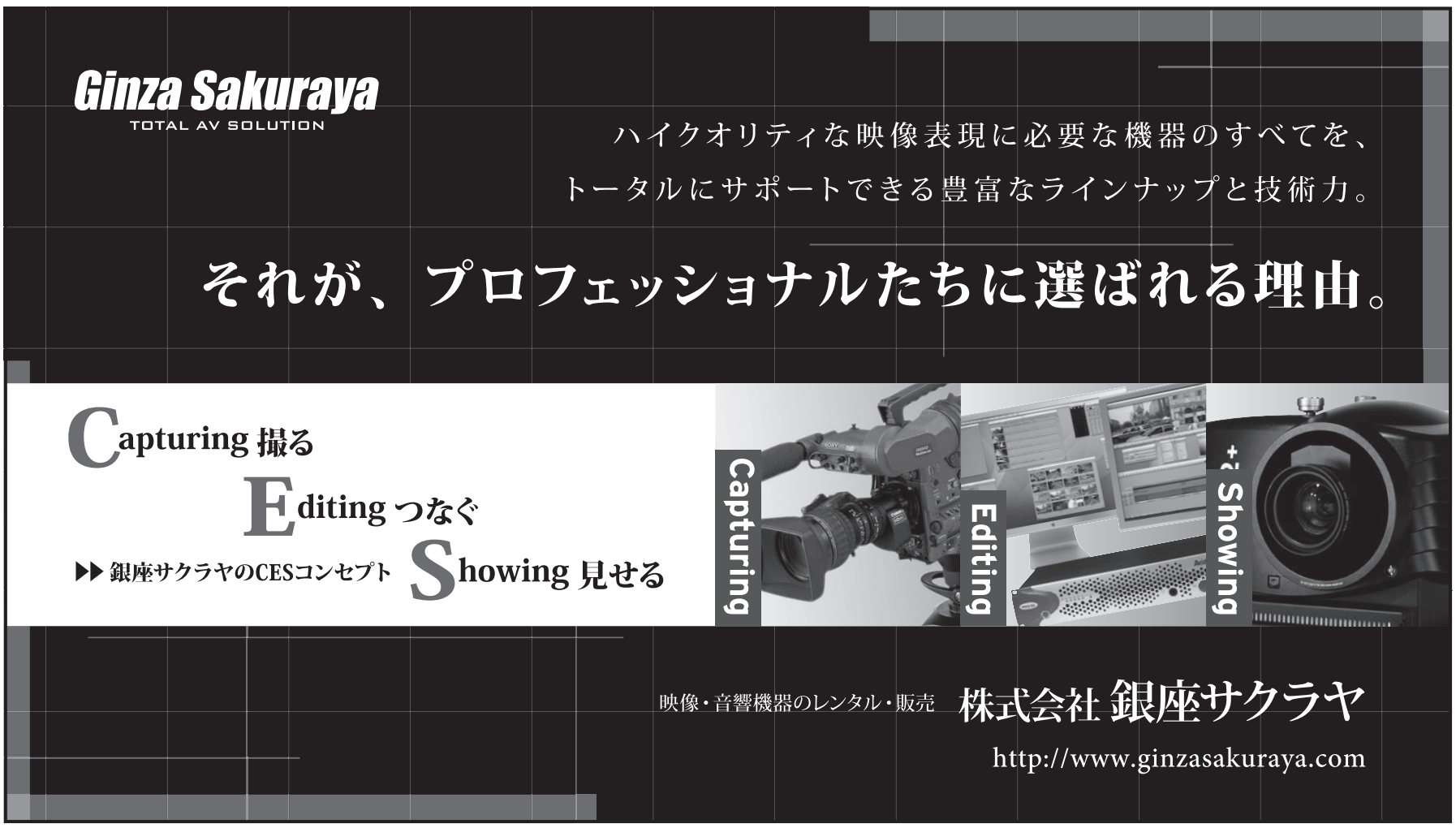




Inter BEE 2016 同時開催イベント

11月18日（金）	特別講演2		無料
	13:00－14:30	世界初！ IP伝送ライブ制作技術サミット　IPライブ伝送提案の各方式と今後の展開 ①概要説明・全体進行　吉井 勇氏 ニューメディア　出版局長 ②第1部 各方式の提案説明　AIMS（Alliance for IP Media Solutions）マイケル・クロンク氏 AIMS チェアマン グラスバレー　バイスプレジデント　コアテクノロジー ASPEN（Adaptive Sample Picture Encapsulation）モー・ゴヤール 氏 エバーツ　マイクロシステムズ ディレクター　プロダクト・マーケティング NMI（Network Media Interface）梶浦 照雄 氏 ソニー　イメージング・プロダクツ&ソリューションセクター　プロフェッショナル・ソリューション&サービス本部 メディアセグメント事業部門　ソリューション企画部 担当部長 IP-VRS（IP Video Router System）中村 和則 氏 メディアグローバルリンクス　シニアマネージャー NDI（Network Device Interface）ウィル・ウォーターズ 氏 NewTek, Inc. ディレクター　プロダクト　マーケティング & セールス　イネーブルメント ③第2部 パネルディスカッション　各方式の互換性やIP化のコスト、今後の展望を会場参加者と深める ●モデレーター 和田 雅徳氏 朋栄　取締役　研究開発・製造統括本部　研究開発本部　IP開発部 部長 ●パネリスト 宮沢 哲也氏 パナソニック　AVCネットワークス社　イメージングネットワーク事業部　商品戦略企画部 部長 および第1部登壇者	
	音響シンポジウム　会場：幕張メッセ・国際会議場1階 101会議室		無料
	13:00－16:00	音声修復（レストアリング）の技術と応用 ●司会・進行 沢口 真生氏 沢口音楽工房　サラウンド寺子屋塾　代表　Fellow Member of AES/ips 阿部 健彦氏 テレビ朝日　技術局付（テイクシステムズ　技術制作センター　部長） オーディオ・レストレーション・ワークフロー ジョナサン・ワイナー氏 Mワークス・マスタリング・スタジオ チーフエンジニア　アイソトープ エデュケーション・ディレクター　バークリー音楽大学 准教授 音楽制作における音源修復ソフトとマスタリング 田林 正弘氏 日本コロムビア　スタジオ技術部チーフマスタリングエンジニア リアルタイムでの原音復元技術がもたらすもの 須藤 高宏氏 マイクロサウンド　代表 デミキシング、人工知能とオーディオレストレーションの未来について by Zynaptiq ジェイソン・デーヴィス氏 イレヴンディメンションズメディアLLC　社長／CEO　Zynaptiq　国際セールス＆ビジネス部　次長	
チュートリアルセッション			事前申込制
会場：幕張メッセ・国際会議場1階「101会議室」			
11月16日（水）	映像チュートリアルセッション		聴講料： 1セッション2,000円（消費税込）、 2セッション3,000円（消費税込）
	セッションA		
	13:00－14:30	VR研究の現状と今後の展望 蔵田 武志氏 日本バーチャルリアリティ学会　理事 産業技術総合研究所　研究グループ長	
		VRコンテンツ制作技術：UnityとUE4 基礎編 熊谷 一樹氏 オー・エル・エム・デジタル　R&D	

（11月8日時点／一部抜粋）



Inter BEE 2016 同時開催イベント Ⅳ

11月16日（水）	セッションB	
	15:00－16:30	VRコンテンツ制作技術：UnityとUE4 応用編 熊谷 一樹氏 オー・エル・エム・デジタル　R&D
11月17日（木）	音響チュートリアルセッション	聴講料： 1セッション2,000円（消費税込）、 2セッション3,000円（消費税込）
	セッションC　トップPAサウンドデザイナーが語るLIVE SOUND	
		●モデレーター 半澤 公一氏 有限会社イノベーション　代表 ●パネリスト 藤井 修三氏 日本エム・エス・アイ　代表取締役会長 井上 朗氏 有限会社イノックスサウンドデザイン　代表取締役 菊地 徹氏 東京音響通信研究所　代表 西澤 勝之氏 クレア・ジャパン　代表取締役会長／CEO　日本舞台音響事業協同組合　理事長
11月17日（木）	セッションD　本当は教えたくない！カメラマン、ディレクターのための音声ポストプロダクションFINAL	
	13:30－15:00	アメリカ大使館商務部 特別フォーラム:Technology　米国最新テクノロジーのご紹介 染谷 和孝氏 有限会社ピー・ブルー　青山スタジオ サウンドデザイナー／リレコーディングミキサー

INTER BEE CONNECTED

会場：INTER BEE CONNECTED内オープンステージ

11月16日（水）	基調講演　国際会議場2階「国際会議室」より中継	
	13:00－14:00	日本における「DAZN」の市場展開と今後のビジネス展望（仮題） ジョン・グレジャー氏 英パフォーム・グループ「DAZN」 CCO
	企画セッション　※事前予約なしでご参加いただけます。　当日、会場に直接お越しください。	
	11:00－12:30	多様化が進む動画視聴スタイルの現状とテレビ ●モデレータ 奥 律哉氏 電通 電通総研　メディアイノベーションラボ　統括責任者 ●パネリスト 吉川 昌孝氏 博報堂DYメディアパートナーズ　メディア環境研究所　所長 加藤 薫氏 博報堂DYメディアパートナーズ　メディア環境研究所　メディアビジネス研究グループ　グループマネージャー 美和 晃氏 電通　電通総研　メディアイノベーション研究部長 森下 真理子 氏 電通　電通総研　メディアイノベーション研究部　主任研究員
	14:20－15:50	●モデレータ 境 治氏 メディアコンサルタント ●パネリスト 長崎 貴裕氏 インテージ　執行役員　MCA事業本部長 新妻 真氏 ビデオリサーチ　ソリューション推進局長 中村 義哉氏 ニールセン　エグゼクティブ アナリスト　Watch/デジタル
	16:10－17:00	テレビ離れが進む？若者の生態系 ●モデレーター 原田 曜平氏 博報堂　博報堂ブランドデザイン　若者研究所 リーダー ●パネリスト 永遠のサッカー少年／小野クン 慶應義塾大学　文学部3年 元甲子園球児／勝山クン 早稲田大学　社会科学部4年 超大学級のオタク／前田クン 慶應義塾大学　商学部4年 松井クン 慶應義塾大学　商学部1年 ハロプロが大好きです／油井サン 明治学院大学　法学部2年
11月17日（木）	10:30－11:20	テレビ局が切り拓く新たな報道 ●モデレーター 村上 圭子氏 NHK　放送文化研究所　メディア研究部　主任研究員 ●パネリスト 鎮目 博道氏 テレビ朝日　報道局　AbemaNews　特番・新番組開発担当プロデューサー事 清水 俊宏氏 フジテレビジョン　コンテンツ事業局　コンテンツデザイン部　ニュースコンテンツ　プロジェクトリーダー（ホウドウキョク担当） 山下 和彦氏 NHK　報道局　ネット報道部　チーフ・プロデューサー

（11月8日時点／一部抜粋）

Inter BEE 2016 同時開催イベント

11月17日（木）	11:40－12:30	新たなメディア戦略で、日本のスポーツシーンを照らす ●モデレーター 荒木 重雄氏 スポーツマーケティングラボラトリー　代表取締役&CEO ●パネリスト 亀井 宣晃氏 ジェイ・スポーツ　編成部長 尾関 亮一氏 データスタジアム　メディア事業推進部　シニアプロデューサー 須賀 久彌氏 プレゼントキャスト　代表取締役社長
	13:00－14:30	キー局の動画配信 2016 ●モデレーター 塚本 幹夫氏 ワイズ・メディア　代表取締役　メディアストラテジスト ●パネリスト 太田 正仁氏 日本テレビ放送網　インターネット事業局　インターネット事業部　次長 大場 洋士氏 テレビ朝日 総合ビジネス局　デジタル事業センター　アライアンス事業担当部長 田澤 保之氏 TBSテレビ　メディアビジネス局　映像コンテンツ事業部長 蜷川 新治郎氏 テレビ東京コミュニケーションズ　取締役 野村 和生氏 フジテレビジョン　コンテンツ事業局　コンテンツデザイン部　副部長
11月17日（木）	15:00－15:50	ライツホルダーから見た番組マルチユース ●モデレータ 入江 武彦氏 シンエイ動画　取締役 ●パネリスト 中井 秀範氏 日本音楽事業者協会　専務理事 荒川 祐二氏 NexTone　代表取締役COO
	16:10－17:00	ローカルからテレビの未来を考える ●モデレータ 村上 圭子氏 NHK　放送文化研究所　メディア研究部　主任研究員 齊藤 浩史氏 毎日放送　経営戦略室　メディア戦略部長 西田 二郎氏 読売テレビ放送　編成局　編成企画部長 服部 弘之 氏 東京メトロポリタンテレビジョン　事業局　クロスメディア推進部
11月18日（金）	10:30－11:20	多チャンネル放送事業者の新展開 ●モデレータ 江口 靖二氏 IPDCフォーラム　アドバイザー　合同会社江口靖二事務所 代表 ●パネリスト 石澤 潤氏 FOXネットワークス　放送制作技術部　部長 木村 貴行氏 キッズステーション　放送営業部 藤井 尚史氏 ソニー・ピクチャーズ エンタテイメント　放送業務・技術部
	11:40－12:30	ユーザ主役のライブストリーミング ●モデレーター 松浦 茂樹氏 スマートニュース　メディアコミュニケーション　ディレクター ●パネリスト 佐々木 大輔氏 LINE　執行役員 奥江 靖氏 Twitter Japan　執行役員　メディア事業本部長 綾尾 康嗣氏 Facebook Japan　ストラテジック　パートナーシップス　マネージャー
	13:00－14:30	配信プラットフォームのオリジナルコンテンツ戦略 ●モデレーター 西田 宗千佳氏 フリーライター／ジャーナリスト ●パネリスト 村本 理恵子氏 エイベックス・デジタル　取締役　デジタルビジネス本部　本部長 長澤 一史氏 HJホールディングス合同会社　チーフコンテンツオフィサー 塩田 周三氏 ポリゴン・ピクチュアズ　代表取締役社長 関 卓也氏 共同テレビジョン
	13:00－14:30	進むテレビ“再定義”への挑戦 ●モデレーター 倉又 俊夫氏 NHK 放送総局　デジタルコンテンツセンター　副部長 ●パネリスト 下川 猛氏 フジテレビジョン　コンテンツ事業局　コンテンツ事業センター　コンテンツデザイン部　主任 神原 一光氏 NHK　放送総局　放送総局　大型企画開発センター　ディレクターー 岸 遼氏 HAROiD　プランナー

（11月8日時点／一部抜粋）

Inter BEE 2016 同時開催イベント

11月18日（金）	16:10－17:00	テレビの未来はおもしろい？映像メディアの将来展望 ●モデレーター 境 治氏 メディアコンサルタント ●パネリスト 吉田 正樹氏 吉田正樹事務所 代表取締役 梅田 恵子氏 日刊スポーツ新聞社　メディア戦略本部　デジタル編集部 藤村 厚夫氏 スマートニュース　執行役員　メディア事業開発担当

第53回　民放技術報告会

無料

会場：幕張メッセ・国際会議場３階／主催・企画：日本民間放送連盟

	11月16日（水）		11月17日（木）		11月18日（金）	
第1会場「301号室」	10:30－17:20	制作技術部門	13:30－16:00	特別企画「テロップ・CGの最新事情 ～テレビのテロップはこうして作られる～」	10:30－17:00	制作技術部門
第2会場「302号室」	10:30－14:40	送出部門	10:30－11:50	送信部門	10:30－16:20	ラジオ・音声部門
	15:00－17:20	情報・ネットワーク部門	13:30－16:00	特別企画「テロップ・CGの最新事情 ～テレビのテロップはこうして作られる～」		
第3会場「303号室」	10:30－12:10	画像技術部門	10:30－12:10	回線・伝送部門	10:30-17:00	回線・伝送部門
	13:00－17:20	データ放送・デジタルサービス部門	13:30－16:00	特別企画「テロップ・CGの最新事情 ～テレビのテロップはこうして作られる～」		

INTER BEE IGNITION

11月17日（木）	INTER BEE IGNITION －Outlook 2020　会場：国際会議場2階「国際会議室」	
	13:00－14:30	基調講演　2020×Pop&Tech 中村 伊知哉氏 慶応義塾大学大学院　メディアデザイン研究科　教授
	11:00－12:30	パネルディスカッション　テクノロジが切り拓くメディア＆エンタテインメントの未来 ●モデレーター 西村 真里子氏 SENSORS.jp　編集長　HEART CATCH　代表取締役 ●パネリスト 若林 恵氏 WIRED日本版　編集長 脇本 厚司氏 公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）文化事業部　事業部長　文化庁メディア芸術祭事務局　ディレクター 藤井 直敬氏 ハコスコ　代表取締役
11月16日（水）	ステージデモ＆セッション　会場：展示ホール4 INTER BEE IGNITION内オープンステージ	
	11:00－13:00	先進映像協会 アワード 表彰式 2016 ●先進映像協会 グッドプラクティス・アワード 2016 ●先進映像協会 ルミエール・ジャパン・アワード 2016
	13:20－13:40	出展者プレゼンテーション　体感×体験をデザインする。 シンク・デザイン
	14:00－17:00	アドバンスト イメージング ユニバーシティ セミナー "VR, HDR and HFR： The AIS Activity Report"　ジム・チャビン氏 Advanced Imaging Society （先進映像協会 米本部） 会長 "3Dからみたの課題と展望"　河合 隆史氏 先進映像協会　日本部会　会長　早稲田大学　理工学術院　教授 "From Timely to Timeless Opportunity and the Future-proofing of VR"　ガイ・プリムス氏 The Virtual Reality Company CEO （映画「オデッセイ」VR制作）
11月17日（木）	10:20－10:40	アドバンスト イメージング ユニバーシティ セミナー キッズプレート
	11:00－12:00	メディアアートセッション　落合陽一に聞く、未来を切り開くメディアアートのチカラ 落合 陽一氏 メディアアーティスト　筑波大学助教 ●聞き手 西村 真里子氏 SENSORS.jp　編集長　HEART　CATCH　代表取締役
	12:20－12:40	出展者プレゼンテーション　画面から飛び出す！　～Augmented TV：拡張する映像体験～ NHK
	13:00－14:30	テレビマンが創るハイクオリティVRとメディアの未来　～本格始動したローカル局発VRビジネスの今～ GuruVRプレゼンテーション 上路 健介氏 ジョリーグッド　代表取締役　CEO セッション：ローカル局発のVRビジネスの今 ●モデレータ 上路 健介氏 ジョリーグッド　代表取締役　CEO ●パネリスト 尾野上 敦氏 テレビ西日本　技術局システム技術部長　兼　映像センターITコンテンツ部長 小川 哲司氏 北海道放送　メディアビジネス局　デジタルメディア部長 木ノ原 良太氏 東海テレビ放送　営業局営業戦略部　担当部長

（11月8日時点／一部抜粋）

Inter BEE 2016 同時開催イベント

11月17日（木）	15:00－16:00	4K8K大画面ビューイングの近未来 ●モデレーター 中村 伊知哉氏 慶応義塾大学大学院　メディアデザイン研究科　教授 ●パネリスト 中村 秀治氏 三菱総合研究所　企業・経営部門副部門長 吉沢 章氏 映像配信高度化機構　事務局長	
	13:00－14:30	ライブエンターテインメントセッション　音楽の新たな楽しみ方 ーライブエンターテインメントの未来 ●モデレーター 市來 孝人氏 SENSORS.jp　副編集長 ●パネリスト 鈴木 貴歩氏 ParadeAll　代表取締役　エンターテック・アクセラレーター 山田 智和氏 映像作家　映画監督 依田 謙一氏 日本テレビ放送網　事業局 事業推進部（兼） 社長室企画部	
	17:45－19:00	INTER BEE IGNITION NIGHT	参加無料　軽食・ドリンク付き
	10:20－10:40	出展者プレゼンテーション　マルチストリーム ライブスタジオ アプリ トゥエンティ・フォー・ストリーム	
11月18日（金）	11:00－12:00	ライブエンターテインメントセッション	
	12:20－12:40	出展者プレゼンテーション　VR向け360度ネイティブバイノーラル録音と再生アルゴリズムについて J.TESORI	
	13:00－14:30	VRで映像は進化するのか？視聴から“体験”へ 先駆者が語るVR ●モデレーター 久保田 瞬氏 Mogura　代表取締役社長　Mogura　VR編集長 ●パネリスト 渡邊 徹氏 全天球映像作家 「渡邊課」 三代 千晶氏 eje　代表取締役	
	15:20－15:20	出展者プレゼンテーション　CGリアルタイムライブ、これからの可能性 プレミアムアーツ	
	15:40－16:00	出展者プレゼンテーション　VR/360°マーケットプレイス&AI検索システムについて MOTIONELEMENTS	
	16:20－16:40	出展者プレゼンテーション　クロマキー撮影不要で合成用マスク画像を実現！ 新しい動画切り抜きサービス「動画切り抜き.com」のご紹介 エム・ソフト	

（11月8日時点／一部抜粋）

「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞

毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20～24ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税

海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。　詳しくはお問い合わせ下さい。

ウェブサイトからお申し込みができます
www.eizoshimbun.com

短期購読および複数購読のご案内

●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回）＋消費税
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）

●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること

※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は**10%**割引き　（1部、年間23,400円＋消費税）
・6–9部は**20%**割引き　（1部、年間20,800円＋消費税）
・10部以上は**30%**割引き（1部、年間18,200円＋消費税）

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com

Inter BEE 2016 出展者一覧 II

	社名	BOOTH
映像制作 放送関連機材部門	三和プロライト	5107
	サードウェーブデジノス	8210
	サーヴァンツインターナショナル／メラノックス テクノロジーズ ジャパン	5607
	ザクセル	7203
	Shenzhen Justek Technology	6205
	シグマ	3504
	システム計画研究所	5211
	シナジー	8316
	SHANPU CO., LTD.	5604
	シューテック・ジャパン	5610
	昭特製作所	3501
	CRI・ミドルウェア	5114
	JVCケンウッド	4608
	ジャパンケーブルキャスト	4709
	ジャパンマテリアル	8503
	ジュエ	6106
	JUNS	4716
	ZhiYun-Tech Co., Ltd	7415
	ZyCast Technology Inc.	3309
	須川映像技術研究所	5614
	スターコミュニケーションズ	5210
	スチューダー・ジャパン-ブロードキャスト	3118
	スネル・アドバンスト・メディア	3505
	住友電気工業	6504
	スリック	5310
	スリー・エム	5304
	西華デジタルイメージ	4501
	精工技研	5305
	セイコーソリューションズ	5109
	摂津金属工業	6107
	Sevenoak/Boya	6204
	Semtech Japan	5501
	センチュリー	5108
	Zhengzhou KEMA Movie-TV Opto-Electronics Co.,Ltd.	6512
	ソシオネクスト	3310
	ソニー／ソニービジネスソリューション	4406
	ソリトンシステムズ	6501
	タキゲン製造	5001
	立井電線	5609
	タックシステム	3311
	田中電気	6503
	ダイナコムウェア	4706
	DYNAMIC DRIVE POOL	7206
	CHIEF／映像センター	8312
	ティ・アイ・ディ	4714
	TBSテレビ	4505
	テイク	5307
	テクトロニクス	4607
	テクニカルファーム	6108
	テクノネット	3604
	テクノハウス	3503
	テレフォース	5409
	ディジオ	4704
	ディストーム	7212
	DJI Japan	5216
	デジキャス合同会社	6203
	DATATON	3408
	デュープレックス	5213
	一般社団法人電子情報技術産業協会　テープストレージ専門委員会	7204
	一般社団法人電波産業会	5503
	電波新聞社	6402
	Datavideo Japan	3406
	Too	5606
	東京エレクトロンデバイス／インレビアム	8314
	東芝	4212
	東通インターナショナル	8505
	東通クリエイティブ・ビジョン	8505
	トモカ電気	3404
	トモカ電気	3306
	トラフィック・シム	6502
	トープジャパン	5307
	ドラム	6310
	ドルビーラボラトリーズ	8406
	Doteck Digital Technologies	3302
	ナックイメージテクノロジー	7416
	NIXUS 北海道日興通信	6507
	ニコンシステム	6401
	ニッキャビ	6408
	日鐵住金溶接工業	4711
	日本アイ・ビー・エム	4510
	日本アンテナ	5101
	一般社団法人日本映画テレビ技術協会	6102
	一般財団法人日本気象協会	6407
	日本クアンタムストレージ	4508
	日本コントロールシステム	4504
	日本通信機	5206

	社名	BOOTH
映像制作 放送関連機材部門	日本デジタル・プロセシング・システムズ	4708
	日本ビデオシステム	3401
	日本フォームサービス	6405
	日本無線	5401
	ニューテック	7208
	NextoDI Co., Ltd.	6109
	ネットワークエレクトロニクスジャパン	5603
	ノブオ電子	5209
	ハイパーツールズ	6305
	Harmonic Japan 合同会社	7101
	バイオス	8407
	Backstage Equipment, Inc.	3301
	パコ電子工業	5411
	パナソニック システムネットワークス	6213
	光ネットワーク超低エネルギー化技術拠点	5508
	日立国際電気	7214
	日立製作所	7215
	ヒビノ／ヒビノクロマテック	3118
	ヒビノベスコ	3118
	平河ヒューテック	6302
	ヒロテック	6103
	Visual Research Inc.	8503
	ビデオサービス	6513
	ビデオトロン	6315
	ビーエスインターナショナル	6301
	PFU	7412
	ピーテック	5309
	Fidus Systems Inc.	8314
	Feiyu Tech Co., Ltd	6312
	フォトロン	4405
	フォントワークス	3605
	富士通	4401
	富士フイルム	7304
	富士ライト商事	5412
	芙蓉ビデオエイジェンシー	6314
	フルスコア	4715
	フロンティアファクトリー	8213
	ブラックボックス・ネットワークサービス	5509
	ブラックマジックデザイン	8216
	BlueBee	7213
	ブロードデザイン	8503
	プランネット	6408
	プロスパー電子	5002
	PROMISEテクノロジー	5215
	プロライト・ダウティ	5104
	平和精機工業	5415
	ベイテクノロジーズ	5201
	BELDEN Singapore Pte. Ltd.	3306
	ベルボン	5511
	朋栄	6515
	報映産業（伊藤忠ケーブルシステム）	5416
	放送技研	3603
	BOXX Technologies	4506
	Vocas Systems	5413
	Postium Korea	5203
	マイクロコム	5414
	マイクロボード・テクノロジー	4701
	マイルランテック	4507
	マウビック	6309
	松浦機械製作所	5303
	Matrox Electronic Systems Ltd.	8503
	マルミ光機	4707
	マンフロット	8409
	三井物産エアロスペース	6207
	三菱化学メディア	4710
	三友	8504
	ミハル通信	6307
	武蔵	5410
	武蔵エスアイ	4712
	武蔵オプティカルシステム	8408
	メイコーテック	6206
	メタデータ	4703
	メタルトイズ	6001
	メディア・ガーデン	4609
	メディアグローバルリンクス	5115
	メモリーテック	3608
	モリサワ	8317
	ユアサ工機	5514
	ユニテックス	6110
	横河ディジタルコンピュータ	5105
	よしみカメラ	3601
	ラグナヒルズ	3408
	ラムダシステムズ	5404
	ラリタン・ジャパン	5403
	ランサーリンク	7211
	理経	5613

	社名	BOOTH
映像制作 放送関連機材部門	RIP-TIE	5405
	リンディー・セールス	8110
	リーダー電子	4403
	ルミカ	6210
	RAID	7202
	レントアクト昭特	3501
	ロケット	4601
	Rohde & Schwarz	4511
	ローランド	3308
	ワキヤ技研	6301
	和成	5612
	WALLONIA EXPORT-INVESTMENT AGENCY	6406
ICT／クロスメディア部門	IHSE GmbH Asia/Itochu Cable Systems	8111
	IMD	7410
	IABM	7410
	アイティアクセス	7409
	IBC	8205
	一般社団法人IPTVフォーラム	7501
	アクセンチュア	8206
	Aspera, an IBM company	7001
	アドバンスト・メディア	8304
	アドビ システムズ	8502
	伊藤忠ケーブルシステム	7112
	伊藤忠テクノソリューションズ	7401
	インテル	8403
	インテル	8502
	インディゾーン	7405
	EVC	7113
	エクサインターナショナル	8602
	エクスプローラ	8405
	オムニバス・ジャパン	8604
	オーディオテック	8106
	Guntermann & Drunck GmbH	8112
	キュー・テック	8606
	Gnzo	8302
	KOBA 2017 (KOREA E & EX INC.)	8217
	サテライトコミュニケーションズネットワーク	8404
	シスコシステムズ合同会社	7002
	Cinegy	8113
	シーティーシー・エスピー	7001
	スキルアップ・ビデオテクノロジーズ	7502
	Spin Digital Video Technologies GmbH	8209
	Spectee	7403
	Dalet Digital Media Systems	8116
	テクノマセマティカル	8102
	テクノロジー・ジョイント	8209
	テレビ朝日	7102
	DXアンテナ	8401
	Datapath Limited	8212
	データブロード	7004
	とくしま4Kフォーラム実行委員会	8301
	日テレ・テクニカル・リソーシズ	8607
	日本テレビ放送網	7104
	日本ヒューレット・パッカード	7109
	日本ビジネスシステムズ	8402
	日本放送協会　放送技術研究所	7107
	一般社団法人日本ポストプロダクション協会	8603
	日本マイクロソフト	7302
	NIMBUS, Inc.	8309
	ねこじゃらし	8308
	ハイテクインター	8309
	HAROiD	7105
	Panasas, Inc.	7001
	パナソニック映像	8605
	PALTEK	8405
	PDシステム	8002
	ファイバーネットワーク	8208
	フェアーウェイ	7301
	フジテレビジョン	7411
	フジミック	7406
	フラッシュバックジャパン	8303
	プラットイーズ	8301
	北陸電話工事	7408
	香港貿易発展局	8201
	Macro Image Technology Inc.	8101
	MAYA SYSTEM	7106
	マルチスクリーン型放送研究会	7108
	MetaMoJi	7003
	メディアエッジ	8003
	メディアキャスト	8202
	ユニアデックス	8204
	ユニゾンシステムズ	7503
	吉積情報	7503
	レスパスビジョン	8601
	レッドハット	7402
	WOWOWエンタテインメント	8310

Inter BEE 2016 出展者一覧 I

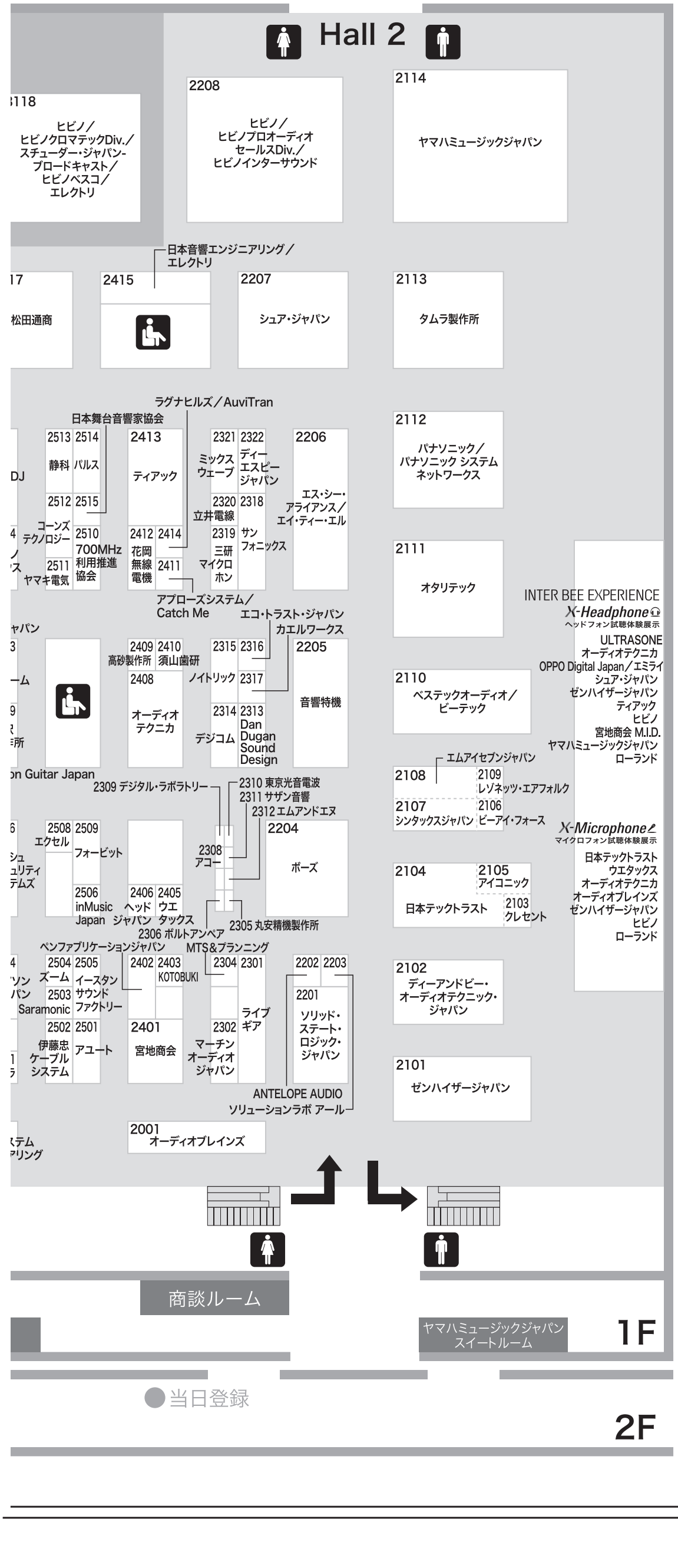
	社名	BOOTH
プロオーディオ部門	アイコニック	2105
	アコー	2308
	アコースティックフィールド	3212
	アツデン	3107
	アプローズシステム	2411
	アユート	2501
	ANTELOPE AUDIO	2202
	AMPHENOL AUDIO	3203
	伊藤忠ケーブルシステム	2502
	inMusic Japan	2506
	イースタンサウンドファクトリー	2505
	ウエタックス	2405
	エイ・ティー・エル	2206
	エクセル	2508
	エコ・トラスト・ジャパン	2316
	エス・シー・アライアンス	2206
	エヌティーアイジャパン	3112
	エムアイセブンジャパン	2108
	エムアイティー	3209
	エムアンドエヌ	2312
	MTS&プランニング	2304
	エレクトリ	2415
	ATL-KYOEI	3206
	AuviTran	2414
	オカダ・インターナショナル	3204
	オタリテック	2111
	音響特機	2205
	オーディオテクニカ	2408
	オーディオブレインズ	2001
	カエルワークス	2317
	キャッチミー	2411
	Gibson Guitar Corp. Japan	3110
	クリプトン・フューチャー・メディア	3215
	クレセント	2103
	グルーヴ	3108
	KS Beschallungstechnik GmbH	3205
	KOTOBUKI	2403
	コモドマッティーナ	3102
	コモドマッティーナ	3201
	コンチネンタルファーイースト	3210
	コーンズテクノロジー	2512
	サザン音響	2311
	Saramonic	2503
	三研マイクロホン	2319
	サンフォニックス	2318
	シグマシステムエンジニアリング	3001
	静科	2513
	シュア・ジャパン	2207
	シンタックスジャパン	2107
	スタジオ イクイプメント	3202
	須山歯研	2410
	ズーム	2504
	ゼンハイザージャパン	2101
	ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン	2201
	ソリューション ラボ アール	2203
	高砂製作所	2409
	立井電線	2320
	タックシステム	3214
	谷沢製作所	3109
	タムラ製作所	2113
	Dan Dugan Sound Design, Inc.	2313
	ティアック	2413
	TOA	3002
	テクノハウス	3114
	ディーアンドビー・オーディオテクニック・ジャパン	2102
	ディーエスピージャパン	2322
	デジコム	2314
	デジタル・ラボラトリー	2309
	東京光音電波	2310
	ドリーム	3113
	一般社団法人700MHz利用推進協会	2510
	日本エレクトロ・ハーモニックス	3208
	日本音響エンジニアリング	2415
	日本音響エンジニアリング／エレクトリ	2415
	日本テックトラスト	2104
	一般社団法人日本舞台音響家協会	2515
	ノイトリック	2315
	花岡無線電機	2412
	Pioneer DJ	3116
	パナソニック システムネットワークス	2112
	パルス	2514
	ヒビノインターサウンド	2208
	ヒビノ／ヒビノプロオーディオセールスDiv.	2208
	ビーアイ・フォース	2106
	ビーテック	2110
	フォービット	2509
プロオーディオ部門	フラウンホーファーIIS	3115
	ヘッドジャパン	2406
	ベステックオーディオ	2110
	ペン ファブリケーション ジャパン	2402
	ボッシュセキュリティシステムズ	3106
	ボルトアンペア	2306
	ボーズ	2204
	松田通商	3117
	丸安精機製作所	2305
	マーチンオーディオジャパン	2302
	ミウラ	3101
	ミックスウェーブ	2321
	宮地商会	2401
	メディア・インテグレーションMI事業部／ROCK ON PRO	3218
	メディアプラス	3207
	モアソンジャパン	3104
	ヤマキ電気	2511
	ヤマハミュージックジャパン	2114
	ライブギア	2301
	ラグナヒルズ	2414
	リワイアー	3213
	LUMINEX	3103
	レゾネッツ・エアフォルク	2109
	ローランド	3211
映像表現／プロライティング部門	アガイ商事	4302
	NHK	4111
	エム・ソフト	4101
	キッズプレート	4113
	CreateLED Japan	4304
	クリーク・アンド・リバー社	4109
	一般財団法人最先端表現技術利用推進協会	4303
	サンテック	4305
	SHENZHEN GLOSHINE TECHNOLOGY CO.,LTD.	4301
	SHENZHEN JINHUA OPTO-TECH	4205
	シネ・フォーカス	4110
	シンク・デザイン	4108
	J.TESORI	4106
	先進映像協会　日本部会	4103
	中国佛山市青松科技株式有限会社	4210
	トゥエンティ・フォー・ストリーム	4105
	東芝エルティーエンジニアリング	4211
	東芝ライテック	4211
	中西宣人 ＆ タッチエンス	4104
	日本映画テレビ照明協会	4209
	公益社団法人日本照明家協会	4307
	日本放送協会　放送技術研究所	4112
	プレミアムアーツ	4107
	プロ機材ドットコム	4306
	MOTIONELEMENTS	4102
	ROTOLIGHT	6311
	WONDER VISION TECHNO LABORATORY	4206
映像制作 放送関連機材部門	アイ・エス・エックス	6105
	iStarUSA Group	5108
	アイ・ディ・ケイ	6212
	アイ・ディー・エクス	6514
	アイディールシステムズジャパン	4606
	アイベックステクノロジー	5202
	アキティオUSA	8316
	アサカ	4404
	浅沼商会	6313
	アスク／ディストーム	7212
	アスコット	5111
	アストロデザイン	3506
	アズラボ	7506
	アテイン	6404
	ATOMOS	3219
	アビッドテクノロジー	3314
	アマゾン ウェブ サービス ジャパン	7303
	ALADDIN CO., LTD.	5610
	アルゴ	6409
	アルチザネットワークス	6511
	アルビクス	5003
	アルメディオ	4710
	アルモア	6304
	アンリツ	5106
	RFデザイン	3313
	池上通信機	7216
	石川トランク製作所	6209
	伊藤忠ケーブルシステム	5416
	イノコス	5504
	イノテック	6303
	イメージニクス	6315
	インターテック	5512
	インターネットイニシアティブ	4509
	EMCジャパン	6208
	ヴァイテックビデオコム	8319
映像制作 放送関連機材部門	ヴィレッジアイランド	6508
	エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン	5602
	AJA Video	7305
	一般社団法人映像情報メディア学会	6201
	EIZO	4506
	ATENジャパン	3405
	営電	5112
	エイムス ジャパン	8313
	エイム電子	5205
	Extron Electronics, Japan	6410
	SET	5502
	HGSTジャパン/G-Technology	7205
	NEC	5217
	エヌ・イー・ピー	3403
	NHKアイテック	6506
	NAB SHOW	8107
	NKKスイッチズ	5506
	NKL	3301
	エヌジーシー	4402
	エヌ・ティ・ティ アイティ	6509
	エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ	6509
	NTTエレクトロニクス	6509
	エミック	5302
	エムアイシー・アソシエーツ	4605
	エム・アンド・アイ　ネットワーク	3406
	エル・エス・アイ ジャパン	5301
	エルグベンチャーズ	8311
	エレクトリ	3118
	エレメンタルテクノロジーズ合同会社	7307
	エンルートM's	4503
	ACEBIL JAPAN	3401
	ACEBIL JAPAN	3301
	エーティ コミュニケーションズ	5515
	ATV	6412
	エーディテクノ	8109
	おいぬビジョン	4702
	OptoMedia Technology Inc.	6105
	Oracle Corporation	7413
	オンテック	6308
	オンリースタイル	5113
	OA研究所	7207
	加賀ソルネット	3604
	活知恵合同会社	5413
	加藤電気工業所	5306
	カナレ電気	5605
	カベラシステムズ	4602
	カリーナシステム	4603
	関西通信電線	5507
	関西放送機器展	4713
	カンバス	5406
	CALLA Co., Ltd.	5408
	カールツァイス	7417
	ガンスイ	5308
	キッセイコムテック	5102
	キャムキャスト7	5407
	キヤノン／キヤノンマーケティングジャパン	7306
	QNAP	6303
	共栄商事	5208
	共信コミュニケーションズ	8506
	銀一	6505
	CRYSTAL VIDEO TECHNOLOGY CO., LTD.	6101
	クレッセント	7210
	クロスイメージング	5214
	Gudsen	5510
	グラスバレー	3306
	グラスバレー	8315
	Grip Factory Munich	3301
	K-WILL	6211
	計測技術研究所	7209
	CAME-TV LIMITED	5505
	ケンコー・トキナ	5310
	ケンコープロフェショナルイメージング	5310
	江東電気	4609
	興和光学	5608
	国際照明	4609
	コスミックエンジニアリング	3502
	KONOVA	5307
	コベックジャパン	6403
	小峰無線電機	5207
	GoMax Electronics, INC.	5513
	サイバネテック	5402
	さくら映機	6510
	サムウエイ	3313
	三信電気	8215
	サンミューロン	6411
	三和映材社	5107

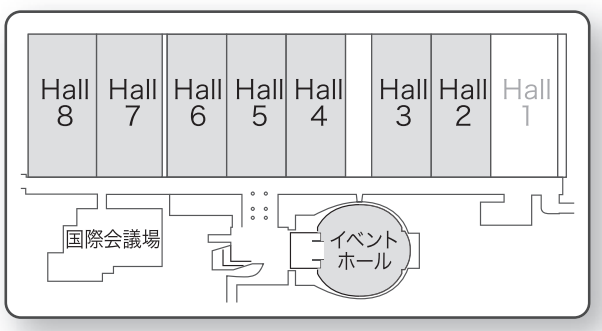
Inter BEE 2016
International Broadcast Equipment Exhibition

展示会場図　Hall 2

（2016.10.20時点）

プロオーディオ部門









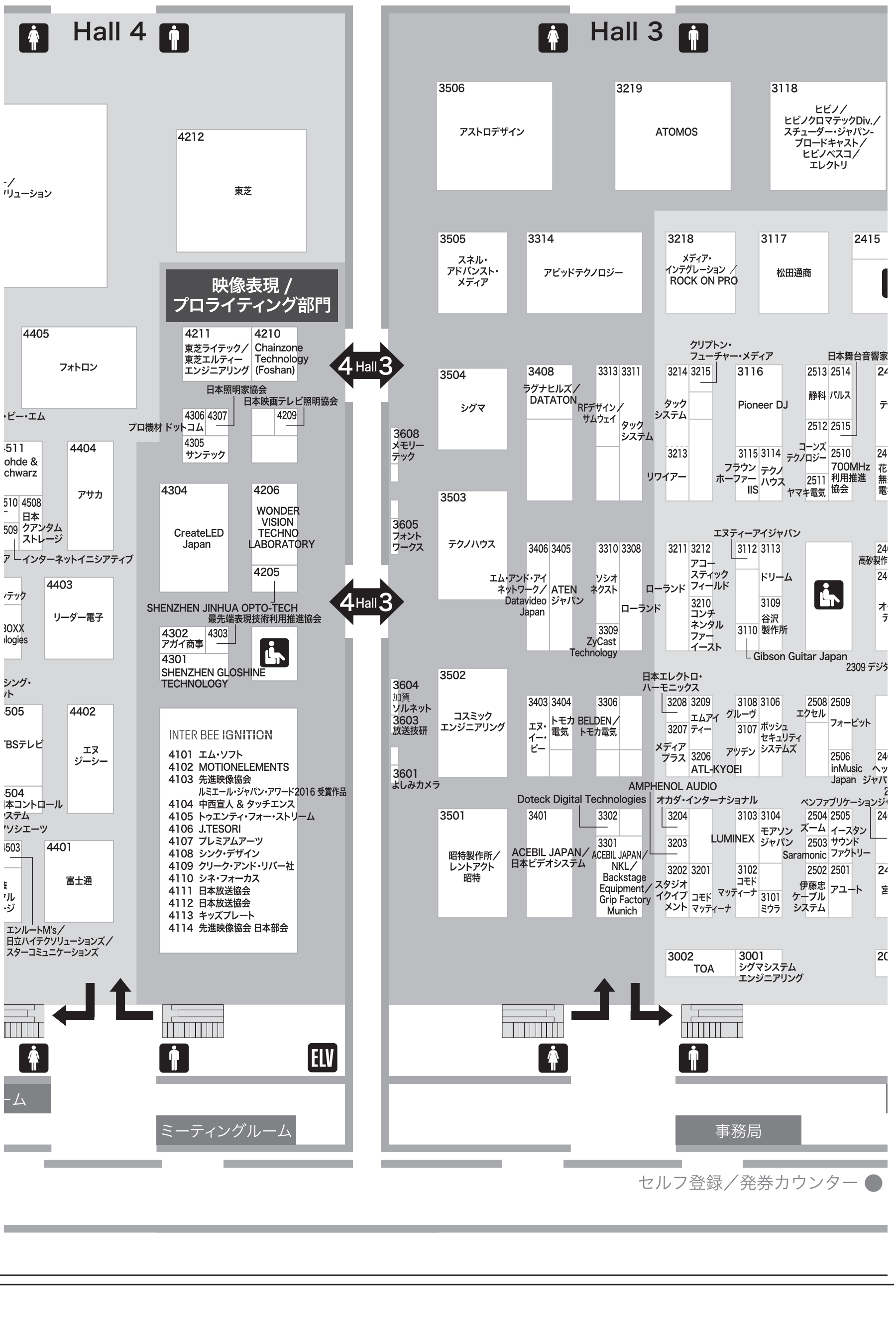


Inter BEE 2016
International Broadcast Equipment Exhibition

展示会場図　Hall 3-4

（2016.10.20時点）

映像制作／放送関連機材部門



Inter BEE 2016
International Broadcast Equipment Exhibition

展示会場図　Hall 5

（2016.10.20時点）



Inter BEE 2016
International Broadcast Equipment Exhibition

展示会場図　Hall 6-7

（2016.10.20時点）

映像制作／放送関連機材部門

Hall 7

7306 キヤノン／キヤノンマーケティングジャパン

7216 池上通信機

7417 カールツァイス
7416 ナックイメージテクノロジー
7305 AJA Video
7215 日立製作所
7214 日立国際電気

セールス
7507 メディアパートナー
7415 ZhiYun-Tech
7414 7412 7413 PFU Oracle
7304 富士フイルム
日本ビデオコミュニケーション協会
MERGLASS NETWORKS

7212 アスク／ディストーム
7213 BlueBee
7211 ランサーリンク

7209 計測技術研究所
7210 クレッセント
7208 ニューテック
7207 OA研究所
7101 Harmonic Japan
HGSTジャパン／G-Technology
7205
7206 DYNAMIC DRIVE POOL
7204 テープストレージ専門委員会 JEITA
7203 ザクセル

7506 アズラボ
7411 フジテレビジョン
7303／7307 アマゾンウェブサービスジャパン／エレメンタルテクノロジーズ
7202 RAID

let Digital Media Systems
7410 IMD
7409 アイティアクセス
7408 北陸電話工事
7302 日本マイクロソフト
chu Cable Systems
7403 Spectee
7503 ユニゾンシステムズ／吉積情報
7405 インディゾーン
7406 フジミック
7301 フェアーウェイ
7502 7501 IPTV フォーラム
7402 レッドハット
7401 伊藤忠テクノソリューションズ

INTER BEE CONNECTED
7102 テレビ朝日
7103 フジテレビジョン
7104 日本テレビ放送網
7105 HAROiD
7106 MAYA SYSTEM
7107 日本放送協会
7108 マルチスクリーン型放送研究会
7109 日本ヒューレット・パッカード
7112 伊藤忠ケーブルシステム
7113 EVC
7114 ニューフォリア

7004 データブロード
7002 シスコシステムズ
7003 MetaMoJi
7001 シーティーシー・エスピー／Aspera／Panasas

Hall 6

6515 朋栄
6213 パナソニック／パナソニック システムネッ

6514 アイ・ディー・エクス
6513 ビデオサービス
6512 Zhengzhou KEMA Movie-TV Opto-Electronics
6315 イメージニクス／ビデオトロン
6212 アイ・ディ・ケイ

6511 アルチザネットワークス
6510 さくら映機
サンミューロン
6411 6412 ATV
6410 Extron Electronics, Japan
6314 芙蓉ビデオエイジェンシー
6313 6312 浅沼商会 FeiYu Tech
6210 6211 ルミカ K-WILL
6209 石川トランク製作所

6509 NTTグループ
6508 ヴィレッジアイランド

6408 6409 アルゴ
ニッキャビ／プランネット
6407 日本気象協会
6310 6311 ドラム ROTOLIGHT
6309 マウビック
6208 EMC ジャパン
6207 三井物

6507 NIXUS 北海道日興通信

ミハル通信
6405 6406 日本フォームサービス WALLONIA EXPORT-INVESTMENT AGENCY
6307 6308 オンテック
6305 ハイパーツールズ
6404 アテイン
6206 メイコーテック
6205 6204 Sevenoa Boya Shenzhen

6506 NHKアイテック
6505 銀一

6503 田中電気
6504 住友電気工業
6502 トラフィック・シム
コペック ジャパン
イノテック／QNAP
6402 6403 電波新聞社
6303 6304 アルモア
6302 平河ヒューテック
6203 デジキャス
6401 ニコンシステム
6301
6201
ビーエスインターナショナル／ワキヤ技研
映像情報メディア学会
日本

6501 ソリトンシステムズ

6001 メタルトイズ

7Hall6
7Hall6

商談ルーム
事務局
プレゼンルーム

Inter BEE 2016
International Broadcast Equipment Exhibition

展示会場図　Hall 7-8

（2016.10.20時点）

映像制作／放送関連機材部門



シャープが16年度上半期連結決算発表

営業利益は黒字を達成

新社長「鴻海とのシナジー効果に期待」

シャープは1日、東京都中央区の大和証券ホールで戴正呉（タイ・セイゴ）新社長ら幹部が記者会見を開き2016年度上半期（2016年4―9月）の連結決算概要を、発表した。戴社長が決算発表の場で会見するのはこれが初めて。売上高は前年同期比28・1％減の9196億円、本業のもうけを示す営業利益は黒字の7900万円。純利益は454億円のマイナスで赤字だった。


戴社長

2016年度の通期業績予想は売上高2兆円。営業利益は257億円の黒字を見込む。純利益は418億円の赤字と予想した。

16年度上半期は、米アップルなど大手顧客向けの中小型液晶、カメラモジュールの販売減や、米国テレビ事業のブランドライセンス化、国内スマートフォンの低迷により売上高が減少した。しかし、第2四半期単体では売上高が前年比17・2％増の4962億円、営業利益250億円の黒字となった。カメラモジュールやディスプレーなどの販売増により、売上高は伸長した。構造改革の成果もあり、営業黒字となった。

液晶ディスプレーやテレビなどを含むディスプレーデバイス分野の売上高は前年同期比36％減の3575億円。テレビ用大型液晶やスマートフォン向け中小型液晶、液晶テレビなどの販売台数の減少が響き営業利益は146億円の赤字だった。大きな赤字額ではあるが、前年同期の赤字415億円に比べれば大幅に収益は改善した。

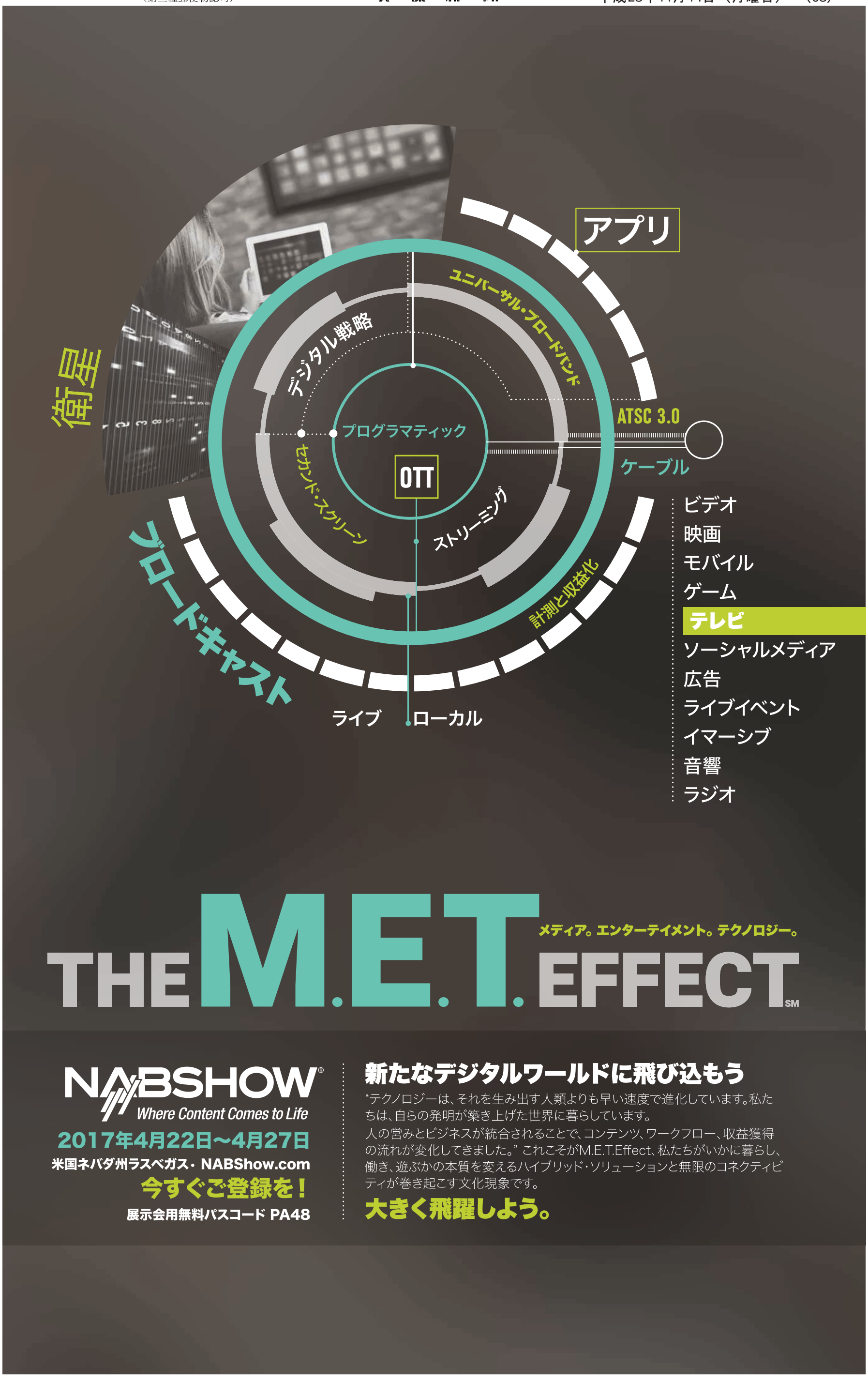
液晶テレビの上半期の販売台数は、216万台で前年同期の299万台から大幅に減少。売上高は899億円となった。

シャープはこの日の会見で、新コーポレート宣言「Be Original.」を発表し、グローバルブランドを目指すとした。野村勝明副社長は、16年上期までを「構造改革期」、下期以降は「成長軌道への転換期」と位置付け、親会社の鴻海（ホンハイ）とのシナジー発揮や、経営効率向上、重点事業への積極投資を実施し、18年の東証一部（現在は東証二部）復帰を目標とした。

野村副社長は、拠点の統廃合や子会社再編などの「経営資源の最適化」、分社化経営の徹底やサプライチェーン改革、取締役削減などの「責任ある事業推進体制」、報酬制度などの「人事制度の改革」を実行するとした。

成長に向けた施策については、有機ELディスプレーのパイロットラインへの投資や協力会社からの生産設備買い取りによる「キーテクノロジーのシャープ主導強化」、欧州のテレビ事業など「ブランド供与型」のビジネスの見直しも発表した。現在、北米では中国のハイセンス社などがシャープブランドのテレビを手掛けているなど、他社がシャープブランドでビジネス展開しているが、戴社長は、「シャープはグローバルブランドになりたい。なるべく自社のブランドを取り戻す」と語り、欧米でのテレビ事業の見直しを示唆した。

主力の複合機の販売減により、デジタルサイネージを含むビジネスソリューション部門の売上高は、前年同期比7・3％減の1596億円、営業利益は32・9％減の112



THE M.E.T. EFFECT℠

メディア。エンターテイメント。テクノロジー。

NABSHOW®
Where Content Comes to Life

2017年4月22日～4月27日

米国ネバダ州ラスベガス・ NABShow.com

今すぐご登録を！

展示会用無料パスコード PA48

新たなデジタルワールドに飛び込もう

“テクノロジーは、それを生み出す人類よりも早い速度で進化しています。私たちは、自らの発明が築き上げた世界に暮らしています。

人の営みとビジネスが統合されることで、コンテンツ、ワークフロー、収益獲得の流れが変化してきました。” これこそがM.E.T.Effect、私たちがいかに暮らし、働き、遊ぶかの本質を変えるハイブリッド・ソリューションと無限のコネクティビティが巻き起こす文化現象です。

大きく飛躍しよう。

「華麗なるリベンジ」

検事と詐欺師の刑務所仲間がタッグ

痛快でパワフルな復讐劇

韓国映画独特の社会派娯楽作品

『華麗なるリベンジ』（イ・イルヒョン監督・脚本）の惹句（じゃっく）は、「塀の中、検事×詐欺師コンビの復讐劇」とあり、テレビのワイドショー並みに目を引くタイトルだ。実際、痛快でパワフルな娯楽劇で、韓国映画の面白さを堪能させてくれる。元検事と詐欺師の刑務所仲間による2人のタッグ、発想にひねりが効いている。場違いな検事と詐欺師の予期せぬ出会いからして、何かしらおかしい。

（中川洋吉・映画評論家）



『華麗なるリベンジ』（刑務所内の元検事㊧と詐欺師）
©2016 SHOWBOX, MOONLIGHT FILM AND SANAI PICTURES CO., LTD ALL RIGHTS RESERVED.

◆人気作品

本作『華麗なるリベンジ』の興行成績は図抜けて良く、人気作品と呼ぶに値する。2016年上半期で970万人を動員、観客動員数はトップという大入り作品である。日本の観客動員数とは、けたが違う。

10月24日号の拙稿「世界の映画情勢」に記載されているように、韓国は人口5060万人に対し、入場者数は2億1730万人で、年間入場回数は4・3回。映画産業の振興ぶりは著しい。1つには、観客の7割が若年層と言われており、この層のリピートが全体を押し上げる要因である。人口の少ない韓国の映画力は端倪（たんげい）すべからざるものがある。

◆見どころ

まず、勧善懲悪思想が徹底し、これが韓国社会内の不公正に怒る庶民の留飲を下げさせる絶大な効果をもたらす。この思想のもつ、善が悪を斬る爽快さは、大衆娯楽として極めて重要である。

日本でもこのくらいのパワーを持つ作品の出現を期待したい。

◆2人の主役

ハメられた、ピョン検事（ファン・ジョンミン）は、暴力も辞さない熱血漢であり、正義はかくあるべしとの信念の持主。被疑者に向かい、「俺は高校で3年、大学で4年、司法浪人4年と、11年かけて検事となった」と息巻くハッタリのクササが何ともおかしい。

もう一方の詐欺師ハン（カン・ドンウォン）は、米国なまりがウリのいわゆるカングリッシュ（韓国式英語）を操る、とんでもなく軽い男。

ジョンミンは小柄な、整ったルックスの持主で、『傷だらけの2人』（2014年）で見せた、何とも情けない風体の感じが実によく出ている。ハンを演じるドンウォンは、本来はルックスがウリの韓流スターで、今回は正反対の軽薄なチンピラに扮（ふん）し、調子のよさ、押しの強さを面白おかしく演じている。

全く接点のない2人（あるとすれば検察の取調室）を漫才調にせず、彼らの個人プレーを基調とする演出スタイル。この手法、笑いを取るうまい仕掛けである。

◆韓国を写す鏡

映画は時代を写す鏡であり、本作では、面白いほど韓国文化の側面が描かれている。その上、同国の儒教に基づく縦型社会の歪（ゆが）みを痛いほど衝（つ）いている。

具体的には、韓国人の郷土意識の強さである。韓国は日本の地方に当たる道制を敷くが、自分の「道」に対する愛着が、日本人が想像する以上に強い。同道出身者は初対面から十年来の知巳のように振る舞う。

次に挙げられる特徴は、学閥である。同窓であれば、その親近度は極めて強い。同国での出世は、出身大学のネームバリュー次第であり、その頂点がソウル大学だ。

学閥のネットワークは広く、極めて強い。受験で両親が一番望むのは、ソウル大学ブランドであることは言うまでもない。この辺りは、旧制一高、東大閥の伝統を引継ぐ現在の東大閥で、彼らが政財界のトップを占める日本の現状と酷似している。

調べで、容疑者が死亡した日を置き、翌朝の取り調べで、容疑者が死亡した暴力団員であることが判明する。

反対派の印象を悪くさせる。日本でも目にする構図である。

たまたま、反対派の一員が、警察へ暴力を振るい逮捕される。警察は、その若い犯人を取り調べ、担当検事は暴力もいとわずガンガン攻める。その暴力検事が、自称・司法浪人4年のピョンであり、容疑者は、反対派に送り込まれた暴力団員であることが判明する。

日を置き、翌朝の取り調べで、容疑者が死亡した。



元検事　©2016 SHOWBOX, MOONLIGHT FILM AND SANAI PICTURES CO., LTD ALL RIGHTS RESERVED.

ハンは、出所後、ピョンの指示に従わざるを得ず、悪党検事ティーに、何らかのつてを頼りに詐欺師ハンが潜り込み、「ヤーヤー」と愛敬を振りまく。背広、ネクタイ、胸に検事バッチに眼鏡と、インチキぶりも堂に入り、とてもチンピラ詐欺師とは思えない。

ターゲットのもう1人は、同パーティー出席のピョン元検事のライバルであるヤン検事。接近の手口は、まず出身地で話を合わせる。次が大変重要だが、ソウル大学何年卒の肩書きの誇示、さらにひと押し、出身高校名と担任のあだ名。これだけお膳立てをすれば、いくら取り付く島もない検事でも相好を崩し、すっかり後輩と思い込んで、簡単に翌日のアポを受ける。

このアポさえ取れれば、もう勝ったも同然。事務所で書類を盗み〝ドロン〟。この書類を重要証拠として、再審請求をした元検事ピョンは、刑務所から法廷へ護送され、証人喚問で次々と悪党の足をすくう。

そして、無罪を勝ち取り、大願成就のメデタシメデタシで庶民は留飲を下げる。

ストーリーがよくでき、特に少し間を置くタイミングがコミックな味を醸し出す。この2人の人物造型が鮮やか。韓国映画独特の社会派エンターテインメントである。

反権力を盾に、〝売らんかな〟娯楽作の企画を通す、映画会社の厚かましさ。見せることに徹する韓国映画会社は、大した心臓である。記録的な入場者の多さも、分かる気がする。

為政者に文句をつけない日本では、このような企画を通す、若干教養が邪魔しない無鉄砲なプロデューサーの出現が待たれる。

〈文中敬称略〉

●訂正

▣『華麗なるリベンジ』は、11月12日からシネマート新宿ほか順次ロードショー

11月7日号21面の『ジュリエッタ』の記事中、「ベアの証言」の項で、《アンティアの現在の住所をもたらすことがあきらめとなる、》とあるのを《…もたらすことが作品の締めとなる、》に訂正します。

ファイルベースフロー、24時間いつでもおまかせ

オフライン＆オンライン用ファイル変換
各種機材レンタル（カメラ・HDD・メモリ）
大容量ファイル伝送

DataGate赤坂

24h OPEN!

Case1 ファイル変換
ファイルカメラ撮影からポスプロまで、ワークフローをしっかりつなぎたい！

Case2 機材レンタル
HDDレンタル、カメラレンタルも、まとめて手配したい！

Case3 ファイル伝送
収録スタジオから送ってそのまま作業をすすめたい！大容量ファイルを伝送で送りたい！

日々変貌し続け、複雑になっていくファイルベースフローのお悩みに即対応！
24時間いつでも対応「DataGate（データゲート）赤坂」開設!!

TEL：03-6631-6996　東京都港区赤坂3-15-5 アーベイン赤坂3F
e-mail：akasaka@datagate.tokyo　URL：http://datagate.tokyo
DataGate
Powered by IMAGICA

— NAB日本代表事務所 公認・全面バックアップによる —

NAB SHOW視察ツアー

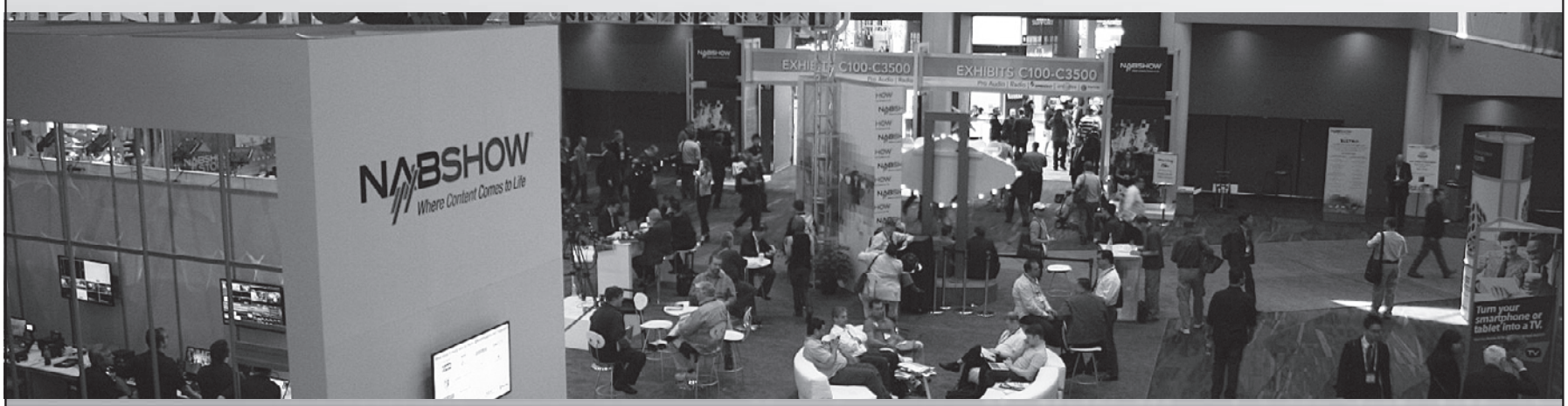
事前予約受付中!

NAB SHOW® Where Content Comes to Life

ご希望の方には過去のツアーレポートをお送り致します。

NAB（National Association of Broadcasters）が主催する世界最大の放送機器展NAB SHOWは2017年4月22日（土）から4月27日（木）〈展示会は24日から〉米国ラスベガスで開催されます。映像新聞社とJTBでは、今回もNAB日本代表事務所の協力により、NAB SHOWの視察を軸とした視察研修ツアーを企画致します。
NAB SHOWへは、すべての条件を満たした実績ある映像新聞社のツアーでご参加下さい。

- ◆過去40回・延べ4,000名以上
- ◆現地にて速報レポート配付
- ◆充実の企業視察訪問コース設定
- ◆出張に合わせた別日程での参加も可能



ツアー参加のメリット〈他にはないこのツアーだけのメリット〉

1 デイリーレポートを、映像新聞ブースで配布
映像新聞記者が会場で取材したホットニュースを、コンベンションセンター内の映像新聞ブースでツアー参加者にお渡し致します。毎日の膨大な情報は現地で整理、帰国後お急ぎのレポート提出にお役立て頂けます。

2 話題の展示会ブースは日本語同時通訳がご案内
話題の最新デジタル機器展示ブースを選択の上、日本語同時通訳が希望者をご案内致します。日本語での解り易い最先端情報の収集は映像新聞ツアーの特徴です。

3 事前説明会の開催
現地ラスベガスにてNAB展示会開催の前日、今回のNABの見所解説を含めた全体の事前説明会を開催致します。限られたラスベガス滞在中のお時間を有効にお使い下さい。

4 映像新聞記者が同行
NABへは年々異業種からの出展も増え、広く深くなってきております。映像新聞はいち早くこれらの情勢に対応。各視察コースでの企業訪問はもとより、NAB会場でも各ジャンル毎にベテラン記者を配し、的確かつスピーディーに情報収集・情報発信を行ってまいります。

5 現地ラスベガスでは特別セミナー開催
米国放送局の多メディア展開など、今後の日本のビジネス拡大と将来の方向性を確認頂くためのセミナーを映像新聞社が同時通訳付きで独自に開催致します。現地ならではの最新情報が得られます。

6 NAB会場内の映像新聞ブースには日本語通訳が待機
世界中の情報が集まる4日間。収集カタログも膨大な量になります。一時荷物預り場として、休憩所・ミーティングポイントとして映像新聞ブースをご活用ください。通訳の手配も承ります。

7 NAB SHOWの宿泊には隣接ホテルを
会場に隣接したホテル宿泊を予定しています。
限られたラスベガス滞在の中、時間を気にしながらのタクシー利用等は経費、時間共に大きな損失です。疲れたらご自分のお部屋に戻られる、歩いてNABを視察出来るホテルをおすすめ致します。
※他ホテルご宿泊をご希望の場合はお申込書に保手梅井をご記載下さい。

8 NAB登録手続きをすべて代行
展示会登録（Exhibits Only）はもちろん、Full Conferenceをご希望の方には日本語同時通訳付きで手配致します。Registration Badgeのピックアップまで代行し、ホテル到着後にお渡し致します。

9 企業視察コースもご用意
「放送」・「映像配信」・「映像制作」などの最先端技術を取り入れた米国企業を訪問することにより、業界最先端事情を学ぶことができます。業界に精通した通訳もつきますのでご安心下さい。

10 その他（個人出張ベースにもご対応）
会社のご出張を兼ねてのNAB参加の方々にも対応致します。
上記ツアーメリットを活かしての独自のオリジナルプラン、出張日程の設定も可能です。JTB「NABツアーデスク」担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

旅行企画　株式会社映像新聞社

現在、旅行代理店と旅程を調整しております。
詳細が決まり次第、本紙、WEBなどで発表いたします。

日本映像美術協議会が開催

調布で体験型イベント

映像美術の裏側を紹介

広告、写真、映画、演劇、テレビ、展示、そしてスタジオなどの美術製作関連会社で運営する、日本映像美術協議会（JVA）は、11月23―27日に東京・調布の「調布市文化会館たづくり」において、「JVA FESTA 2016」を開催する。

「JVA FESTA」は、JVA主催による映像美術の体験展示会で、2年に1度開催しており、今年が5回目となる。普段はなかなか目にすることのできない映像美術の裏側を見せる。

同イベントでは、JVA所属各社の業務の取り組みを紹介するほか、学生作品の展示、企画から廃棄処分まで映像美術に携わるすべての分野からの作品を対象とした「第12会JVA賞」の応募作品を一堂に展示する。

会場では、衣装やメイクなどの「体験コーナー」、テレビに登場した「大河ドラマ実物セット」の特別展示などを用意する。入場無料。

【日時】11月23日／14―18時、24―26日／10―18時、27日／10―15時
【会場】調布市文化会館たづくり 南・北ギャラリー（東京都調布市小島町2―33―1）
【詳細】www.jva.gr.jp

16年「ケーブルマン」決定

CRIが記念講演と贈呈式

ケーブルテレビ情報センター（CRI）では、「VR（バーチャルリアリティー）が作りだす、新たな映像文化と新規産業の創造」で、講師はカディンチ社長の青木崇行氏が務める。続いて贈呈式および懇親会が開かれる。

記念講演会のテーマは1988年から毎年12月に「ケーブルマン・オブ・ザ・イヤー」を実施しているが、今年度の「ケーブルマン・オブ・ザ・イヤー2016」（第29回）が決定、12月8日に贈呈式および記念講演会を開く。

【日時】12月8日／講演会＝15―16時、贈呈式＝16時15分―16時45分、懇親会＝17時―18時30分
【会場】日本記者クラブホール（B・Cホール）／日本プレスセンター（東京都千代田区内幸町2―2―1）
【参加費】（記念講演会＋懇親会）CRI会員1万5000円、非会員2万5000円、学生1000円
【問い合わせ】CRI事務局☎03―6264―1945

CTY塩治社長ら3氏受賞

「ケーブル4K」も特別賞

29年目を数え、この間に88人・団体が選ばれている。選考は「ケーブルマン・オブ・ザ・イヤー選考委員会」において検討され、今年度は、以下の3人ならび1団体（特別賞）が受賞した。

【ケーブルマン・オブ・ザ・イヤー】▽松浦隆一氏／秋田ケーブルテレビ代表取締役社長▽塩冶憲司氏／シー・ティー・ワイ代表取締役社長▽岡本光正氏／東北新社 取締役 常務執行役員
【特別賞】「ケーブル4K」チャンネル

電通グループが事業再編へ

プロモーション領域強化

デジタル起点型で成長戦略

電通と子会社の電通テックは、プロモーション領域における成長戦略を加速させるため、2017年1月4日付で事業再編を実施する。電通本社のイベント&スペース・デザイン局と電通テックのイベント&スペース関連部署を統合し、現在のたづくり 南・北ギャラリー（東京都調布市小島町2―33―1）

電通テックを「電通ライブ」に改組改称するとともに、新たに「電通テック」を設立する。

電通グループでは、イベント&スペース開発を「リアルな体験価値を創造する事業」としてとらえ直し、イベント専業社として国内最大の売上高となる「電通ライブ」を立ち上げる。専門の人材とノウハウの集約により、企画からデザイン、演出・制作・運営、デジタルマーケティングとの統合までをワンストップでプロデュースする高度なサービスを展開する。

新生「電通テック」は、各種プロモーション施策をデジタル技術で統合する、デジタルプロデュース力を強化することで、顧客の多様なデジタルマーケティング需要に応えるサービスを提供する。

DCEXPOで「特別賞」発表

イノベーティブ・テクノロジーズ

8K VRなどが受賞



「イノベーティブ・テクノロジーズ」特別賞受賞者と主催関係者

デジタルコンテンツ技術をテーマとした国際イベント「デジタルコンテンツEXPO2016」（日本科学未来館）開催期間中の10月27日、「イノベーティブ・テクノロジーズ2016」採択技術の中から、「Industry」「Culture」「Human」「選考委員特別賞」の4つの特別賞を選考し、贈賞した。

これは経済産業省が、コンテンツ技術イノベーション促進事業の一環として、日本の優れたコンテンツ技術の発掘・評価を目的に実施しているもの。今年は、20件の優れたコンテンツ技術を採択。「デジタルコンテンツEXPO2016」で展示され、来場者は実際に体験することができた。

この選定技術20件の中から、特にコンテンツ産業以外の分野への波及・応用の可能性が高いものが「特別賞」に選ばれた。

特別賞は次のとおり。

☆「Industry」＝採択技術なし（対象となる技術が多数あることにより、評価の点数が選定基準値に満たなかったため）

☆「Culture」＝AIによる白黒写真の自動色付けシステム（早稲田大学 基幹理工学部 石川研究室）

☆「Human」＝失禁体験装置（電気通信大学ロボメカ工房VR部隊失禁研究会）

☆「選考委員特別賞」＝8K・VRシアター（NHKメディアテクノロジー／NHKエンタープライズ）

自社ショールームで24、25日に展示会

田中電気

田中電気は11月24、25の両日、同社ショールームで展示会「TANAKA DENKI EXPO」を開く。

今回は「Touch The Future」をコンセプトに、放送・無線、スマートフォン、ドローン、セキュリティーなど同社が扱うさまざまな分野の製品や技術、サービスを紹介する。

【詳細】www.tanaka-denki.co.jp/t-expo/2016.html

移転

◇tvkコミュニケーションズ（12月1日付）［新住所］横浜市西区西平沼町6―1／☎045―548―4515（メディア事業部）



下請かけこみ寺
相談無料　全国48か所　秘密厳守　匿名相談可能

お近くの「下請かけこみ寺」は　0120-418-618
消費税の価格転嫁に関する相談は　0120-300-217
〈受付時間〉平日9:00～12:00 / 13:00～17:00（土日・祝日・年末年始を除く）携帯電話・PHSからもご利用になれます。

中小企業が抱える取引上の様々なトラブルへの対応や裁判外紛争解決手続（ADR）による迅速な紛争解決を、専門の相談員や弁護士が無料で行っています。安心してご相談ください。

相談事例
●消費税引き上げ分を価格に転嫁できない。●支払日を過ぎても代金を支払ってくれない。
●長年取引をしていた発注元から突然取引を停止された。

「下請かけこみ寺」の詳細や、メール・webによる相談申込は　下請かけこみ寺　検索
https://www.zenkyo.or.jp/kakekomi/

さらに、適正な下請取引のためのノウハウを解説する、
価格交渉サポートセミナー及び個別指導を開催しています。
●信頼関係を崩さずスムーズな価格交渉
●下請代金の支払遅延・減額などを防止
●コスト増加分の価格転嫁
価格交渉力　検索
http://www.zenkyo.or.jp/kakakusupport/index.htm
公益財団法人全国中小企業取引振興協会

SONY



4Kに新たな感動を。

臨場感とリアリティーに満ちた心揺さぶる4K映像をお届けしたい。
ソニーは映画、番組制作からライブ中継まで、さまざまな映像領域に向けたHDR対応機器をラインアップ。
4Kの美しさを最大限に引き出し、4K+HDRという映像美の新たな時代を切り開きます。



4K+HDRの時代はソニーから。

4K

・CineAlta Premium 4Kカメラ **F65RS** ・CineAlta 4Kカメラ **PMW-F55** ・マルチフォーマットポータブルカメラ **HDC-4300**
・55型 業務用4K有機ELモニター **PVM-X550** NEW ・30型 4K有機ELマスターモニター **BVM-X300**
・マルチフォーマットスイッチャープロセッサー **XVS-8000** NEW ・マルチポートAVストレージユニット **PWS-4500** ・4Kメモリープレーヤー **PMW-PZ1**

ソニーのプロフェッショナル/業務用映像制作機材の情報は sony.jp/pro-cc/
広告掲載商品に関するお問い合わせは 業務用商品相談窓口［フリーダイヤル］携帯電話・PHS・一部のIP電話からは050-3754-9550/受付時間:9～18時（土・日・祝日・弊社休業日は除く） 0120-788-333

◎ソニーおよびSONYは、ソニー株式会社の登録商標です。CineAltaは、ソニー株式会社の商標です。 ◎その他記載されている商品名は、各社の商標または登録商標です。本文中ではTM、®マークは明記していません。◎商品を安全に使うため使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。◎掲載商品の仕様や外観は改良のため予告なく変更することがあります。

Sony Business Solutions Corporation
ソニービジネスソリューション株式会社